

審査意見への対応を記載した書類（8月）

（目次）看護学研究科 看護学専攻（M）

【大学等の設置の趣旨・必要性】

1. <養成する人材像、ディプロマ・ポリシーと修了後の進路の関係が不明確>

育成しようとする人材像やディプロマ・ポリシーにおいては教育者・研究者・臨床実務における管理者を設定しているが、修了後の進路については認定看護管理者や専修学校の教員を想定しており、研究者を養成することに重点を置いておらず、齟齬（そご）があるため、適切に改めること。（是正意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2. <ディプロマ・ポリシーの記載が不適切>

ディプロマ・ポリシーについて、本来どのような能力を身に付けるべきか記載するところを、どのような人材であるかが記載されているため、適切に改めること。（是正意見）・・3

3. <学生確保の見通しが不明確>

学生確保の見通しについて、県内他大学の既設修士課程の定員充足率や本学在学学生・県内医療機関等への進学意向調査をみる限り、在学学生で卒業後すぐの進学を希望する者や医療機関等で進学を希望する者が必ずしも多いとは言えず、学生確保を十分に行えるか懸念が残る。このため、他大学の状況等や、例えば、遠隔教育の技法等本研究科の特色として挙げられている点を踏まえた分析を行うなど、学生確保の見通しについて改めて具体的に説明すること。（是正意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

4. <学位の英語名称が適切か不明確>

学位の英語名称を「Master of Nursing in Science.」としているが、学位名称の趣旨や国際通用性について具体的に説明の上、必要に応じて適切に改めること。（是正意見）・・6

5. <入学者選抜方法の妥当性が不明確>

社会人特別選抜試験は一般入学試験より試験科目数が少ないが、どのような考え方で試験科目の差異を設けているか不明確である。アドミッションポリシーに定める能力・適正をどのように確保しているのか具体的に説明すること。（改善意見）・・・・・・・・・・・・・7

【教育課程等】

6. <教育課程の編成方針が不明確>

教育課程の編成方針について以下のとおり不明確な点があるので、それぞれ具体的に説明するか、適切に改めること。（是正意見）

- (1) ディプロマ・ポリシー及びカリキュラムポリシーに掲げた看護学教育を主導できる能力や看護の教育能力について、教育能力を担保すると思われる看護学教育特論は選択科目となっているなど、養成すべき人材像やディプロマ・ポリシーが教育課程内でどのように担保されているか不明確である。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

- (2) 従来の看護教育学における専門領域の視点にとどまらない教育・研究指導を行う旨の記載があるが、差異が不明確である。・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- (3) 専門科目が全て選択科目になっており、専攻領域における高度の専門的知識・能力が体系的に学修できるか疑義がある。・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- (4) 「看護学演習Ⅰ・Ⅱ」は、看護学特論での学修を基盤とすると記載があるが、例えば実際の授業科目で対応する科目の1つと思われる「基礎看護学演習Ⅰ」は履修条件が定められていないなど、適切な履修条件が設定されているか不明確な授業科目がある。・・・・・・・・・・15

7. <論文審査の体制が不明確>

論文審査体制については、2月に口頭又は筆記による最終試験及び論文審査を行うとあるが、最終試験の審査基準や実施体制が不明確であるので、具体的に説明すること。

(是正意見)・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

8. <遠隔教育の実施体制が不明確>

大学院設置の必要性の説明において、遠隔教育の技法も取り入れていく旨記載があるが、具体的にどのように取り入れるのか不明確であるので、具体的に説明すること。

(改善事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

9. <シラバスの記載内容が不適切>

シラバスの記載内容について、例えば「基礎看護学演習Ⅰ」では各回の授業項目や授業方法の内容が同一、「看護学教育特論」は成績評価方法が総合評価となっており具体的な評価基準や割合が不明確であるなど、不適切と思われる事例が散見される。全体について見直し、必要に応じて適切に改めること。(改善事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

【教員組織等】

10. <教員組織の将来構想が不明確>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(是正意見)・・・・・・・・・・33

【名称、その他】

特になし

【専任教員資格審査への対応】

1. 教員の就任に関する変更について・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

(是正意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

1. <養成する人材像、ディプロマ・ポリシーと修了後の進路の関係が不明確>

育成しようとする人材像やディプロマ・ポリシーにおいては教育者・研究者・臨床実務における管理者を設定しているが、修了後の進路については認定看護管理者や専修学校の教員を想定しており、研究者を養成することに重点を置いておらず、齟齬（そご）があるため、適切に改めること。

(対応) 設置の趣旨の3. 修了後の進路において、研究者を養成する表現が十分ではなかったの
で加筆した。

学部卒業後すぐに進学する学生には、論文作成を通して研究的な手法の基盤づくりができるように教授し、修了後は、臨床現場においてさまざまな課題に取り組むことができる力を身に付けさせるような指導を目指す。また、主たる入学対象である看護師経験を持つ学生には、臨床現場での課題に研究的手法をもって対処できる力を身に付けさせるとともに、看護系大学等の教員を目指す学生には、教育者として、また研究者としての道を考慮した指導を行うこととしている。

そのため、修了後の進路の記述に、大学等の看護学の教育現場や臨床現場に戻ったとき、それぞれの現場において、研究的な手法を用いて看護学教育や臨床実践の課題に取り組むことを期待する旨の記述を追記した。また、専修学校の教員においても、大学院で得た知識を基に看護教育の質を高めるとともに、研究者として継続的に研究に取り組むことが期待される旨を追記した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(9頁)</p> <p>3. 修了後の進路</p> <p>本大学院は、主として現任の看護師や専修学校の教員を対象としている。したがって、<u>大学院を修了した学生は、本大学院の学修をとおして高めた研究力や教育力さらには管理能力を活かして、自らの臨床の場に戻り、看護職集団において日々の看護実践の質を高める牽引役として活躍するとともに、研究的な手法を用いて、臨床実践の場の課題に取り組み、さらには多職種との連携・調整の役割を果たすことも期待される。</u></p> <p>また、<u>看護管理学領域を修了した者は「認定看護管理者認定審査」の受験資格が得られることから、質の高い組織的看護サービスを提供すると同時に、看護管理者としての資質と看護の水準の向上に大きく貢献していくものと思われる。</u></p>	<p>(9頁)</p> <p>3. 修了後の進路</p> <p>本大学院は、主として現任の看護師や専修学校の教員を対象としている。したがって、<u>大学院を修了した学生は、本大学院の学修をとおして高めた研究力や教育力さらには管理能力を活かして、自らの臨床の場に戻り、看護職集団において日々の看護実践の質を高める牽引役として活躍するとともに、多職種との連携・調整の役割を果たすことが期待される。</u></p> <p>また、<u>看護管理学領域を修了した者は「認定看護管理者認定審査」の受験資格が得られることから、質の高い組織的看護サービスを提供すると同時に、看護管理者としての資質と看護の水準の向上に大きく貢献していくものと思われる。</u></p>

<p>さらに、<u>専修学校の教員で本学大学院に進学し修了した学生は、専修学校に戻って本大学院で学修した教育方法及び研究方法を基盤にした科学的根拠に基づいた、より高いレベルの看護学教育を実施するとともに、研究者として継続的に研究に取り組むことが期待される。</u></p> <p>一方、本大学院修士課程を修了後、博士後期課程に進学しさらなる研究を深めることによって、本学をはじめ他大学の教員や看護学の研究者を目指す者が出てくることも期待される。こうした学生に対しては、<u>研究指導教員が適切で丁寧なアドバイス等の支援をしていく所存である。</u></p>	<p>さらに、<u>専修学校の教員で本学大学院に進学し修了した学生は、専修学校に戻って本大学院で学修した教育方法および研究方法を基盤にした科学的根拠に基づいた、より高いレベルの看護学教育を実施していくことが期待される。</u></p> <p>一方、本大学院修士課程を修了後、博士後期課程に進学しさらなる研究を深めることによって、本学をはじめ他大学の教員や看護学の研究者を目指す者が出てくることも期待される。こうした学生に対して、<u>研究指導教員は適切で丁寧なアドバイス等の支援をしていく所存である。</u></p>
--	--

(是正意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

2. <ディプロマ・ポリシーの記載が不適切>

ディプロマ・ポリシーについて、本来どのような能力を身に付けるべきか記載するところを、どのような人材であるかが記載されているため、適切に改めること

(対応) ご指摘のようにディプロマ・ポリシーについての現記述「〇〇できる人材」という表現は不適切であった。このため、どのような能力を身に付けるかという表現に改め、5つのポリシーの趣旨は変えず、「〇〇の能力を有している。」とした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(5頁～6頁)</p> <p>3) ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</p> <p>以上を踏まえ、本大学院のディプロマ・ポリシーを次のとおりとする。</p> <p>① 広い視野と深い人間理解に基づく臨床実践能力と看護学の教育能力を有している。</p> <p>② 健康に対する社会的ニーズを認識し、課題解決のために科学的探究心に根差した研究能力を有している。</p> <p>③ 社会の多様な状況に応じた看護を提供するために、高い倫理観に基づいた看護実践能力を有している。</p> <p>④ 保健・医療・福祉チームの一員として、多職種集団と連携できる能力を有している。</p> <p>⑤ 保健・医療・福祉の分野の種々の課題に対し、判断力、調整力、改革力を伴う優れた看護の管理能力を有している。</p>	<p>(5頁～6頁)</p> <p>3) ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</p> <p>以上を踏まえ、本大学院のディプロマ・ポリシーを次のとおりとする。</p> <p>① 広い視野と深い人間理解に基づき、臨床実践力に裏付けられた看護学の教育能力を發揮できる人材</p> <p>② 健康に対する社会的ニーズを認識し、課題解決のために科学的探究心に根差した研究能力を發揮できる人材</p> <p>③ 社会の多様な状況に応じた看護を提供するために、高い倫理観に基づいた看護の専門性を發揮できる人材</p> <p>④ 保健・医療・福祉チームの一員として、多職種集団と連携する中で看護の専門性を發揮できる人材</p> <p>⑤ 保健・医療・福祉の分野の種々の課題に対し、判断力、調整力、改革力を伴う優れた看護の管理能力を發揮できる人材</p>

(是正意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

3. <学生確保の見通しが不明確>

学生確保の見通しについて、県内他大学の既設修士課程の定員充足率や本学在学学生・県内医療機関等への進学意向調査をみる限り、在学学生で卒業後すぐの進学を希望する者や医療機関等で進学を希望する者が必ずしも多いとは言えず、学生確保を十分に行えるか懸念が残る。このため、他大学の状況等や、例えば、遠隔教育の技法等本研究科の特色として挙げられている点を踏まえた分析を行うなど、学生確保の見通しについて改めて具体的に説明すること。

(対応) 病院等医療機関の看護職者及び本学学生の進学意向調査の結果から、一定程度の進学者の確保は可能とも考えているが、ご指摘を踏まえ、進学する際の修学支援に関するアンケート調査結果から、オンライン授業を効果的に実施することにより特に社会人の入学が十分に期待できること。加えて、岩手県内及び北東北近隣地域からの至便性のある盛岡駅徒歩5分という地理的な利点等を追記し、地道な広報活動にも力を入れ定員3名の学生確保に努めていきたい。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(8頁～9頁)</p> <p>3) 本学看護学科の学生の進学意向 ・・・・(略)・・・</p> <p><u>以上のような調査の結果から、本大学院研究科が構想している「基礎・地域連携看護学領域」「臨床・応用看護学領域」「看護管理学領域」の3つの研究領域の設定は、岩手県の現状を踏まえると妥当な計画であるものと考えている。</u></p> <p><u>また、前述の病院等医療機関管理者からの聴き取り調査における、進学する際の修学支援に関するアンケート調査結果を見ると、オンライン授業の実施を望む声は大きく、県土の広い岩手県においては、Webを用いたZoomによる研究課題の遠隔指導や講義、LMSやGoogle classroom等を活用した資料の事前配布、課題提出などのオンライン授業を実施することにより、特に社会人の入学が十分に期待できるものと分析している。なお、本学では、学部教育においても既にタブレットを使ったデジタル教科書を導入しており、大学院教育においても教員並びに本学看護学科からの進学者にとってスムーズな移行ができるものと考えている。</u></p>	<p>(8頁)</p> <p>3) 本学看護学科の学生の進学意向 ・・・・(略)・・・</p> <p><u>以上のような調査の結果から、本大学院研究科が構想している「基礎・地域連携看護学領域」「臨床・応用看護学領域」「看護管理学領域」の3つの研究領域の設定は、岩手県の現状を踏まえると妥当な計画であるものと考えている。</u></p>

新	旧
<p>一方、本学大学院は、盛岡駅西口から徒歩5分の好立地に位置し、盛岡市内や県内の主要都市からの通学至便の地にある。また、看護系大学院が設置されていない、岩手県隣接の青森県三八上北地域や秋田県内陸地域からも十分通学可能な圏内にある。</p> <p>以上のように、遠隔授業等の効果的な利用や土曜日開講、地理的利点などにより、県内はもとより近隣の北東北地域からの進学が期待され、入学定員3名の確保は十分可能であると考えている。</p>	

(是正意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

4. <学位の英語名称が適切か不明確>

学位の英語名称を「Master of Nursing in Science.」としているが、学位名称の趣旨や国際通用性について具体的に説明の上、必要に応じて適切に改めること。

(対応) 学位の英語名称については「Master of Science in Nursing」と改めた。修士課程において科学的に看護学という学問を追究し修めたという意味合いを伝えるためである。日本においては「Master of Nursing Science」という表記や Science という表記が省略されているものも散見されるが、他の学問においても修士の多くが「Master of Science in ○○」と表記されるようになってきており、「修士の一般名称+in+専門分野」という形の国際通用性が高い表記に変更する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(10 頁)</p> <p>3. 学位の名称</p> <p>学位の名称は、「<u>修士(看護学)</u>」とし、英語名称は、</p> <p>「Master of <u>Science in Nursing</u>」とする。</p>	<p>(10 頁)</p> <p>3. 学位の名称</p> <p>学位の名称は、「<u>修士(看護学)</u>」とし、英語名称は、</p> <p>「Master of <u>Nursing in Science</u>」とする。</p>

(改善意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

5. <入学者選抜方法の妥当性が不明確>

社会人特別選抜試験は一般入学試験より試験科目数が少ないが、どのような考え方で試験科目の差異を設けているか不明確である。アドミッションポリシーに定める能力・適正をどのように確保しているのか具体的に説明すること。

(対応) 社会人特別選抜においては英語を課していない。社会人の入学者には、臨床・教育の場で問題意識をもって修士で学ぶ意思の明確な人材を求めることを重視しているためであり、出願資格は、3年以上の臨床経験と何らかの研究発表、学会発表があることとしている。

また、社会人の入学については、アドミッションポリシーの(3)看護学の教育・研究者として、看護学や看護実践の発展に貢献する意欲を有する人、及び(4)看護学や看護実践に対する高い探求心を持ち、主体的に学修する意欲を有する人、の資質を特に重要視した。「3. 入学制度」の<入学資格>(7)にあるように、本大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等あるいはそれ以上の学力があると認めたものとしており、さらに専門科目の小論文及び口頭試問も含む面接において、アドミッションポリシーの(3)(4)に関係した能力・適正を選抜時の重要な判断基準としたいと考えている。

なお、入試においては課さない英語についても軽視しているわけではなく、入学後には国外の文献の精読をとおして、英語力の向上に取り組む計画である。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(28 頁) 6. 選抜方法 ○ <u>一般入学試験は、筆記試験として英語、看護学及び研究課題についての小論文並びに口頭試問を含む面接を実施する。</u> ○ <u>社会人特別選抜試験は、小論文及び口頭試問を含む面接を実施する。</u> <u>社会人特別選抜においては、臨床・教育の場で問題意識をもって修士で学ぶ意思の明確な人材を広く求めるために、3年以上の臨床経験と何らかの研究発表等の経験を条件としている。</u> ○ <u>一般入学試験においては、アドミッション・ポリシーの(1)～(4)を、社会人特別選抜試験においては、特に(3)(4)の資質を重視する。</u> なお、出願に当たっては、出願前に研究指導を受ける専攻分野を決め、必ず指導を受け	(26 頁) 6. 選抜方法 <u>一般入学試験は、筆記試験として英語、看護学及び研究課題についての小論文並びに口頭試問を含む面接を実施する。</u> <u>社会人特別選抜試験は、小論文及び口頭試問を含む面接を実施する。</u> なお、出願に当たっては、出願前に研究指導を受ける専攻分野を決め、必ず指導を受けようとする

新	旧
ようとする教員と面談を行うこととする。	

(是正意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

6. <教育課程の編成方針が不明確>

教育課程の編成方針について以下のとおり不明確な点があるので、それぞれ具体的に説明するか、適切に改めること。

(1) ディプロマ・ポリシー及びカリキュラムポリシーに掲げた看護学教育を主導できる能力や看護の教育能力について、教育能力を担保すると思われる看護学教育特論は選択科目となっているなど、養成すべき人材像やディプロマ・ポリシーが教育課程内でどのように担保されているか不明確である。

(対応) 学生が自身の学修を進めて行く上で必要と考える科目を自由に履修できるよう共通科目の選択を増やすことを考慮していたが、ご指摘のとおり、「看護学教育特論」は、臨床現場、教育現場を問わず、それぞれの現場でディプロマ・ポリシー及びカリキュラムポリシーに掲げた看護学教育を主導できる能力や看護の教育能力を担保する上で重要な授業科目であり、当該科目を必修科目に位置付けることに変更する。それに伴って「教育課程等の概要」「シラバス」等の関連部分を修正した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(11頁～13頁) 1) 共通科目 「共通科目」は、看護実践力、教育力、研究力に有機的につながるよう、理論・専門的知識を学ぶことのできる11科目を配置した。 「共通科目」のうち、「看護研究方法特論」「臨床倫理特論」「多職種連携特論」「看護学教育特論」は、本研究科で学ぶすべての学修者にとって、本学の特色であり、かつ広い視野で看護をとらえるために共通して必要な科目として位置付け、必修科目とした。 「看護研究方法特論」は、看護研究の理論と一連のプロセスの導入部分とし、「臨床倫理特論」では、看護倫理観に基づいた専門性を発揮するため、実践者、研究者、教育者、管理者としての根幹ともいえる態度を身に付けることを狙い、「多職種連携特論」では、教育・管理・指導力を備えた看護職のリーダーとして活躍するとともに、保健・医療・福祉チームの一員として必要な知識やスキルを身に付けること	(11頁～12頁) 1) 共通科目 「共通科目」は、看護実践力、教育力、研究力に有機的につながるよう、理論・専門的知識を学ぶことのできる11科目を配置した。 「共通科目」のうち、「看護研究方法特論」「臨床倫理特論」「多職種連携特論」は、本研究科で学ぶすべての学修者にとって、本学の特色であり、かつ広い視野で看護をとらえるために共通して必要な科目として位置付け、必修科目とした。 「看護研究方法特論」は、看護研究の理論と一連のプロセスの導入部分とし、「臨床倫理特論」では、看護倫理観に基づいた専門性を発揮するため、実践者、研究者、教育者、管理者としての根幹ともいえる態度を身に付けることを狙い、「多職種連携特論」では、教育・管理・指導力を備えた看護職のリーダーとして活躍するとともに、保健・医療・福祉チームの一員として必要な知識やスキルを身に付けること

新	旧
<p>を狙い、配置している。また、「看護学教育特論」では、看護専門職者として受け継がれてきた教育の歴史及びその変遷、これからの看護学教育の課題と可能性を学ぶ中で、自ら教育者として後輩を育てるための知識と自覚を養うことを狙い、配置した。</p> <p>「<u>看護理論特論</u>」では、看護の専門職者として看護理論に裏付けられた看護実践能力を涵養することを狙いに、看護の諸理論を学ぶ科目として配置した。</p> <p>「<u>統計学特論</u>」「<u>質的研究方法特論</u>」は、その後の研究科目へ有機的につながるように、看護研究の量的研究手法と質的研究手法を学ぶことによって、看護の専門職者としての研究的視点を持ち、看護に対する科学的探究心を養う基礎となることを狙いに配置した。</p> <p>「<u>コンサルテーション特論</u>」は、看護の専門性を発揮しつつも、保健・医療・福祉チームの一員として協働する際に必要なスキルを身に付けることを狙いとして配置した。</p> <p>「<u>災害看護特論</u>」は、平成 23(2011)年の東日本大震災で未曾有の被害を受けた岩手の状況やその後の看護に関する課題について、「<u>医療社会学特論</u>」は、東北地方の<u>地域医療の現状、地域包括ケアと社会福祉・保障制度の関係</u>について、「<u>フィジカルアセスメント特論</u>」は、看護の高度な実践能力と判断力を持ち、<u>広い視野と柔軟な思考力を備えた看護学のリーダーとしての指導力や態度</u>を養うことを狙い、配置した。</p> <p>2) 専門科目</p> <p>社会の多様な状況に応じた看護を提供するために、看護の専門職者として高い倫理観を備え、<u>各専門領域を学んでいく上で核となる、学生の知識と研究を有機的に結び付けるための科目として「専門科目」を配置している。</u></p>	<p>を狙い、配置している。(追加)</p> <p>「<u>看護理論特論</u>」では、看護の専門職者として看護理論に裏付けられた看護実践能力を涵養することを狙いに、看護の諸理論を学ぶ科目として配置した。</p> <p>「<u>統計学特論</u>」「<u>質的研究方法特論</u>」は、その後の研究科目へ有機的につながるように、看護研究の量的研究手法と質的研究手法を学ぶことによって、看護の専門職者としての研究的視点を持ち、看護に対する科学的探究心を養う基礎となることを狙いに配置した。</p> <p>「<u>コンサルテーション特論</u>」は、看護の専門性を発揮しつつも、保健・医療・福祉チームの一員として協働する際に必要なスキルを身に付けることを狙いとして配置した。</p> <p>「<u>災害看護特論</u>」は、平成 23(2011)年の東日本大震災で未曾有の被害を受けた岩手の状況やその後の看護に関する課題について、「<u>医療社会学特論</u>」は、東北地方の<u>地域医療の現状、地域包括ケアと社会福祉・保障制度の関係</u>について、「<u>フィジカルアセスメント特論</u>」は、看護の高度な実践能力と判断力を持ち、<u>広い視野と柔軟な思考力を備えた看護学の教育能力、研究能力</u>を養うことを狙い、配置した。</p> <p>2) 専門科目</p> <p>社会の多様な状況に応じた看護を提供するために、看護の専門職者として高い倫理観を備え、<u>各専門領域を学んでいく上で核となる、学生の知識と研究を有機的に結び付けるための科目として「専門科目」を配置している。</u></p>

新	旧
<p>小児、老年等の分野に係る「<u>看護学特論Ⅰ・Ⅱ</u>」では、看護の実践者として研究的視点を持ち、看護に対する科学的探究心を培い、専門的知識、態度、論理的思考を統合し看護実践に応用することのできる能力を養うことを狙い配置した。</p> <p>「<u>看護学演習Ⅰ・Ⅱ</u>」では、看護学特論での学修を基盤として、社会の多様な状況に応じた看護を提供するために、臨床現場が抱える倫理的諸問題やこれまでの研究成果や課題、看護実践の質を分析、評価する意義と方法等について学修することを狙い配置している。</p> <p>看護管理学領域では、「<u>看護管理学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</u>」において、看護管理者及び認定看護管理者の基礎となる看護管理論・看護組織論・看護政策論について学修し、さらに「演習」においては、その実践的な応用能力を養い、知識と研究を有機的に結び付けた管理能力を身に付けることを狙い配置している。</p> <p>なお、「<u>専門科目</u>」では、<u>自らの研究領域の特論Ⅰ・Ⅱ</u>及び「<u>演習Ⅰ・Ⅱ</u>」については、<u>必ず履修するとともに、学生が自らの研究領域以外にも幅広い知識を獲得できるよう、指導教員の意見も聞きながら、他の授業科目を自由に選択することができるよう配慮した。</u></p>	<p>小児、老年等の分野に係る「<u>看護学特論Ⅰ・Ⅱ</u>」では、看護の実践者として研究的視点を持ち、看護に対する科学的探究心を培い、専門的知識、態度、論理的思考を統合し看護実践に応用することのできる能力を養うことを狙い配置した。</p> <p>「<u>看護学演習Ⅰ・Ⅱ</u>」では、看護学特論での学修を基盤として、社会の多様な状況に応じた看護を提供するために、臨床現場が抱える倫理的諸問題やこれまでの研究成果や課題、看護実践の質を分析、評価する意義と方法等について学修することを狙い配置している。</p> <p>看護管理学領域では、「<u>看護管理学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</u>」において、看護管理者及び認定看護管理者の基礎となる看護管理論・看護組織論・看護政策論について学修し、さらに「演習」においては、その実践的な応用能力を養い、知識と研究を有機的に結び付けた管理能力を身に付けることを狙い配置している。</p> <p>なお、「<u>専門科目</u>」では、<u>学生が自らの研究領域以外にも幅広い知識を獲得できるよう、指導教員の意見も聞きながら、履修科目を選択することとし、必修科目は配置していない。</u></p>

(2) 従来の看護教育学における専門領域の視点にとどまらない教育・研究指導を行う旨の記載があるが、差異が不明確である。

(対応) 「従来の看護教育学における専門領域の視点にとどまらない・・・」との記述は、基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、地域看護学など、看護基礎教育課程における領域ごとの教育を指している。これらの専門領域ごとの教育の否定のような誤解を与える表現であった点を反省している。本旨は、領域ごとの教育・研究指導に加えて、専門領域を超えて、あるいは関連領域をまたいで、協働して教育・研究指導を行うことを表現したつもりであった。

ご指摘を受け、「従来の看護教育学における専門領域の視点にとどまらない」という表現を削除し、「看護教育の基本型である基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、地域看護学などの専門領域に分けて展開する教育とともに、領域をまたぎ、関連する専門領域が協働して教育・研究指導を展開する点に特長を持たせている。」旨に修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(16 頁～17 頁)</p> <p>1. 教育方法</p> <p>..... (略)</p> <p><u>共通科目は、個々の学生の学修目標に合わせて履修できるように配置している。また、専門科目は、「基礎・地域連携看護学領域」「臨床・応用看護学領域」「看護管理学領域」の3つの看護学領域を有機的に結び付けた教育を行う。看護教育の基本型である基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、地域看護学などの専門領域に分けて展開する教育とともに、領域をまたぎ、関連する領域が協働して問題解決に組みやすくなる点に特長を持たせている。こうした履修上の仕組みの中で、研究目的、研究対象、方法論(調査、実験、介入、質的分析など)について、双方向的な形態できめ細やかな教育・研究指導を行うこととしている。(複数指導教員制を取入れて幅広い助言・示唆を行う等)。</u></p> <p><u>一方、専門領域の特論及び演習においては、最新の研究動向を紹介するとともに、学生も主体的に文献探索を行うことにより、文献講読や</u></p>	<p>(16 頁)</p> <p>1. 教育方法</p> <p>..... (略)</p> <p><u>共通科目は、個々の学生の学修目標に合わせて履修できるように配置している。また、専門科目は、「基礎・地域連携看護学領域」「臨床・応用看護学領域」「看護管理学領域」の3つの看護学領域を有機的に結び付けた教育を行う。従来の看護教育に見られる基礎看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、地域看護学などの専門領域に分けられた教育の視点にとどまらず、研究目的、研究対象、方法論(調査、実験、介入、質的分析など)について、双方向的な形態で教育・研究指導を行うこととしている。</u></p> <p>専門領域の特論及び演習においては、最新の研究動向を紹介するとともに、学生も主体的に文献探索を行うことにより、文献講読やプレゼ</p>

新	旧
<p>プレゼンテーションを通じて能動的な学修姿勢を涵養する。</p> <p>また、講義形式の科目においては、最新の知識や技術を教授するため、その領域を専門とする教員によるオムニバス方式の授業も取入れる。</p> <p>修士論文作成のための科目として「特別研究科目」があり、論文作成に向けての各自の研究課題の明確化と具体的な研究の進め方、研究計画書の書き方等を教授する。</p>	<p>ンテーションを通じて能動的な学修姿勢を涵養する。</p> <p>講義形式の科目においては、最新の知識や技術を教授するため、その領域を専門とする教員によるオムニバス方式の授業も取入れる。</p> <p>修士論文作成のための科目として「特別研究科目」があり、論文作成に向けての各自の研究課題の明確化と具体的な研究の進め方、研究計画書の書き方等を教授する。</p>

(3) 専門科目が全て選択科目になっており、専攻領域における高度の専門的知識・能力が体系的に学修できるか疑義がある。

(対応) 専門科目のすべてが選択科目となっており、履修上の説明が不十分で誤解を与えるものであったと反省している。必修、選択の区分設定の趣旨は、専門領域以外の関連する授業科目を自由に選択し、広い視野で看護を学修してほしいとの意図であった。

本学研究科は、学生が選択する専攻領域について、体系的な学びを促すことを基本としており、各専門領域の看護学特論での学修を基盤に、各演習を学ぶ履修体系としている。その上で、各学生の学修の方向性の中で関連・関心のある専門領域の授業科目についても選択できるようにしている。ご指摘のとおり、履修上の説明が不十分であったので、演習は、各特論を学修した者が履修できる旨を「教育課程等の概要」「シラバス」等に明記する。また、看護学特別研究は、必ず研究指導教員の専門領域の特論・演習を履修していることを履修条件とする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(12 頁～13 頁)</p> <p>2) 専門科目</p> <p>..... (略)</p> <p><u>看護管理学領域では、「看護管理学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において、看護管理者及び認定看護管理者の基礎となる看護管理論・看護組織論・看護政策論について学修し、さらに「演習」においては、その実践的な応用能力を養い、知識と研究を有機的に結び付けた管理能力を身に付けることを狙い配置している。</u></p> <p><u>なお、「専門科目」では、自らの研究領域の「特論Ⅰ・Ⅱ」及び「演習Ⅰ・Ⅱ」については、必ず履修するとともに、学生が自らの研究領域以外にも幅広い知識を獲得できるよう、指導教員の意見も聞きながら、他の授業科目を自由に選択することができるよう配慮した。</u></p>	<p>(12 頁)</p> <p>2) 専門科目</p> <p>..... (略)</p> <p><u>看護管理学領域では、「看護管理学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において、看護管理者及び認定看護管理者の基礎となる看護管理論・看護組織論・看護政策論について学修し、さらに「演習」においては、その実践的な応用能力を養い、知識と研究を有機的に結び付けた管理能力を身に付けることを狙い配置している。</u></p> <p><u>なお、「専門科目」では、学生が自らの研究領域以外にも幅広い知識を獲得できるよう、指導教員の意見も聞きながら、履修科目を選択することとし、必修科目は配置していない。</u></p>

(4) 「看護学演習Ⅰ・Ⅱ」は、看護学特論での学修を基盤とすると記載があるが、例えば実際の授業科目で対応する科目の1つと思われる「基礎看護学演習Ⅰ」は履修条件が定められていないなど、適切な履修条件が設定されているか不明確な授業科目がある。

(対応) 「看護学演習Ⅰ・Ⅱ」は、それぞれの専門領域の看護学特論での学修を基盤とし、特論Ⅰは演習Ⅰと、特論Ⅱは演習Ⅱとそれぞれ連動した授業科目として位置付けている。また、特論Ⅰと演習Ⅰは、どちらも1年の前期科目であるが、前期の前半で特論Ⅰを後半で演習を履修するように配置(週2回開講)する。同様に、特論Ⅱ、演習Ⅱは、1年の後期科目であり、特論Ⅰ、演習Ⅰと同様な考え方で時間割を編成する。

「基礎看護学演習Ⅰ」等、シラバスにおいて履修条件が不明確な授業科目については加筆修正した。

(新旧対照表) シラバス (授業計画)

新	旧
【科目名】質的研究方法特論 (11頁～12頁) 【履修条件】 <u>看護研究方法特論</u> を履修していること	【科目名】質的研究方法特論 (11頁～12頁) 【履修条件】 <u>看護研究法</u> を履修していること
【科目名】基礎看護学演習Ⅰ (27頁～28頁) 【履修条件】 <u>基礎看護学特論Ⅰ</u> を履修していること	【科目名】基礎看護学演習Ⅰ (27頁～28頁) 【履修条件】 <u>特になし</u>
【科目名】基礎看護学演習Ⅱ (29頁～30頁) 【履修条件】 <u>基礎看護学特論Ⅱ</u> を履修していること	【科目名】基礎看護学演習Ⅱ (29頁～30頁) 【履修条件】 <u>特になし</u>
【科目名】地域看護学演習Ⅰ (35頁～36頁) 【履修条件】 <u>地域看護学特論Ⅰ</u> を履修していること	【科目名】地域看護学演習Ⅰ (35頁～36頁) 【履修条件】 <u>地域看護学特論Ⅰ・Ⅱを受講済みであること</u>
【科目名】地域看護学演習Ⅱ (37頁～38頁) 【履修条件】 <u>地域看護学特論Ⅱ</u> を履修していること	【科目名】地域看護学演習Ⅱ (37頁～38頁) 【履修条件】 <u>地域看護学特論Ⅰ・Ⅱを受講済みであること</u>
【科目名】老年看護学演習Ⅰ (43頁～44頁) 【履修条件】 <u>老年看護学特論Ⅰ</u> を履修していること	【科目名】老年看護学演習Ⅰ (43頁～44頁) 【履修条件】 <u>老年看護学特論Ⅰ</u>
【科目名】老年看護学演習Ⅱ (45頁～46頁)	【科目名】老年看護学演習Ⅱ (45頁～46頁)

新	旧
<p>【履修条件】<u>老年看護学特論Ⅱを履修していること</u></p> <p>【科目名】母性看護学演習Ⅰ（51頁～52頁） 【履修条件】<u>母性看護学特論Ⅰを履修していること</u></p> <p>【科目名】母性看護学演習Ⅱ（53頁～54頁） 【履修条件】<u>母性看護学特論Ⅱを履修していること</u></p> <p>【科目名】小児看護学演習Ⅰ（59頁～60頁） 【履修条件】<u>小児看護学特論Ⅰを履修していること</u></p> <p>【科目名】小児看護学演習Ⅱ（61頁～62頁） 【履修条件】<u>小児看護学特論Ⅱを履修していること</u></p> <p>【科目名】精神看護学演習Ⅰ（67頁～68頁） 【履修条件】<u>精神看護学特論Ⅰを履修していること</u></p> <p>【科目名】精神看護学演習Ⅱ（69頁～70頁） 【履修条件】<u>精神看護学特論Ⅱを履修していること</u></p> <p>【科目名】看護管理学演習（77頁～78頁） 【履修条件】<u>看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護管理学特論Ⅲを履修していること</u></p> <p>【科目名】看護学特別研究（79頁～80頁） 【履修条件】<u>専門科目のうちから各自の専門領域の「特論Ⅰ・Ⅱ」「演習Ⅰ・Ⅱ」各2単位を含む8単位を履修していること</u></p>	<p>【履修条件】<u>老年看護学特論Ⅰ、老年看護学特論演習1、老年看護学特論2</u></p> <p>【科目名】母性看護学演習Ⅰ（51頁～52頁） 【履修条件】<u>母性看護学特論ⅠおよびⅡを受講済みであること</u></p> <p>【科目名】母性看護学演習Ⅱ（53頁～54頁） 【履修条件】<u>母性看護学特論ⅠおよびⅡを受講済みであること</u></p> <p>【科目名】小児看護学演習Ⅰ（59頁～60頁） 【履修条件】<u>特になし</u></p> <p>【科目名】小児看護学演習Ⅱ（61頁～62頁） 【履修条件】<u>特になし</u></p> <p>【科目名】精神看護学演習Ⅰ（67頁～68頁） 【履修条件】<u>特になし</u></p> <p>【科目名】精神看護学演習Ⅱ（69頁～70頁） 【履修条件】<u>特になし</u></p> <p>【科目名】看護管理学演習（77頁～78頁） 【履修条件】<u>認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護師長以上の看護管理経験者が望ましい</u></p> <p>【科目名】看護学特別研究（79頁～80頁） 【履修条件】<u>専門科目8単位以上修得済みであること</u></p>

(是正意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

7. <論文審査の体制が不明確>

論文審査体制については、2月に口頭又は筆記による最終試験及び論文審査を行うとあるが、最終試験の審査基準や実施体制が不明確であるので、具体的に説明すること。

(対応) 最終試験の審査基準や実施体制については、「設置の趣旨等を記載した書類」及びその関連資料(資料 24: 岩手保健医療大学論文審査規程、資料 25: 学位論文スケジュール、資料 27: 修士論文の審査基準)には記載していたが、「設置の趣旨等を記載した書類」には詳しい記述をしておらず、誤解を与えたものと反省している。

ご指摘を踏まえ、記述の整合性がとれていなかった「設置の趣旨等を記載した書類」の記述と「資料 25: 学位論文スケジュール」の記述を再度点検し、本文の「3. 研究指導の2) 研究指導計画」の記述と添付資料内容の整合性を持たせ、本文記述の修正を加えた。

また、「4. 修士論文に関する審査基準」の項に、(2)研究計画書審査に係る評価基準、(3)論文の構成、(4)修士論文審査に係る評価基準を追加記述し、添付資料と整合させている。

さらに「5. 論文審査体制」には、修士論文審査委員会が2年次前期4月に研究計画書の審査を行う旨、2年次後期2月には、提出論文について口頭による最終試験(口頭試問)を含めた総合的な審査(合否判定)を行う旨を修正記述している。

関連して、「資料 25: 学位論文スケジュール」「資料 27: 修士論文の審査基準」について、本文との整合性を保つための修正を加えている。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>3. 研究指導 (略) (19 頁～21 頁)</p> <p>2) 研究指導計画 (学位論文スケジュール) <u>(1) 研究計画の課題提出 (1 年次前期 4 月～9 月)</u> ① 学生は、研究したい課題を検討し、研究指導教員に課題と研究計画の構想案を提出する。 ② 研究指導教員は、提出された課題及び研究計画構想案について、先行研究等の基本的情報をアドバイスし、研究計画書の作成方法等を指導する。 <u>(2) 教育研究計画書の提出 (1 年次後期 10 月～3 月)</u> ① 学生は、課題(テーマ)を決定し、関連文献の検索、先行研究との調整、仮説の設定</p>	<p>3. 研究指導 (略) (18 頁～19 頁)</p> <p>2) 研究指導計画 <u>(1) 研究計画の立案(1 年次 12 月～3 月)</u> ① 学生は、決定した研究課題に関して先行研究との調整、仮説の設定を行い、研究計画を立案する。 ② 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法などを指導する。 ③ 必要に応じ研究倫理審査を受ける <u>(2) 研究の遂行(1 年次 12 月～2 年次 9 月)</u> ① 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1 年次では、主に研究方法の確立、予備調査(実験)などを行う。2 年次では、</p>

新	旧
<p>等を行い、研究計画書を作成。「修士論文審査委員会」に提出する。</p> <p>② 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献検索方法・文献読解方法、関連する研究倫理等について指導する。</p> <p>③ 学生は、予備調査(実験)等に着手する。</p> <p><u>(3) 研究計画発表会及び研究計画書の審査(2年次前期4月)</u></p> <p>① 学生は、発表会において研究計画の概要、研究経過等についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>② 「修士論文審査委員会」は、発表会等の内容を含め、「研究計画書審査に係る評価基準」に基づき審査を行い、計画書の可否、修正事項等を学生に提示する。</p> <p>③ 学生は、上記結果を受け計画書の修正・見直しを行い、必要に応じ研究倫理審査を申請する。(研究倫理審査委員会からの承認後、研究を本格開始)</p> <p>④ 研究指導教員は、学生の研究計画書の修正、研究遂行に関する指導を行う。</p> <p><u>(4) 研究の遂行(2年次前期5月～9月)</u></p> <p>① 学生は、研究計画に基づきデータ収集と解析、必要な調査等を実施し、研究結果の整理に取り組む。</p> <p>② 研究指導教員は、研究の進行を適時確認しつつ、実験・調査等の手法・手技の指導やデータ解析の指導・助言を行うとともに、論文作成の基本的な要件等についての指導を行う。</p> <p><u>(5) 修士論文の作成(2年次後期10月～12月)</u></p> <p>① 学生は、研究指導教員の下で修士論文をまとめる。</p> <p>② 研究指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のま</p>	<p>決定した研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。</p> <p>② 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手法・手技の指導やデータ解析の指導等を行う。</p> <p>③ 研究指導教員は、研究の進捗状況について適宜確認し、必要な指導を行う。</p> <p><u>(3) 研究経過の中間報告(2年次4月)</u></p> <p>学生は、研究計画書に基づき、研究経過を4月に実施する発表会において報告する。</p> <p><u>4) 修士論文の作成(2年次10月～1月)</u></p> <p>① 学生は、指導教員の下で修士論文をまとめる。</p> <p>② 指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。</p>

新	旧
<p>とめ方等を指導する。</p> <p><u>(6) 修士論文の提出 (2 年次後期 1 月)</u></p> <p>① 学生は、「<u>修士論文審査委員会</u>」に修士論文を提出するとともに、1 月中旬の当委員会による事前審査会及び 2 月の公開発表会に向けた準備 (発表原稿、ポスター等の作成等) を行う。</p> <p>② 「<u>修士論文審査委員会</u>」は、事前審査会を実施し、学生の研究概要についてのプレゼンテーション及び関連質疑を行い、指摘事項等を学生に提示する。</p> <p>③ 学生は、上記を受けて修正作業等を行い、修正後論文を指定の期日までに「<u>修士論文審査委員会</u>」に提出する。</p> <p>④ 研究指導教員は、修正事項等の確認、発表会用の関連資料のチェック、発表の要点等についての指導を行う。</p> <p><u>(7) 修士論文審査 (2 年次後期 2 月)</u></p> <p>① 学生は、<u>修士論文公開発表会</u>において提出論文に係るプレゼンテーションを行う。</p> <p>② 「<u>修士論文審査委員会</u>」は発表会において口頭試問による最終試験を行うとともに、審査基準に基づき提出された論文の合否を判定する。</p> <p>また、当該論文について指摘事項があれば整理し、合否結果とともに「<u>審査報告書</u>」としてとりまとめ、大学院教授会に提出する。</p> <p>③ 大学院教授会は、提出された「<u>審査報告書</u>」を基に最終的な合否判定を行い、学長に報告する。</p> <p><u>(8) 修士論文 (最終) の提出 (2 年次後期 3 月)</u></p> <p>① 学生は、当該論文についての通知を受け、指摘事項があれば、最終稿として修正し、大学の指定する期日までに提出する。</p>	<p><u>(5) 修士論文審査 (2 年次 2 月初旬)</u></p> <p>学生は、<u>修士論文審査</u>を受け、指摘事項があれば修正する。</p> <p><u>(6) 修士論文の提出 (2 年次 3 月中旬)</u></p> <p>学生は、指定した期日までに、最終稿を提出する。</p>

新	旧
<p>② <u>研究指導教員は、指摘事項を含め最終稿をチェックし、必要な範囲で指導を行う。</u></p> <p>【資料 2 3 : 岩手保健医療大学学位規程】 【資料 2 4 : 岩手保健医療大学修士論文審査規程】 【資料 2 5 : 学位論文スケジュール表】</p> <p>(21 頁～22 頁)</p> <p>4. <u>修士論文に関する審査基準</u> (略)</p> <p><u>(2) 研究計画書審査に係る評価基準</u></p> <p><u>研究計画書審査に係る評価基準は、以下の 6 項目とする。</u></p> <p><u>審査は、各項目を 15%、その他、研究テーマに関連する専門的知識、表現力、質疑応答の適切性、発表態度を 10%として評価し、審査委員 3 名の合議によって判定する。合格点は、60 点以上とする。</u></p> <p>① <u>研究背景を系統的に示すことができていること。</u></p> <p>② <u>研究目的を明確にできていること。</u></p> <p>③ <u>研究の意義を適切に明示することができること。</u></p> <p>④ <u>文献レビューが行われていること。</u></p> <p>⑤ <u>研究目的に合った研究方法（デザイン・内容）を選択できていること。</u></p> <p>⑥ <u>研究計画は倫理的配慮がされていること。</u></p> <p><u>(3) 論文の構成</u></p> <p><u>修士論文は、次の要件を満たすこととし、学生に十分な指導を行う。</u></p> <p>① <u>決められたフォーマットに従って記載されていること。</u></p> <p>② <u>研究の内容が看護学に寄与するもので</u></p>	<p>【資料 2 3 : 岩手保健医療大学学位規程】 【資料 2 4 : 岩手保健医療大学修士論文審査規程】 【資料 2 5 : 学位論文スケジュール表】</p> <p>(20 頁)</p> <p>4. <u>修士論文に関する審査基準</u> (略)</p> <p><u>(2) 論文の構成</u></p> <p><u>修士論文は、次の要件を満たすこととする。</u></p> <p>① <u>外形的な観点</u> <u>決められたフォーマットに従って記載されているか。</u></p> <p>② <u>テーマ、問題設定</u></p>

新	旧
<p><u>あること。</u></p> <p>③ <u>研究の意義、目的を明確に設定し、適切な方法を用いて研究していること。</u></p> <p>④ <u>適切な分析方法、結果の提示がされていること。</u></p> <p>⑤ <u>先行研究に照らし、十分考察が加えられていること。</u></p> <p>⑥ <u>研究全体に大きな矛盾がなく、適切な形式や表記で論文が記述されていること。</u></p> <p>⑦ <u>研究の実施、もしくは結果の公開において倫理的な問題がないこと。</u> <u>(著作権、肖像権等の侵害がない、研究の独自性、アイデアの盗用がない等)</u></p> <p>⑧ <u>結論が明確に提示され、かつ、問題設定に対応していること。</u></p> <p><u>(4) 修士論文審査に係る評価基準</u></p> <p><u>審査は、口頭試問による最終試験を含め、各審査委員が独立して合否を点数化して評価する。</u></p> <p><u>以下の論理性・専門性・独創性・応答性に係る評価基準に基づき、それぞれ 25%として評価し、審査委員 3 名の評点が全員 60 点以上である場合を合格とする</u></p> <p>① <u>論理性では、論文全体の論理一貫性、論述の説得性があること。</u></p> <p>② <u>専門性では、論文の専門レベルの高さが十分であること。</u></p> <p>③ <u>独創性では、論文の独自性があること。</u></p> <p>④ <u>応答性では、専門的知識、表現力、質疑応答の適切性、発表態度が適正であること。</u></p> <p><u>【資料 2 7 : 修士論文の審査基準】</u></p>	<p><u>テーマ・問題設定が独創的であるか。</u></p> <p>③ <u>研究方法と論述構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>・研究方法が適切であるか。</u> <u>・論述が明確であるか。</u> <p><u>【資料 2 7 : 修士論文の審査基準】</u></p>

新	旧
<p>(22 頁～23 頁)</p> <p>5. 論文審査体制</p> <p>学生の修士論文を審査するために、「<u>大学院教授会</u>」は、学生のテーマごとに、当該テーマを審査するための「<u>修士論文審査委員会</u>」を置く。「<u>修士論文審査委員会</u>」の構成は、主査 1 名、副査 2 名とする。なお、研究指導教員は、審査委員会の主査になることはできない。</p> <p>「<u>修士論文審査委員会</u>」は、<u>2 年次前期 4 月に研究計画書の審査を行う。また、2 年次後期 2 月には、提出された修士論文について、前述の（4）修士論文審査に係る評価基準に基づき、プレゼンテーションと内容及び最終試験（口頭試問）を主査・副査が独立して審査し、委員会判定案を審査報告書として取りまとめ、「大学院教授会」に提出する。「大学院教授会」は、当該報告に基づき合格の可否を審議し、最終判定案を学長に報告する。</u></p>	<p>(20 頁)</p> <p>5. 論文審査体制</p> <p>学生の修士論文を審査するために、「<u>大学院教授会</u>」は、学生のテーマごとに、当該テーマを審査するための「<u>修士論文審査委員会</u>」を置く。「<u>修士論文審査委員会</u>」の構成は、主査 1 名、副査 2 名とする。なお、研究指導教員は、審査委員会の主査になることはできない。</p> <p>「<u>修士論文審査委員会</u>」は、<u>2 年次 2 月に当該学生に最終試験及び論文を審査し、結果を「大学院教授会」に報告する。「大学院教授会」は、当該報告に基づき合格の可否を審議・判定し、学長に報告する。</u></p>
<p>(23 頁)</p> <p>7. 修了要件</p> <p>本学研究科修士課程に<u>2 年（長期履修の場合は 3 年）以上在籍し、授業科目について所定の教育プログラム（共通科目 14 単位（必修 8 単位、選択 6 単位以上）以上、専門科目 8 単位（うち、各自の専門領域の特論 I、II 及び演習 I、II 8 単位は必修）以上、特別研究科目 8 単位 計 30 単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することにより、修士（看護学）の学位を得ることができる。</u></p>	<p>(21 頁)</p> <p>7. 修了要件</p> <p>本学研究科修士課程に<u>2 年（長期履修の場合は 3 年）以上在籍し、授業科目について所定の教育プログラム（共通科目 14 単位以上、専門科目 8 単位以上、特別研究科目 8 単位 計 30 単位以上）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することにより、修士（看護学）の学位を得ることができる。</u></p>

(改善意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

8. <遠隔教育の実施体制が不明確>

大学院設置の必要性の説明において、遠隔教育の技法も取り入れていく旨記載があるが、具体的にどのように取り入れるのか不明確であるので、具体的に説明すること。

(対応) ご指摘を受けて、新たに資料 C として「岩手保健医療大学大学院双方向遠隔授業実施要項」を作成し添付した。

本規程には、遠隔授業は、本学のネットワークシステムを活用し、授業科目の一部について、学生の仕事や疾病等により対面授業が困難な場合に限り実施するものであること、また、遠隔授業は、「方向遠隔授業受講申込書」を科目責任者及び指導教員に提出し、事前の十分な調整の下に行うこと等について規定している。

遠隔授業の実施については、入学志望者に対し、資料により十分な情報を提供することとしており、遠隔地在住者や仕事を持つ社会人入学者への利便性に配慮した運用を考えている。

なお、今年度は、コロナ感染等への対応の一つとして、学部の授業の一部について遠隔授業を取入れており、授業方法等についても漸次改善してきている。大学院教育への活用についても、これらの経験を活かし効果的な活用をしていきたいと考えている。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
(29 頁) <インターネットを活用した学修> また、 <u>遠隔地においても学修が可能となるよう、全ての授業科目について、遠隔授業受講要領に基づき、授業の一部を双方向対面が可能な Zoom 形式などのインターネット通信を活用し、自宅や職場での受講を可能にする。</u> なお、インターネットを活用した遠隔授業は、担当教員と受講学生の双方が <u>事前に調整した上で実施することとし、詳細は双方向遠隔授業実施要領を定めて適切な運用を行う。</u> 【資料 3 2 : 遠隔授業の概要】 【資料 C : 岩手保健医療大学大学院双方向遠隔授業実施要領】	(27 頁) <インターネットを活用した学修> また、 <u>遠隔地においても学修可能なように、授業の一部をインターネット通信を活用し、自宅や職場で受講が可能な方式も併用する。</u> なお、インターネットを活用した遠隔授業は、担当教員と受講学生の双方が調整した上で実施することとし、詳細は受講要領を定めて適切な運用を行う。 【資料 3 2 : 遠隔授業の概要】

(改善意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

9. <シラバスの記載内容が不適切>

シラバスの記載内容について、例えば「基礎看護学演習Ⅰ」では各回の授業項目や授業方法の内容が同一、「看護学教育特論」は成績評価方法が総合評価となっており具体的な評価基準や割合が不明確であるなど、不適切と思われる事例が散見される。全体について見直し、必要に応じて適切に改めること。

(対応) ご指摘のとおり、「基礎看護学演習Ⅰ」については、各回の授業内容等が明確になっていなかった。また、「看護学教育特論」の成績評価方法が総合評価と一律的な記述となっており、不十分であった。

ご指摘を受け、授業内容が不明確なものについては、該当する授業科目について、シラバスの成績評価方法等の修正を行った。

(新旧対照表) シラバス (授業計画)

新	旧
<p>【科目名】看護理論特論 (1 頁～2 頁) 【授業計画/授業前後の学習】別紙 1/1 頁参照</p>	<p>【科目名】看護理論特論 (1 頁～2 頁) 【授業計画/授業前後の学習】別紙 1/1 頁参照</p>
<p>【科目名】看護研究方法特論 (3 頁～4 頁) 【授業計画/授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1/3 頁参照 【成績評価方法】課題レポート (80%) と授業への貢献度 (20%) を総合して評価する</p>	<p>【科目名】看護研究方法特論 (3 頁～4 頁) 【授業計画/授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1/3 頁参照 【成績評価方法】課題レポートと授業への貢献度などを総合して評価する</p>
<p>【科目名】臨床倫理特論 (5 頁～6 頁) 【授業計画/授業項目】別紙 1/5 頁参照</p>	<p>【科目名】臨床倫理特論 (5 頁～6 頁) 【授業計画/授業項目】別紙 1/5 頁参照</p>
<p>【科目名】多職種連携特論 (7 頁～8 頁) 【授業計画/授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1/7～8 頁参照 【成績評価方法】授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出 (20%)、レポート (20%) から評価する</p>	<p>【科目名】多職種連携特論 (7 頁～8 頁) 【授業計画/授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1/7～8 頁参照 【成績評価方法】レポート (80%) および講義中の発言等参加状況 (20%)</p>
<p>【科目名】質的研究方法特論 (11 頁～12 頁) 【授業計画/授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1/11 頁～12 頁参照</p>	<p>【科目名】質的研究方法特論 (11 頁～12 頁) 【授業計画/授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1/11 頁～12 頁参照</p>

新	旧
<p>【科目名】医療社会学特論（13 頁～14 頁） 【授業計画／授業内容・授業方法】別紙 1／13 頁～14 頁参照</p>	<p>【科目名】医療社会学特論（13 頁～14 頁） 【授業計画／授業内容・授業方法】別紙 1／13 頁～14 頁参照</p>
<p>【科目名】フィジカルアセスメント特論(15 頁～16 頁) 【授業計画／授業項目】別紙 1／15 頁～16 頁参照</p>	<p>【科目名】フィジカルアセスメント特論(15 頁～16 頁) 【授業計画／授業項目】別紙 1／15 頁～16 頁参照</p>
<p>【科目名】コンサルテーション特論（17 頁～18 頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／17 頁参照 【成績評価方法】・課題提起時の文献検討(20%)とメンバー間のディスカッション(20%)への参加姿勢(20%)を評価します ・自身の研究組織における課題と役割に関するレポート作成(40%)を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます</p>	<p>【科目名】コンサルテーション特論（17 頁～18 頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／17 頁参照 【成績評価方法】・課題提起のドキュメンテーションとメンバー間のディスカッションへの参加を評価します ・自身の所属組織における課題と役割に関するレポート作成を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます</p>
<p>【科目名】災害看護学特論（19 頁～20 頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法／授業前後の学習】別紙 19 頁～20 頁参照 【教科書・参考図書等】カワチイチロー他，2017，『社会疫学「上・下」』，大修館書店 カワチイチロー他，2008，『ソーシャル・キャピタルと健康』，日本評論社 御厨貴，2016，『大震災復興過程の政策分析』ミネルヴァ書房 麻原きよみ他，2018，『保健師と放射線』真興交易（株）医書出版部 その他、担当講師が準備する資料 【成績評価方法】授業態度(20%)、プレゼンテーション(20%)、グループワークへの参加度(20%)、課題提出(20%)、レポート(20%)から評価する</p>	<p>【科目名】災害看護学特論（19 頁～20 頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法／授業前後の学習】別紙 19 頁～20 頁参照 【教科書・参考図書等】カワチイチロー他，2017，『社会疫学「上・下」』，大修館書店 カワチイチロー他，2008，『ソーシャル・キャピタルと健康』，日本評論社 御厨貴，2016，『大震災復興過程の政策分析』ミネルヴァ書房 麻原きよみ他，2018，『保健師と放射線』真興交易（株）医書出版部 【成績評価方法】レポート(80%)および講義中の発言参加状況(20%)</p>

新	旧
<p>【科目名】看護学教育特論（21 頁～22 頁） 【必修・選択の別】<u>必修</u> 【成績評価方法】授業態度（20%）、グループワーク参加度（40%）、課題学習（20%）、レポート（20%）によって評価する</p> <p>【科目名】基礎看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（23 頁～24 頁） 【授業計画／授業前後の学習】別紙 1／23 頁～24 頁参照</p> <p>【科目名】基礎看護学特論Ⅱ（アセスメント・実践論）（25 頁～26 頁） 【授業計画／授業項目】別紙 1／25 頁参照</p> <p>【科目名】基礎看護学演習Ⅰ（27 頁～28 頁） 【授業概要】文献検索に必要な知識と技術と共に文献のクリティークを行う能力を養う。看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」で<u>学修</u>する内容と関連する文献について量的研究、質的研究それぞれについてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／27 頁～28 頁参照 【教科書・参考図書等】「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」、「看護研究方法特論」で使用する参考書</p> <p>【科目名】基礎看護学演習Ⅱ（29 頁～30 頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／29 頁～30 頁参照</p> <p>【科目名】地域看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（31 頁～32 頁）</p>	<p>【科目名】看護学教育特論（21 頁～22 頁） 【必修・選択の別】<u>選択</u> 【成績評価方法】授業態度、グループワーク参加度、課題学習、レポート、出席状況等によって<u>総合</u>評価する</p> <p>【科目名】基礎看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（23 頁～24 頁） 【授業計画／授業前後の学習】別紙 1／23 頁～24 頁参照</p> <p>【科目名】基礎看護学特論Ⅱ（アセスメント・実践論）（25 頁～26 頁） 【授業計画／授業項目】別紙 1／25 頁参照</p> <p>【科目名】基礎看護学演習Ⅰ（27 頁～28 頁） 【授業概要】文献検索に必要な知識と技術と共に文献のクリティークを行う能力を養う。看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」で<u>学んだ</u>内容と関連する文献について量的研究、質的研究それぞれについてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／27 頁～28 頁参照 【教科書・参考図書等】「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」、「看護研究方法特論」で使用する参考書</p> <p>【科目名】基礎看護学演習Ⅱ（29 頁～30 頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／29 頁～30 頁参照</p> <p>【科目名】地域看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（31 頁～32 頁）</p>

新	旧
<p>【授業計画／授業内容・授業方法、授業前後の学習】別紙1/31頁～32頁参照</p> <p>【教科書・参考図書等】<u>中島孝(監)2016『ALSマニュアル決定版 part 2』日本プランニングセンター</u></p> <p><u>川田明広(編)2013『第三号(特定の者対象)のための喀痰吸引等研修テキスト』</u></p> <p><u>その他、担当講師が準備する資料</u></p> <p>【成績評価方法】<u>授業態度(20%)、プレゼンテーション(20%)、グループワークへの参加度(20%)、課題提出(20%)、レポート(20%)</u>から評価する</p> <p>【科目名】<u>地域看護学特論Ⅱ(アセスメント・実践論)(33頁～34頁)</u></p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法、授業前後の学習】別紙1/33頁～34頁参照</p> <p>【教科書・参考図書等】<u>佐伯和子(編),2014,『公衆衛生看護学テキスト第2巻公衆衛生看護技術』医歯薬出版(株)</u></p> <p><u>その他、担当講師が準備する資料</u></p> <p>【成績評価方法】<u>授業態度(20%)、プレゼンテーション(20%)、グループワークへの参加度(20%)、課題提出(20%)、レポート(20%)</u>から評価する</p> <p>【科目名】<u>地域看護学演習Ⅰ(35頁～36頁)</u></p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法、授業前後の学習】別紙1/35頁～36頁参照</p> <p>【教科書・参考図書等】<u>牧本清子 山川みやえ,2020,『よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版』日本看護協会出版会</u></p> <p><u>その他、担当教員が準備する資料</u></p> <p>【成績評価方法】<u>授業態度(20%)、プレゼンテーション(20%)、グループワークへの参加度(20%)、課題提出(20%)、レポート(20%)</u>から評価する</p>	<p>【授業計画／授業内容・授業方法、授業前後の学習】別紙1/31頁～32頁参照</p> <p>【教科書・参考図書等】<u>その都度紹介する</u></p> <p>【成績評価方法】<u>授業態度、プレゼンテーション、課題提出物、レポート等から総合評価する</u></p> <p>【科目名】<u>地域看護学特論Ⅱ(アセスメント・実践論)(33頁～34頁)</u></p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法、授業前後の学習】別紙1/33頁～34頁参照</p> <p>【教科書・参考図書等】<u>その都度紹介する</u></p> <p>【成績評価方法】<u>授業態度、課題提出物、レポート等から総合評価する</u></p> <p>【科目名】<u>地域看護学演習Ⅰ(35頁～36頁)</u></p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法、授業前後の学習】別紙1/35頁～36頁参照</p> <p>【教科書・参考図書等】<u>随時紹介する</u></p> <p>【成績評価方法】<u>授業の到達目標の達成状況、授業内での発表内容・参加状況等によって総合判断する。</u></p>

新	旧
<p>【科目名】地域看護学演習Ⅱ（37頁～38頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法、授業前後の学習】別紙1／37頁～38頁参照 【教科書・参考図書等】近藤尚己，2016，『介護予備活動のための地域診断データの活用と組織連携ガイド 地域包括ケアの推進に向けて』，株式会社 三響社 <u>牧本清子 山川みやえ，2020，『よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版』日本看護協会出版会</u> <u>その他、担当講師が準備する資料</u> 【成績評価方法】授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、課題提出（20%）、レポート（20%）から評価する</p> <p>【科目名】老年看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（39頁～40頁） 【授業計画／授業内容・授業方法】別紙1／39頁～40頁参照 【成績評価方法】課題レポート（80%）と授業への貢献度（20%）を総合的に評価する</p> <p>【科目名】老年看護学特論Ⅱ（41頁～42頁） 【授業計画／授業項目】別紙1／41頁～42頁参照 【成績評価方法】課題レポート（70%）、講義、ゼミ、演習への貢献度（30%）による総合評価</p> <p>【科目名】老年看護学演習Ⅰ（43頁～44頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／43頁～44頁参照 【成績評価方法】課題レポート（80%）および授業への貢献度（20%）を総合して評価する</p> <p>【科目名】老年看護学演習Ⅱ（45頁～46頁）</p>	<p>【科目名】地域看護学演習Ⅱ（37頁～38頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法、授業前後の学習】別紙1／37頁～38頁参照 【教科書・参考図書等】<u>随時紹介する</u></p> <p>【成績評価方法】<u>授業の到達目標の達成状況、授業内での発表内容・参加状況等によって総合判断する。</u></p> <p>【科目名】老年看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（39頁～40頁） 【授業計画／授業内容・授業方法】別紙1／39頁～40頁参照 【成績評価方法】課題レポートと授業への貢献度などを総合的に評価する</p> <p>【科目名】老年看護学特論Ⅱ（41頁～42頁） 【授業計画／授業項目】別紙1／41頁～42頁参照 【成績評価方法】課題レポート、講義、ゼミ、演習への貢献度などによる総合評価</p> <p>【科目名】老年看護学演習Ⅰ（43頁～44頁） 【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／43頁～44頁参照 【成績評価方法】課題レポートおよび授業への貢献度などを総合して評価する</p> <p>【科目名】老年看護学演習Ⅱ（45頁～46頁）</p>

新	旧
<p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／45頁～46頁参照</p> <p>【成績評価方法】課題レポート(50%)、研究計画書(30%)、授業への貢献度(20%)を総合的に評価する</p> <p>【科目名】母性看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（47頁～48頁）</p> <p>【授業計画／授業内容・授業方法】別紙1／47頁～48頁参照</p> <p>【成績評価方法】授業態度(20%)、プレゼンテーション(20%)、グループワークへの参加度(20%)、課題提出物(20%)、レポート(20%)から評価する</p> <p>【科目名】母性看護学特論Ⅱ（アセスメント・実践論）（49頁～50頁）</p> <p>【授業計画／授業内容・授業方法】別紙1／49頁～50頁参照</p> <p>【成績評価方法】授業態度(20%)、プレゼンテーション(20%)、グループワークへの参加度(20%)、課題提出物(20%)、レポート(20%)から評価する</p> <p>【科目名】母性看護学演習Ⅰ（51頁～52頁）</p> <p>【授業計画／授業項目】別紙1／51頁～52頁参照</p> <p>【成績評価方法】授業の到達目標の達成状況(40%)、授業内での発表内容(30%)・参加状況(30%)によって判断する</p> <p>【科目名】母性看護学演習Ⅱ（53頁～54頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／53頁～54頁参照</p> <p>【成績評価方法】授業の到達目標の達成状況(40%)、授業内での発表内容(30%)・参加状況(30%)によって判断する</p>	<p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／45頁～46頁参照</p> <p>【成績評価方法】課題レポート、研究計画書、授業への貢献度などを総合的に評価する</p> <p>【科目名】母性看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（47頁～48頁）</p> <p>【授業計画／授業内容・授業方法】別紙1／47頁～48頁参照</p> <p>【成績評価方法】授業態度、プレゼンテーション、グループワークへの参加度、課題提出物、レポート等から総合評価する</p> <p>【科目名】母性看護学特論Ⅱ（アセスメント・実践論）（49頁～50頁）</p> <p>【授業計画／授業内容・授業方法】別紙1／49頁～50頁参照</p> <p>【成績評価方法】授業態度、プレゼンテーション、グループワークへの参加度、課題提出物、レポート等から総合評価する</p> <p>【科目名】母性看護学演習Ⅰ（51頁～52頁）</p> <p>【授業計画／授業項目】別紙1／51頁～52頁参照</p> <p>【成績評価方法】授業の到達目標の達成状況、授業内での発表内容・参加状況等によって総合判断する</p> <p>【科目名】母性看護学演習Ⅱ（53頁～54頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／53頁～54頁参照</p> <p>【成績評価方法】授業の到達目標の達成状況、授業内での発表内容・参加状況等によって総合判断する</p>

新	旧
<p>【科目名】小児看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（55頁～56頁）</p> <p>【成績評価方法】到達目標の達成状況 <u>30%</u>、演習内の参加状況 <u>30%</u>、レポート内容 <u>40%</u>で総合的に評価する</p>	<p>【科目名】小児看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（55頁～56頁）</p> <p>【評価方法】到達目標の達成状況および講義内の参加状況、レポート作成状況等により総合的に評価する</p>
<p>【科目名】小児看護学特論Ⅱ（アセスメント・実践論）（57頁～58頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／57頁～58頁参照</p> <p>【成績評価方法】到達目標の達成状況 <u>30%</u>、演習内の参加状況 <u>30%</u>、レポート内容 <u>40%</u>で総合的に評価する</p>	<p>【科目名】小児看護学特論Ⅱ（アセスメント・実践論）（57頁～58頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／57頁～58頁参照</p> <p>【評価方法】到達目標の達成状況および演習内の参加状況、レポート作成状況等により総合的に評価する</p>
<p>【科目名】小児看護学演習Ⅰ（59頁～60頁）</p> <p>【成績評価方法】到達目標の達成状況 <u>30%</u>、演習内の参加状況 <u>30%</u>、レポート内容 <u>40%</u>で総合的に評価する</p>	<p>【科目名】小児看護学演習Ⅰ（59頁～60頁）</p> <p>【評価方法】到達目標の達成状況および演習内の参加状況、レポート作成状況等により総合的に評価する</p>
<p>【科目名】小児看護学演習Ⅱ（61頁～62頁）</p> <p>【授業計画／授業項目】別紙1／61頁参照</p> <p>【成績評価方法】到達目標の達成状況 <u>30%</u>、演習内の参加状況 <u>30%</u>、レポート内容 <u>40%</u>で総合的に評価する</p>	<p>【科目名】小児看護学演習Ⅱ（61頁～62頁）</p> <p>【授業計画／授業項目】別紙1／61頁参照</p> <p>【評価方法】到達目標の達成状況および演習内の参加状況、レポート作成状況等により総合的に評価する</p>
<p>【科目名】精神看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（63頁～64頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／63頁～64頁参照</p> <p>【成績評価方法】・問題提起時の文献検討 <u>(20%)</u> とディスカッション <u>(20%)</u>、参加姿勢 <u>(20%)</u> を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の看護実践課題に関するレポート作成 <u>(40%)</u> を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます 	<p>【科目名】精神看護学特論Ⅰ（看護援助学特論）（63頁～64頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙1／63頁～64頁参照</p> <p>【成績評価方法】・問題提起のドキュメンテーションとディスカッションへの参加を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の看護実践課題に関するレポート作成を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます

新	旧
<p>【科目名】精神看護学特論Ⅱ（アセスメント・実践論）（65 頁～66 頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／65 頁参照</p> <p>【成績評価方法】・問題提起時の文献検討（20%）とディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます 	<p>【科目名】精神看護学特論Ⅱ（アセスメント・実践論）（65 頁～66 頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／65 頁参照</p> <p>【成績評価方法】・問題提起のドキュメンテーションとディスカッションへの参加を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の看護実践課題に関するレポート作成を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます
<p>【科目名】精神看護学演習Ⅰ（67 頁～68 頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／67 頁～68 頁参照</p> <p>【成績評価方法】・問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます 	<p>科目名】精神看護学演習Ⅰ（67 頁～68 頁）</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／67 頁～68 頁参照</p> <p>【成績評価方法】・問題提起のドキュメンテーションとディスカッションへの参加を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の看護実践課題に関するレポート作成を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます
<p>【科目名】精神看護学演習Ⅱ（69 頁～70 頁）</p> <p>【担当教員 職位・氏名】教授 岡田 実 非常勤講師 川添 郁夫</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法、担当】別紙 1／69 頁～70 頁参照</p> <p>【成績評価方法】・問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます <p>【科目名】看護管理学特論Ⅰ（看護部署管理</p>	<p>【科目名】精神看護学演習Ⅱ（69 頁～70 頁）</p> <p>【担当教員 職位・氏名】教授 岡田 実 講師 長南 幸恵</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法、担当】別紙 1／69 頁～70 頁参照</p> <p>【成績評価方法】・問題提起のドキュメンテーションとディスカッションへの参加を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の看護実践課題に関するレポート作成を評価します ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます <p>【科目名】看護管理学特論Ⅰ（看護部署管理</p>

新	旧
<p>論) (71 頁～72 頁)</p> <p>【授業計画／授業項目】別紙 1／71 頁～72 頁参照</p> <p>【科目名】看護管理学演習 (77 頁～78 頁)</p> <p>【授業計画／授業内容・授業方法】別紙 1／77 頁～78 頁参照</p> <p>【科目名】看護学特別研究 (79 頁～80 頁)</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／79 頁～80 頁参照</p>	<p>論) (71 頁～72 頁)</p> <p>【授業計画／授業項目】別紙 1／71 頁～72 頁参照</p> <p>【科目名】看護管理学演習 (77 頁～78 頁)</p> <p>【授業計画／授業内容・授業方法】別紙 1／77 頁～78 頁参照</p> <p>【科目名】看護学特別研究 (79 頁～80 頁)</p> <p>【授業計画／授業項目、授業内容・授業方法】別紙 1／79 頁～80 頁参照</p>

(是正意見) 看護学研究科 看護学専攻 (M)

10. <教員組織の将来構想が不明確>

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応) 博士課程修了者及び博士課程在学中の若手教員の育成について大学をあげて支援し、本学の中核教員としての成長を促していくこと、また、教員の新規採用に当たっては、人事計画将来構想委員会を設置し、将来的な視点に立ち、年齢構成、教育経験、研究領域のバランスを踏まえた計画的な採用を行うことにより、教育研究の質の維持向上と継続性に留意して運営していくこと等を追記した。

また、これらの記述の補足資料として「資料A：岩手保健医療大学人事計画将来構想委員会規程資料」「資料B：完成年度後の定年教員補充計画」を追加添付した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(15頁～16頁)</p> <p>2. 教員配置の適正化 ・ ・ ・ ・ ・ (略) ・ ・ ・ ・ ・ <u>(削除)</u></p> <p>看護管理学教育においては、<u>准教授は、現在博士号取得に向けて研究論文作成中であり、数年後には後任者になりうるもの</u>と考える。「認定看護管理者」資格公募に繋がる領域であるが、<u>教授の教え子に数名適任者がいることから、完成年度後に公募して配置する可能性は十分にある。</u></p> <p><u>本研究科では、高度な研究・教育を通じて看護学を追求・教授することを目的としており、担当教員は、優れた教育研究業績と豊富な教育経験を有した人材を適切に継続的に配置していく必要がある。しかしながら現状では、完成年度時点の年齢構成は、65歳以上の割合が高くなっており、就業規則第38条による定年延長の活用だけでは対処できないことは十分認識している。</u></p> <p><u>このため、准教授・講師・助教のうち、博士</u></p>	<p>(14頁～15頁)</p> <p>2. 教員配置の適正化 ・ ・ ・ ・ ・ (略) ・ ・ ・ ・ ・ <u>各看護学の分野においては、若手教員の成長を支援するとともに、定年に達する教員の後任候補者の公募・採用を強力に進めるとともに、定年延長も活用して対応したい。</u></p> <p>看護管理学教育においては、<u>准教授は、現在博士号取得に向けて研究論文作成中であり、数年後には後任者になりうるもの</u>と考える。「認定看護管理者」資格公募に繋がる領域であるが、<u>教授の教え子に数名適任者がいることから、完成年度後に公募して配置する可能性は十分ある。</u></p> <p><u>いずれの領域においても、現教授陣の指導の下、研究指導力等、研究者・教育者としての資質向上に努めていくよう支援する。</u></p> <p><u>現在、さらに先の将来を見据えて若手教員に対して研究に関する指導を強化するとともに、助教以上全員が学位の取得ができるよう、博士課程進学等の支援体制を整え、教育・研究水準の維持・向上に努めている。将来的にはこれらの若手の教員が本学の中核教員として成長し、他大学等から就任する教員を含めて、領域ごと</u></p>

新	旧
<p><u>課程修了者及び博士課程在学中の基礎的な学識を有する者を、教授の指導の下、教育・研究の経験を積ませ、研究者として、また教育者としての資質向上を図り、修士課程及び将来的な博士課程の後継指導者としての育成に大学をあげて支援していくこととしている。</u></p> <p><u>また、教員の新規採用に当たっては、学長を委員長とする人事計画将来構想委員会（仮称）を設置し、本委員会で策定した将来的な視点に立った人事計画に基づき実施することとしている。同委員会では、①定年退職者に合わせた計画的な教員採用、②年齢構成、教育経験、研究領域のバランスを踏まえた採用、の2点を基本原則とし、教育研究の質の維持向上と継続性に留意して運営することを考えている。</u></p> <p><u>以上のように、若手教員を大学全体として支援することによって、本学の中核教員としての成長を促すとともに、他大学等から就任する教員を加え、年齢構成も含めて領域ごとに適正に配置することにより、本学大学院の教育・研究の水準維持と向上を担保していきたいと考えている。</u></p> <p><u>【資料 A：岩手保健医療大学人事計画将来構想委員会規程】</u></p> <p><u>【資料 B：大学院完成年度後の定年教員補充計画】</u></p>	<p><u>の適正な教員配置と年齢構成にも配慮した体制を整備していきたい。</u></p>

【専任教員資格審査への対応】

1. 教員の就任に関する変更について

長南幸恵（12）は、教員審査の授業科目の科目判定において不可の判定であった。兼任補充可であったため、兼任講師として^①川添郁夫を補充する。川添郁夫は現在、青森中央学院大学准教授として勤務しているが、修士（看護学）及び博士（健康科学）の学位を有しており、弘前大学大学院保健学研究科障害保健学領域において講師の経験もあるなど、精神看護学領域の教育歴、研究業績、社会貢献活動が豊富であることから、長南幸恵（12）が不可となった「精神看護学演習Ⅱ」の科目を十分補完できると考えている。

（新旧対照表）教員の就任に関する変更

新	旧
<u>川添郁夫 ①</u> <u>兼任 講師</u>	<u>長南幸恵（12）</u> <u>専任 講師</u>

シラバス（授業計画） 目次

	シラバス	担当者氏名				頁
1	看護理論特論	菊池和子	岡田 実			1
2	看護研究方法特論	勝野とわ子				3
3	臨床倫理特論	清水哲郎	濱中喜代	石井真紀子		5
4	多職種連携特論	鈴木るり子	相澤 出			7
5	統計学特論	大井慈郎				9
6	質的研究方法特論	相澤 出				11
7	医療社会学特論	相澤 出				13
8	フィジカルアセスメント特論	菊池和子	江守陽子			15
9	コンサルテーション特論	岡田 実				17
10	災害看護特論	鈴木るり子				19
11	看護学教育特論	濱中喜代	江守陽子	土田幸子	石井真紀子	21
12	基礎看護学特論Ⅰ	菊池和子				23
13	基礎看護学特論Ⅱ	菊池和子				25
14	基礎看護学演習Ⅰ	菊池和子	石井真紀子			27
15	基礎看護学演習Ⅱ	菊池和子				29
16	地域看護学特論Ⅰ	鈴木るり子				31
17	地域看護学特論Ⅱ	鈴木るり子				33
18	地域看護学演習Ⅰ	鈴木るり子				35
19	地域看護学演習Ⅱ	鈴木るり子				37
20	老年看護学特論Ⅰ	勝野とわ子				39
21	老年看護学特論Ⅱ	勝野とわ子				41
22	老年看護学演習Ⅰ	勝野とわ子	木内千晶			43
23	老年看護学演習Ⅱ	勝野とわ子	木内千晶			45
24	母性看護学特論Ⅰ	江守陽子				47
25	母性看護学特論Ⅱ	江守陽子				49
26	母性看護学演習Ⅰ	江守陽子	大谷良子	佐藤 恵		51
27	母性看護学演習Ⅱ	江守陽子	大谷良子	佐藤 恵		53
28	小児看護学特論Ⅰ	濱中喜代				55
29	小児看護学特論Ⅱ	濱中喜代				57
30	小児看護学演習Ⅰ	濱中喜代	下野純平			59
31	小児看護学演習Ⅱ	濱中喜代	下野純平			61
32	精神看護学特論Ⅰ	岡田 実				63
33	精神看護学特論Ⅱ	岡田 実				65
34	精神看護学演習Ⅰ	岡田 実	長南幸恵			67
35	精神看護学演習Ⅱ	岡田 実	川添郁夫			69
36	看護管理学特論Ⅰ（看護部署管理論）	伊藤 收				71
37	看護管理学特論Ⅱ（看護組織調整論）	伊藤 收				73
38	看護管理学特論Ⅲ（看護施設管理論）	伊藤 收				75
39	看護管理学演習	伊藤 收	土田幸子			77
40	看護学特別研究	濱中喜代	勝野とわ子	江守陽子	菊池和子	79
		岡田 実	伊藤 收	鈴木るり子		
		木内千晶	土田幸子			
		石井真紀子	長南幸恵	相澤 出	下野純平	
		大谷良子	佐藤 恵			

【別紙 1】 新

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護理論特論	M11001	2 (30)	選択	1	前期	教授 菊池 和子
担当教員 職位・氏名	教授 菊池 和子、岡田 実					
授業概要	看護実践で行われている看護援助方法の主要な理論的背景について学ぶ。看護実践の基盤となる看護論としてナイチンゲール看護論、ヘンダーソン看護論、ベナー看護論、オレム看護論、ロイ看護論、M. ニューマン看護論、ワトソン看護論について理解と考察を深め、看護実践を充実し発展させる方法を学修する。また、各自の看護体験と看護理論との関係について考察し、看護理論を活用して看護実践を展開する方法を探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助に関する主要な理論について理解することができる。 2. 各自の看護実践の理論的基盤を明確にすることができる。 3. 看護理論を活用して看護実践を展開する方法を身につけることができる。 					
キーワード	看護理論、看護実践、看護援助方法、理論適用					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	看護理論とは 看護に関する理論の概要	講義、各自の看護体験と看護理論の関連についてディスカッション			授業項目の事前学習	菊池
2	ナイチンゲール看護論	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	岡田
3	ナイチンゲール看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	岡田
4	ヘンダーソン看護論	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	岡田
5	ヘンダーソン看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	岡田
6	ベナー看護論①	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	岡田
7	ベナー看護論②	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	岡田
8	ベナー看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	岡田
9	オレム看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	菊池
10	オレム看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	菊池

【別紙1】新

11	ロイ看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
12	ロイ看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
13	M. ニューマン看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
14	M. ニューマン看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
15	ワトソンのケアリング理論	看護理論の文献および文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		<p>筒井真優美編集：看護理論家の業績と評価、医学書院、2015</p> <p>筒井真優美編集：看護理論改訂第2版、南江堂、2015</p> <p>Patricia Benner: From Novice to Expert; Excellence and Power in Clinical Nursing Practice, Prentice Hall, 2001</p> <p>シヨーン著、佐藤学・秋田清美訳：専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える、ゆみる出版</p> <p>D. E. Orem, 小野寺杜紀訳：オレム看護論 看護実践における基本概念 第4版 医学書院, 2005</p> <p>C ロイ著、松木光子訳：ロイ適応モデル序説、メディカルフレンド社、1981</p> <p>ジーン ワトソン：ワトソン看護論 人間科学とヒューマンケア、稲岡文昭他訳、医学書院、1992</p> <p>Margaret A. Newman 手島恵訳：マーガレット・ニューマン看護論、医学書院、2011.</p>		
成績評価方法		プレゼンテーション及びディスカッション70% レポート30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護研究方法特論	M11002	2 (30)	必修	1	前期	教授 勝野とわ子
授業概要	看護学における科学的な研究のプロセス（看護における研究の役割、科学的アプローチ、理論やモデルに基づく研究疑問の立て方など）を理解し、研究用語、研究デザインおよび研究方法についての理解を深める。また、論文の批判的検討能力を高めるとともに、看護実践の場への研究の応用能力の基礎を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学における科学的な研究のプロセスについて説明できる。 2. 量的研究デザインと質的研究デザインについて説明できる。 3. 量的研究と質的研究のクリテイク基準を理解し実践できる。 4. 質的研究のデータ収集法と分析方法について理解を深める。 					
キーワード	科学的研究プロセス、質的研究、量的研究、クリテイク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	(講義)			教科書	勝野
2	科学とは？ 看護研究のプロセス	看護学の科学的意義および研究のプロセス (講義)			教科書、資料	勝野
3	研究デザイン：量的研究	調査研究、準実験研究、純実験研究デザイン (講義)			教科書、資料	勝野
4	研究デザイン：質的研究	現象学、ethnography, grounded theory (講義)			教科書、資料	勝野
5	研究方法：データ収集方法	質的データ：観察法、インタビュー法など (講義) 量的データ：質問紙 (講義)			教科書、資料	勝野
6	研究論文のクリテイクの意義と方法	クリテイクの方法の理解 (講義)			教科書、資料	勝野
7	研究論文のクリテイクの実際 (質的研究)	質的研究論文をクリテイクする (演習、ゼミ)			資料	勝野
8	研究論文のクリテイクの実際 (量的研究)	量的研究論文をクリテイクする (演習、ゼミ)			資料	勝野
9	質的研究データ分析方法	実際の質的データを分析する (講義、ゼミ)			教科書、資料	勝野
10	質的研究プロジェクト①	プロジェクトで実施する研究疑問、研究方法を考察する (演習)			教科書、資料	勝野
11	質的研究プロジェクト②	対象者の選定と依頼方法について考察する (演習)			教科書、資料	勝野
12	質的研究プロジェクト③	データ収集と分析 (演習)			教科書、資料	勝野
13	質的研究プロジェクト④	まとめ (演習)			教科書、資料	勝野
14	質的研究プロジェクト発表①	プロジェクト研究成果発表と討論 (ゼミ、講義)			教科書、資料	勝野
15	質的研究プロジェクト発表②	プロジェクト研究成果発表と討論 (ゼミ、講義)			教科書、資料	勝野

【別紙 1】 新

履修条件	なし
教科書・参考図書等	<ol style="list-style-type: none">1. Polit, D.F.&Hungler, B.P. Nursing Research: Plinciples and Methods. J.B. Lippincott.2. D.F.ポーリット & C.T. ベック著 近藤潤子監訳：看護研究:原理と方法 (第2版)、医学書院.3. Morse, J.M. Qualitative nursing Research: A contemporary dialogue. Sage.4. Krippendorff, K. Content analysis: An introduction to its methodology. Sage. その他必要に応じて提示する。
成績評価方法	課題レポート (80%) と授業への貢献度 (20%) を総合して評価する。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
臨床倫理特論	M11003	2 (30)	必修	1	後期	教授 清水哲郎
担当教員 職位・氏名	教授 清水哲郎、濱中喜代 講師 石井真紀子					
授業概要	臨床現場で看護師をはじめとして医療従事者が患者本人や家族と向き合い・寄り添いながら医療・ケアを進める中で生じる問題に、多職種が協働して対応する際の要となる「どうしたらよいか」を考える営みを臨床倫理という。本講では看護における倫理的な概念の振り返りを行う。履修者が臨床で遭遇した事例を出し合い、看護学領域・人文社会系領域の教員がスーパーバイズする事例検討を行う。モデル事例を用いて倫理的課題の検討方法について理論的・実践的な理解を深める。多職種の中で臨床倫理を進める能力を修得する。さらに事例検討から得られた臨床倫理能力を発展させる方法についても学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場で医療・ケアを進める中で生じる問題について説明できる。 2. 看護における倫理的な概念について説明できる。 3. 臨床で遭遇した事例を振り返り、倫理的な課題やその解決方法を考えることができる。 4. モデル事例を用いた倫理的課題の検討方法について、理論的・実践的に説明できる。 5. 臨床倫理能力を発展させるための個人・集団における具体的な方法を身につけることができる。 					
キーワード	倫理的課題、倫理的な概念、事例検討の方法、臨床倫理能力、多職種協働					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法	授業前後 の学習	担当		
1	臨床倫理の守備範囲と目指すもの	臨床倫理・講義	参考文献の精読	清水・濱中		
2	医療・ケアを進める中で生じる問題①(本人・家族の意思決定支援)	意思決定支援・講義	参考文献の精読	清水		
3	医療・ケアを進める中で生じる問題②(倫理的課題)	倫理的課題・講義	参考文献の精読	濱中・石井		
4	看護における倫理的な概念①: ケアリング・コンパッション	倫理的概念・演習: 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	濱中		
5	看護における倫理的な概念②: アドボカシー・パートナーリズム	倫理的概念・演習: 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	濱中		
6	看護における倫理的な概念③: インフォームドコンセント・守秘義務	倫理的概念・演習: 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	石井		
7	臨床で遭遇した事例の振り返り①	演習 GW	自己の経験を振り返りレポート作成	濱中・石井		
8	臨床で遭遇した事例の振り返り②	演習 GW	同上	濱中・石井		
9	臨床で遭遇した事例の振り返り③	演習 GW	同上	濱中・石井		
10	事例検討の方法: 理論編	講義	参考文献の精読	清水		
11	事例検討の方法: 実践編1 (チーム連携)	演習: 事例展開 GW	事例事前に記述	濱中・石井		
12	事例検討の方法: 実践編2 (多職種連携)	演習: 事例展開 GW	同上	濱中・石井		
13	臨床倫理能力を発展させる方法: 個人 (自己研鑽)	講義	関連文献の読み込み	濱中		
14	臨床倫理能力を発展させる方法: 集団 (ファシリテーション)	講義・演習 GW	同上	清水・濱中		
15	まとめ	講義・演習	同上	清水・濱中		

【別紙 1】 新

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	清水哲郎 看護学生のための哲学・倫理学・死生学 2019 石垣靖子、清水哲郎編著：臨床倫理ベーシックレッスン 日本看護協会出版会 2012 鶴若麻理、麻原きよみ編：ナラティブでみる看護倫理 南江堂 2013
成績評価方法	事前事後学習・プレゼンテーション 20% 振返りレポート 30% GW 貢献度 20% 最終レポート 30%

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
多職種連携特論	M11004	2 (30)	必修	1	後期	教授 鈴木るり子
担当教員 職位・氏名	教授 鈴木るり子 講師 相澤出					
授業概要	地域包括ケアが研究上の論点としても、ケアの実践上のテーマとしても、さらには政策においても注目される今日にあって、多職種連携について考えることは避けられない。臨床や在宅など多様なケアの現場において、患者と家族のQOLを維持、向上させるためには多種多様な専門職の連携が求められる。そこで本講義では、多職種連携を理論的に考察する視点を学び、多職種連携に関する我が国の現状と課題の理解を進めていく。内容としては、チームケアや多職種連携を考えるための基礎的理論の検討や、チームケア、地域内連携の事例検討によって理解を深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、ケアに携わる専門職の特徴について理解し、他者にも説明ができる。 2、現代のチームケアのあり方について理解し、他者にも説明ができる。 3、チームケアにおける患者及び家族との協働について理解し、他者にも説明ができる。 4、チームケアの実態を、組織論など講義内容の観点に即して考察することができる。 5、地域内における他領域との連携の意義について理解し、地域におけるケアシステムのあり方について批判的な検討ができる。 					
キーワード	専門職・チームケア・QOL・地域包括ケアシステム					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	はじめに：本講義の概要	本講義の概要、全体像についての説明（講義）		受講者の問題関心等を尋ねる。	共同	
2	多職種連携を捉える視点①	専門職論に関する社会学的な視点についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
3	多職種連携を捉える視点②	専門職と患者の関係を捉える社会学的な視点についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
4	多職種連携を捉える視点③	患者中心の医療という視点の登場についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
5	多職種連携を捉える視点④	チーム医療に関する医療社会学的な研究の概要についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
6	多職種連携を捉える視点⑤	実践共同体としてチームを捉える視点についての解説（講義）		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	

【別紙1】新

7	多職種連携を捉える視点⑥	実践共同体における実践知のあり方についての解説（講義）	事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤
8	多職種連携の理解①	チームケアにおける看護職の役割と意義についての（講義）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
9	多職種連携の理解②	ケアをめぐる看護職と他分野の専門家との連携について（講義）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
10	多職種連携の理解③	医療専門職間の連携についての事例検討（演習・GW）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
11	多職種連携の理解④	医療と介護の連携についての事例検討（演習・GW）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
12	多職種連携の理解⑤	医療と福祉の連携についての事例検討（演習・GW）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
13	多職種連携の理解⑥	医療・福祉と行政の連携についての事例検討（演習・GW）	事前に講義資料等を読んでおく	鈴木
14	地域における多職種連携のまとめ	地域内連携および他職種、他領域の専門職との連携の可視化について（プレゼンテーション） （講義・演習・GW）	プレゼンテーションできるように事前準備をしておく	鈴木
15	おわりに：本講義のふりかえり	本講義の全体的なふりかえり （講義・演習）	特になし	共同
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		細田満和子、2012、『チーム医療とは何か』日本看護協会出版会 田村由美、2018、『新しいチーム医療 改訂版』看護の科学社 その他、担当講師が準備する資料		
成績評価方法		授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、課題提出（20%）、レポート（20%）から評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
質的研究方法特論	M11006	2 (30)	選択	1	前期	講師 相澤 出
授業概要	<p>広く質的研究法とされるさまざまな方法について、専門的な解説・紹介を行う。人間と社会をめぐる事象における個別具体的な側面に着目し、そこにアプローチしようとする方法はさまざまある。本科目では、ある地域、ある人の人生の個性ある歴史的側面に注目する方法や、ある文化を共有した人々、あるいはある特定の個人の生活世界にアプローチする方法に立ち入り、その思想的背景などもふまえながら解説を行う。</p>					
到達目標	<p>これまでの社会学（それ以前の社会思想史的な部分も含みつつ）の領域で、人間の行為とその意味の理解に関する、基本的な議論を理解し、説明できるようになること。</p>					
キーワード	行動、実証主義、行為、意味、理解、モノグラフ、生活世界、ライフヒストリー					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	はじめに	講義の概要及び受講者の関心の所在の確認（講義）		受講に当たっての問題関心を考えてくること。	相澤	
2	「人間本性」に関する研究の歴史①	T. パーソンズの議論を踏まえた T. ホップズの間観についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
3	「人間本性」に関する研究の歴史②	パーソンズの議論を踏まえた J. ロックの間観についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
4	「人間本性」に関する研究の歴史③	社会科学の歴史における「実証主義」的人間像についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
5	歴史主義の登場とその視点の特徴	実証主義的な人間像に対抗して出現した人間や社会の捉え方についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
6	行動の説明から行為の理解へ	M. ヴェーバーの社会科学論を踏まえた行為の意味に注目する視点についての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
7	理解社会学の視点	社会学における行為の意味へのアプローチについての解説（講義）		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	

【別紙1】新

8	相互行為の場に注目する視点①	同時代に発達したアメリカのシカゴ学派の社会学における、ミクロな視点の社会学とそこでの社会調査についての解説（講義）	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
9	相互行為の場に注目する視点②	前回に続き、シカゴ学派の理論とモノグラフ研究についての解説（講義）	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
10	シンボリック相互作用論とグラウンデッドセオリー	シカゴ学派の理論的所産としてのグラウンデッドセオリーについての解説（講義）	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
11	生活世界へのアプローチ	A. シュッツの議論をもとに、理解社会学、現象学、さらにはアメリカの社会学の視点による「生活世界」の論じ方についての解説（講義）	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
12	地域の個性へのアプローチ	シカゴ学派のモノグラフ、日本の社会学における村落研究のモノグラフ研究など、フィールドワークをめぐる社会学の学説史についての解説（講義）	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
13	人の個性へのアプローチ	ライフヒストリー研究の視点についての解説（講義）	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
14	ライフヒストリーとライフストーリー	近年におけるライフストーリー論の登場とライフヒストリー研究との関係性についての解説（講義）	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
15	おわりに	本講義の内容のふりかえり（講義）		相澤
履修条件		看護研究方法特論を履修していること		
教科書・参考図書等		教科書は特に指定はない。参考図書については、講義中に適宜紹介する。		
成績評価方法		講義への参加状況（30%）とレポート（70%）によって評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
医療社会学特論	M11007	2 (30)	選択	1	後期	講師 相澤 出
授業概要	医療社会学の基礎について学修する。医療社会学の基礎を築いたのが、T. パーソンズである。パーソンズは20世紀における社会学の巨人であるが、彼は医療社会学の先駆者でもあった。彼が提示した議論は、後にはさまざまな研究者から批判を受けるところもあるが、いずれ肯定的にであれ、否定的にであれ、避けては通れない存在である。そこでパーソンズの議論（さらにはそれに対する批判）を学ぶことを通じて、医療社会学の基礎に関する理解を深める。					
到達目標	医療社会学の基礎的な議論、基本的な概念について理解を深め、それについて説明できるようになることを目指す。					
キーワード	行為論、機能主義、価値、役割、病人、専門職、合議制アソシエーション、患者の権利					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	はじめに—医療社会学の出発点	本講義の概要の解説 受講者の問題関心の所在確認 (講義)		受講に当た っての問題 関心を考え てくること。	相澤	
2	行為論における実証主義と理想主義	医療社会学の基礎としての行為 論の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
3	行為論と機能主義の視点	パーソンズの社会学の理論構成 上の要点としての行為論と機能 主義の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
4	社会学における役割論	パーソンズの理論における役割 論の理論的背景の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
5	役割論と社会システム論	パーソンズの社会システム論の 基本的な構図の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
6	医療社会学における「病人役割」	医療社会学における基礎概念と しての病人役割と、その問題点 の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	
7	「病い」を捉える社会学的視点	「病い」の社会学的なとらえ方 について、パーソンズの議論と それ以外の議論の解説 (講義)		講義中に配 布した資料 等の復習を 行うこと。	相澤	

【別紙1】新

8	パーソンズの医療専門職とそれに対する批判	医療専門職をめぐるパーソンズの議論と、その後に見れた専門職論の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
9	社会や集団に共有された価値のとらえ方	社会や集団における、規範の基礎、社会的役割の土台となる、共有された価値のとらえ方の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
10	医師—患者関係への社会学的アプローチ	医療現場における専門職と患者の関係の理解のための、医師—患者関係、および社会的コントロールをめぐる議論の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
11	医療現場の組織論としての官僚制論	医療現場と関係する、あるいは医療専門職が職務を遂行する上で関係する現代社会の組織形態としての官僚制の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
12	医療現場の組織論としての合議制アソシエーション論	官僚制組織とは異なる、現代の専門職の組織のあり方としての合議制アソシエーションの解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
13	患者の権利の位置づけ	患者の権利に関するパーソンズの医療社会学の議論の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
14	医療思想の変化	現代社会の医療現場における患者を中心とした医療のあり方、多職種の連携に関するパーソンズの視点の解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
15	医療における死の問題	パーソンズの医療社会学において、死の問題がどのように議論されているかの解説 (講義)	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		高城和義『パーソンズ—医療社会学の構想』岩波書店		
成績評価方法		講義への参加状況 (30%) とレポート (70%) によって評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
フィジカルアセスメント特論	M11008	2 (30)	選択	1	前期	教授 菊池 和子
担当教員 職位・氏名	教授 菊池 和子、江守 陽子					
授業概要	健康問題をもった対象者の身体状況をアセスメントし、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得する。フィジカルアセスメントの目的・方法・必要性についての理解を基盤として、フィジカルアセスメントを活用した適切な情報を収集・分析し包括的なアセスメントから特定の問題を明確化できるコミュニケーション技術を身につけ、臨床判断を行う基礎的能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題をもつ個人を対象とするフィジカルアセスメントの目的・方法・必要性について説明できる。 フィジカルアセスメントを活用した適切な情報収集・分析ができる。 包括的なアセスメントから特定の問題を明確化できるコミュニケーション技術を身につけ、臨床判断を行う基礎的能力を身につけることができる。 					
キーワード	フィジカルアセスメント、健康問題、包括的なアセスメント					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	フィジカルアセスメントの意義 必要な知識・技術 診査方法	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
2	頭部・頸部・感覚器系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
3	胸部(心臓・血管系)のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
4	胸部(呼吸器・乳房)のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
5	腹部のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
6	骨・筋肉系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
7	神経系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
8	女性の生殖器と性機能のアセスメント(生殖器と 性機能に関する問診・視診・触診・聴診・計測診 の方法)	講義・演習			授業項目の 予習	江守
9	女性の生殖器と性機能のアセスメント(性行動・ 性に関する問診・視診・触診・計測診)	講義・演習			授業項目の 予習	江守
10	内科疾患(呼吸器系)が疑われる患者のフィジカル アセスメント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	菊池
11	内科疾患(消化器系)が疑われる患者のフィジカル アセスメント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	菊池
12	外科疾患(脳外科系)が疑われる患者のフィジカル アセスメント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	菊池

【別紙 1】 新

13	外科疾患（消化器外科系）が疑われる患者のフィジカルアセスメント	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	菊池
14	フィジカルアセスメントで得られたデータの統合と看護における臨床判断 事例検討①	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	菊池
15	フィジカルアセスメントで得られたデータの統合と看護における臨床判断 事例検討②	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	菊池
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		小野寺千枝子監修：実践！フィジカル・アセスメント，金原出版，2008. 上田剛士：ジェネラリストのための内科診断リファレンス：エビデンスに基づく究極の診断学をめざして，医学書院，2014. 北野正剛：標準外科学第15版，医学書院，2019. 授業で紹介する。		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 50% レポート 50%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
コンサルテーション 特論	M11009	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
授業概要	多様な臨床で展開されている高度実践看護師などによるコンサルテーションの活動から、コンサルタントに必要な専門的な役割とその能力を学修し、看護実践家として自身の所属する臨床現場において適応可能なコンサルタント的な役割を検討する。関連して、組織全体を見通すことによって、学習し変革を遂げる組織であるための問題と課題を検討し、組織における自身の役割を検討する。					
到達目標	①自身の所属する組織が現在置かれている時代状況（経営と医療政策）を理解する。 ②組織が抱えているコンサルテーションのニーズを組織段階別に理解する。 ③看護実践の開発と看護人材育成の双方に看護研究が密接に関係していることを理解する。 ④所属する組織における自身の役割発揮の計画と立案ができる。					
キーワード	病院経営，診療報酬改定，地域包括ケア，コンサルテーション（個人・チーム・管理職・看護部），看護研究，看護実践，人材育成，専門多職種連携，病棟・病院における役割					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神科病院が組織として迎えている時代状況 ①	診療報酬と病院経営の課題（講義）			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神科病院が組織として迎えている時代状況 ②	病院組織の課題（講義）			同上	岡田
3	地域包括ケアが求める医療政策と現状	地域包括ケア構想と現状（講義）			同上	岡田
4	コンサルテーションのニーズ ①	看護職個人が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
5	コンサルテーションのニーズ ②	看護チームが抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
6	コンサルテーションのニーズ ③	病棟が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
7	コンサルテーションのニーズ ④	中間管理職が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
8	コンサルテーションのニーズ ⑤	看護管理者が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
9	学習し変革を遂げる病院における役割 ①	PDCA サイクルを回す看護実践（講義）			同上	岡田
10	学習し変革を遂げる病院における役割 ②	看護実践と看護研究の連結（講義）			同上	岡田
11	学習し変革を遂げる病院における役割 ③	看護研究と人材育成の連結（講義）			同上	岡田
12	学習し変革を遂げる病院における役割 ④	看護介入プログラムの開発（講義）			同上	岡田
13	学習し変革を遂げる病院における役割 ⑤	専門多職種との連携形態（講義）			同上	岡田
14	熟達した看護師としての役割 ①	病院組織における役割（総括）（講義）			まとめ	岡田
15	熟達した看護師としての役割 ②	看護部組織における役割（総括）（講義）			同上	岡田

【別紙1】新

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none">・P. ベナー著，井部監訳：ベナー看護論（新訳版）—初心者から達人へ，医学書院・西村ユミ著：看護実践の語り—言葉にならない営みを言葉にする，新曜社・同上：語りかける身体—看護ケアの現象学，講談社学術文庫・同上：看護師たちの現象学—協働実践の現場から，青土社・金井壽宏・楠見孝編：実践知—エキスパートの知性，有斐閣・畑村洋太郎著：失敗学のすすめ，講談社文庫
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none">・課題提起時の文献検討（20%）とメンバー間のディスカッション（20%）への参加姿勢（20%）を評価します。・自身の所属組織における課題と役割に関するレポート作成（40%）を評価します。・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
災害看護特論	M11010	2 (30)	必修	1	後期	教授 鈴木り子
授業概要	<p>東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県をフィールドに、各国で多発する自然災害及び人為的災害（放射線等）に対して、災害時の復旧・復興期に対応する高度な専門知識、技術の理解を深め、その状況にふさわしい倫理観を身に付ける。</p> <p>また、国内外の災害現場における専門職者の講義を取り入れ、多様な災害現場における看護職の活動と災害に対する予防・減災・復旧・復興に対する看護活動について探究する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護における概念及び災害看護能力を発展させるため具体的な方法を身につけることができる。 2. 災害の歴史的背景と災害発生場所の地域診断を行い災害が生じる原因について理論的・実践的に説明できる。 3. 東日本大震災の被災地を事例に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言ができる。 4. 被災地におけるSC (Social Capital) 醸成の事例を振り返り、看護者としてSC (Social Capital) の理論に基づいた実践、課題やその解決方法を考えることができる。 5. 国内外の多様な現場における専門職者から看護職の災害活動の展望を探究できる。 					
キーワード	災害看護の概念、災害予防・減災・復旧・復興、政策提言、臨床倫理能力、Social Capital					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	災害看護の概念と必要とされる能力①	授業ガイダンス、 社会疫学的視点・臨床 倫理能力について (講義)		到達目標に対す る自己目標を作 成し講義に臨む	鈴木	
2	災害看護の概念と必要とされる能力②	被災地におけるSC・臨 床倫理能力について (講義)		事前に講義資料 を読んでおく	鈴木	
3	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生 原因の探求①	災害発生場所の地域診 断手法について (講義)		地域診断手法に ついて講義資料 を読んでおく	鈴木	
4	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生 原因の探求②	災害発生場所の地域診 断の実践 (演習・GW)		事前に講義資料 を読んでおく	鈴木	
5	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生 原因の探求③	災害発生場所の地域診 断の実践 (演習・GW)		事前に講義資料 を読んでおく	鈴木	
6	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復 旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言	PDCA cycle および災害 予防・減災・復旧・復興 の政策提言のプロセス について・臨床倫理能 力について (講義)		フェーズ 0～5-2 別災害保健活動 について講義資 料を読んでおく	鈴木	

【別紙 1】 新

7	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成①	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる (演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	鈴木
8	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成②	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる (演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	鈴木
9	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成③	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる (演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	鈴木
10	政策提言の災害予防・減災・復旧・復興の1項目を選び実践計画書の作成	実践計画書の作成プロセスおよび議会形式で行うプレゼンテーションについて (講義)	事前講義資料を読んでおく	鈴木
11	政策提言の災害予防・減災・復旧・復興の1項目を選び実践計画書を作成①	実践計画書の4枚のスライド作成 (演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	鈴木
12	実践計画書のプレゼンテーション	実践計画書のプレゼンテーション (演習)	プレゼンテーションできるように事前準備をしておく。	鈴木
13	ゲストスピーカーによる実践活動の探求①	(講義)	ゲストスピーカーの活動内容について事前に把握しておく	鈴木
14	ゲストスピーカーによる実践活動の探求②	(講義)	ゲストスピーカーの活動内容について事前に把握しておく	鈴木
15	まとめ 到達目標の評価	まとめ 到達目標の評価 (講義)	事前に到達目標の評価をしておく	鈴木
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		カワチイチロー他, 2017, 『社会疫学「上・下」』, 大修館書店 カワチイチロー他, 2008, 『ソーシャル・キャピタルと健康』, 日本評論社 御厨貴, 2016, 『大震災復興過程の政策分析』 ミネルヴァ書房 麻原きよみ他, 2018, 『保健師と放射線』 真興交易(株) 医書出版部 その他、担当講師が準備する資料		
成績評価方法		授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出 (20%)、レポート (20%) から評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護学教育特論	M11011	2 (30)	必修	1	後期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子、濱中喜代 准教授 土田幸子 講師 石井真紀子					
授業概要	看護職における看護基礎教育と継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職への教育のあり方について探求する。具体的には、日本の看護教育制度の特徴、看護教育カリキュラムの変遷、と課題、生涯教育の観点から、成人学習に関する教育方法の基礎的理論を学ぶとともに、看護基礎教育および看護継続教育における教育プログラムの作成・教育内容・教材開発・教育評価の方法や留意点について学修する。 さらに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における教育の基本的な方向性、わが国の医療政策と看護教育課程に及ぼす影響、これからの看護の機能と教育のあり方などについても考察する。					
到達目標	1. 看護教育制度の現状について説明できる 2. 看護学教育の課題について自分の考えが説明できる 3. 主体的な学びを支援するような教育的関わりについて説明できる 4. 教育評価について説明できる。 5. 授業および看護実習指導のあり方について考えることができる 6. 成人学習者の特徴を理解し、説明することができる					
キーワード	看護教育制度、看護教育課程、教育評価、成人学習、看護基礎教育、看護継続教育、					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	日本の学校教育制度、日本の看護教育の歴史	社会の変遷と看護教育の変遷 これからの看護教育・講義		事前・事後の 自己学習	土田	
2	看護基礎教育の現状と課題①	教育の現状と課題の明確化・グループワーク		事前・事後の 自己学習	土田	
3	看護基礎教育の現状と課題②	教育課題への取り組み・グループワーク		事前・事後の 自己学習	土田	
4	看護継続教育の現状と課題① 教育制度の特徴と現状、大学院教育、卒後教育、新任教育、院内教育	継続教育の現状と課題の明確化・グループワーク		事前・事後の 自己学習	濱中	
5	看護継続教育の現状と課題② 認定看護師、専門看護師、特定看護師制度	継続教育の課題への取り組み・グループワーク		事前・事後の 自己学習	濱中	
6	看護学教育組織における現状と課題 組織の維持・FD (Faculty Development)	教育機関における学生の受け入れ・入学選抜、教育目的・目標の設定、教育内容の選定、組織運営・講義		事前・事後の 自己学習	濱中	
7	学習指導法 ①：授業案の作り方/授業の展開	授業展開論、学習のレディネス・講義		事前・事後の 自己学習	土田	
8	学習指導法 ②：学内演習、看護技術教育	授業形態と教育方法・講義		事前・事後の 自己学習	石井	
9	学習指導法 ③：臨床実習指導	看護学実習の位置づけと目的 看護学実習の課題・講義		事前・事後の 自己学習	濱中	

【別紙1】新

10	学習指導法 ④：臨床実習指導	各自の実習指導経験について ・プレゼンテーション・討議	事前・事後の 自己学習	濱中
11	看護教育評価法 教育評価の意義、方法、実際	教育課程の評価、教授活動の評 価、学生の授業評価・講義	事前・事後の 自己学習	江守
12	成人学習者の特徴と学習理論 ①	成人学習者の特徴と傾向 成人の生涯学習・講義	事前・事後の 自己学習	石井
13	成人学習者の特徴と学習理論 ②	成人教育とは何か ペダゴジーとアンドラゴジーの 比較・講義・各自の教育経験に ついてプレゼンテーション、講 義・グループワーク	事前・事後の 自己学習	石井
14	わが国の医療政策と看護教育の関係	わが国の医療提供体制と現状、 医療施設の再編と看護教育への 影響、医療政策と医療従事者の 育成・講義	事前・事後の 自己学習	江守
15	まとめ これからの看護教育の在り方について	学修成果の共有・講義・プレゼ ンテーション・討議	事前・事後の 自己学習	江守
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		その都度紹介する		
成績評価方法		授業態度 (20%)、グループワーク参加度 (40%)、課題学習 (20%)、レポート (20%) によって 評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学特論 I (看護援助学特論)	M21001	2 (30)	選択	1	前期	教授 菊池 和子
授業概要	看護活動の場で実践されている看護援助の理論的背景について、主に中範囲理論としてペプロウ看護論、トラベルビー看護論、ストレス・コーピング理論、危機理論、ボディーイメージ・自己概念に関する理論、喪失・悲嘆に関する理論やリフレクションに関する理論を学び、看護実践への活用について学修する。自己の看護実践を理論と統合し、理論を活用して看護実践を展開する能力を養う。					
到達目標	1. 看護活動の場で実践されている看護援助の理論的背景について説明できる。 2. 自己の看護実践を理論と統合し、考察できる。					
キーワード	看護活動、看護援助、看護理論					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	看護実践と看護援助の理論	講義				菊池
2	ペプロウ看護論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
3	ペプロウ看護論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
4	トラベルビー看護論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
5	トラベルビー看護論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
6	ストレス・コーピング理論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
7	ストレス・コーピング理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
8	危機理論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
9	危機理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
10	ボディーイメージ・自己概念に関する理論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
11	ボディーイメージ・自己概念に関する看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池

【別紙 1】 新

			準備	
12	喪失・悲嘆に関する理論	文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
13	喪失・悲嘆に関する理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
14	リフレクションに関する理論	文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
15	リフレクションに関する理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
履修条件	特になし			
教科書・参考図書等	黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論第2版，学研メディカル秀潤社，2015. H. E. Peplau, (1952)／田八重子他訳：ペプロウ人間関係の看護論，医学書院，1973 Travelbee, J. (1971)／長谷川浩・藤枝知子訳：人間対人間の看護，医学書院，1974. 授業で紹介する			
成績評価方法	プレゼンテーションと討議内容 70% レポート 30%			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21002	2 (30)	選択	1	後期	教授 菊池 和子
授業概要	看護活動の場で実践されている看護援助技術について快適な環境をつくる技術、活動・運動を支援する技術、身体を清潔に保つための技術、食事・栄養摂取に関する技術、薬物療法に関する技術、健康学習を支援する技術や関心のある看護援助技術について文献検討及び根拠となる理論から分析・考察する。さらに根拠に基づく看護援助技術を提供するための方法を探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場で実践されている看護援助技術の根拠となる理論について理解できる。 2. 根拠に基づく看護援助技術を提供する方法を説明できる。 					
キーワード	看護援助技術 背景理論					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護援助技術とは 根拠に基づく看護技術研究の変遷	プレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
2	快適な環境をつくる技術	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
3	物理学の理論と体位変換の看護技術との関連	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
4	活動を支援する技術 生きがいに関する理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
5	身体を清潔に保つ技術と皮膚の生理学的特徴との 関連	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
6	清潔ケアが生体に及ぼす影響	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
7	食事・栄養摂取を促す技術 健康と食事	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
8	食事・栄養摂取を促す技術の背景理論 食事介助に関する理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
9	薬物療法に関する技術の背景理論 根拠に基づく注射技術	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
10	薬物療法に関する技術 安全な与薬のための理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
11	健康学習を支援する技術の変遷	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
12	健康学習を支援する技術の背景理論 健康学習を支援する技術の理論化の検討	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
13	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討 ①	文献のプレゼンテーションと討議		文献検討	菊池	
14	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討 ②	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
15	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討 ③	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	

【別紙 1】 新

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	村中陽子他編：看護ケアの根拠と技術 第3版, 医歯薬出版, 2019. 授業で紹介する
成績評価方法	プレゼンテーション及び討議内容 70% レポート 30%

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
基礎看護学演習 I	M21003	2 (30)	選択	1	前期	教授 菊池 和子
担当教員 職位・氏名	教授 菊池 和子 講師 石井真紀子					
授業概要	文献検索に必要な知識と技術と共に文献のクリティークを行う能力を養う。看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」で学修する内容と関連する文献について量的研究、質的研究それぞれについてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。					
到達目標	1. 文献検索に必要な知識と技術を修得する。 2. 文献のクリティークを行うことができる。					
キーワード	文献検索、文献検討、文献のクリティーク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護実践で行われている看護援助についての文献検討(文献検索に必要な知識と技術)	文献検索に必要な知識と技術のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
2	看護実践で行われている看護援助についての文献検討(文献検索の実際)	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
3	看護実践で行われている看護援助についての文献のクリティーク	文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
4	看護技術のエビデンスに関する基礎的研究のクリティーク	文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
5	看護技術のエビデンスに関する臨床研究のクリティーク	文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
6	量的研究のクリティーク	量的研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
7	看護実践の実態調査に関する量的研究のクリティーク	量的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
8	看護援助に関する量的研究のクリティーク	量的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
9	質的研究のクリティーク	質的研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
10	看護援助に関する質的研究のクリティーク①	質的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	

【別紙 1】 新

11	看護援助に関する質的研究のクリティーク②	質的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
12	看護援助の開発に関する質的研究のクリティーク	質的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
13	看護理論を活用した研究のクリティーク①	看護理論を活用した研究のクリティークに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
14	看護理論を活用した研究のクリティーク②	看護理論を活用した研究のクリティークに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
15	看護理論を活用した研究のクリティーク③	看護理論を活用した研究のクリティークに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
履修条件		基礎看護学特論 I を履修していること		
教科書・参考図書等		「看護理論特論」、「基礎看護学特論 I」、「基礎看護学特論 II」、「看護研究方法特論」で使用する参考書		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 70% レポート 30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学演習Ⅱ	M21004	2 (30)	選択	1	後期	教授 菊池和子
授業概要	基礎看護学演習Ⅰで得られた研究成果と課題の分析から、自己の関心のある看護援助について文献のクリティークを行い研究成果や課題を考察し、自己の研究課題を明確化する。「看護研究方法特論」の学修を活用し、文献検討から研究課題を解くための研究方法を検討する。研究課題に即した研究デザインを検討し、研究計画書の作成を行う。					
到達目標	1. 文献のクリティークを行い研究成果や課題を考察することができる。 2. 研究計画書を作成できる。					
キーワード	文献検索、文献検討、文献のクリティーク、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	自己の関心のある看護援助に関する文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
2	自己の関心のある看護援助に関する国内の量的研究の文献検討	修論のテーマに関する国内文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
3	自己の関心のある看護援助に関する海外の量的研究の文献検討	修論のテーマに関する海外文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
4	自己の関心のある看護援助に関する量的研究の研究成果と課題	修論のテーマに関する研究成果と課題に関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
5	自己の関心のある看護援助に関する国内の質的研究の文献検討	修論のテーマに関する国内文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
6	自己の関心のある看護援助に関する海外の質的研究の文献検討	修論のテーマに関する海外文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
7	自己の関心のある看護援助に関する質的研究の研究成果と課題	修論のテーマに関する研究成果と課題に関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
8	研究計画書の作成① 研究課題の明確化	研究課題に関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
9	研究計画書の作成② 研究の理論的枠組みの検討	研究の理論的枠組みに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
10	研究計画書の作成③ 研究デザイン	研究デザインに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	

【別紙 1】 新

11	研究計画書の作成④ 研究対象	研究対象に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
12	研究計画書の作成⑤ 調査内容・測定用具	調査内容・測定用具に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
13	研究計画書の作成⑥ データ収集方法・手順	データ収集方法・手順に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
14	研究計画書の作成⑦ データ分析方法	データ分析方法に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
15	研究計画書の作成⑧ 倫理的配慮の検討	研究の倫理的配慮に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
履修条件		基礎看護学特論Ⅱを履修していること		
教科書・参考図書等		院生の関心領域に関する文献を授業で紹介する		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 50% 研究計画書 50%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学特論 I (看護援助学特論)	M21005	2 (30)	選択	1	前期	教授 鈴木るり子
授業概要	地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者に、看護者として必要な知識・技術・倫理観について考察する。また、国内外の在宅看護の実際について分析し、我が国における新たな在宅看護の展開について探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者の保健・福祉・医療制度について説明することができる。 2. 国内外の在宅看護の実際について述べ、それぞれの国における課題について説明することができる。 3. 在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法について説明することができる。 4. 我が国における新たな在宅看護の展開について述べることができる。 					
キーワード	在宅療養者の保健・医療・福祉制度、国内外の在宅療養者、QOLの向上					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1、2	我が国における地域社会で療養生活を営んでいる現状と課題及びそれを支えている訪問診療・訪問看護・訪問ヘルパー等の現状と課題 ①	授業ガイダンス。我が国における訪問診療・訪問看護・訪問ヘルパー事業所等の実態 (講義)			到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	鈴木
3、4	地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者の保健・福祉・医療制度の現状と課題 ②	我が国におけるライフサイクルごとの保健・福祉・医療制度の実態 (演習・GW)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
5、6	国内外の在宅看護の現状とそれぞれの国における課題 ①	在宅事例を用い国内外の実態とその課題(例:ALS等の指定難病) (講義)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
7、8	国内外の在宅看護の現状とそれぞれの国における課題 ②	在宅事例を用い国内外の実態とその課題(例:ALS等の指定難病) (演習・GW)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
9、10	在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 ①	在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 (講義)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
11、12	在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 ②	在宅療養者及び家族・看護者を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 (演習・GW)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
13、14	我が国における新たな在宅看護の展開 ①	我が国における新たな在宅看護の展開 (講義)			事前に講義資料を読んでおく	鈴木
15	我が国における新たな在宅看護の展開まとめ 到達目標の評価	我が国における新たな在宅看護の展開 (講義・演習・GW)			事前に到達目標の評価をしておく	鈴木

【別紙 1】 新

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	中島孝（監）2016『ALS マニュアル決定版 part 2』日本プランニングセンター 川田明広（編）2013『第三号（特定の者対象）のための喀痰吸引等研修テキスト』 その他、担当講師が準備する資料
成績評価方法	授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、課題提出（20%）、レポート（20%）から評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21006	2 (30)	選択	1	後期	教授 鈴木るり子
授業概要	地域や集団を単位とした地域ケアシステム構築に係る既存の概念・理論について理解を深める。また、地域診断を基に地域住民の個別の健康・生活課題を地域全体の健康・生活課題へと発展させ、社会資源の活用と開発、施策化について考察する。これらを通して地域ケアシステムについて探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域ケアシステム構築に関する概念及び理論について理解できる。 2. 地域診断理論による健康・生活課題の抽出、地域ケアサービスの質の保証、施策化の方向性を理解できる。 3. 健康・生活課題課に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発、施策化の方向性を理解できる。 4. 健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの立案ができる。 					
キーワード	地域ケアシステム、地域診断、健康・生活課題の抽出、社会資源の開発、施策化の方向性					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	地域ケアシステム構築に関する概念及び理論	授業ガイダンス、地域ケアシステムの発展過程について (講義)		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む。事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
3、4	地域診断理論 (community as partner model, PRECEDE - PROCEED model) による健康・生活課題の抽出	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
5、6	健康・生活課題の抽出から地域ケアサービスの質の保証	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
7、8	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
9、10	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
11、12	社会資源の開発に必要とされる施策化の方向性	参考事例を基に作成 (講義・演習)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	
13、14	参考事例を基に課題を解決するための地域ケアシステムの立案	参考事例を基に課題解決するための地域ケアシステムのプロセスとプレゼンテーションの方法 (講義・演習・GW)		事前に講義資料を読んでおく	鈴木	

【別紙 1】 新

15	参考事例を基に課題を解決するための地域ケアシステムの提言 まとめ 到達目標の評価	参考事例を基に課題解決するための地域ケアシステムの提言について4枚のスライドでプレゼンテーションする まとめ 到達目標の評価 (演習・GW)	プレゼンテーションできるように事前に準備しておく 事前に到達目標の評価をしておく	鈴木
履修条件	特になし			
教科書・参考図書等	佐伯和子（編）,2014,『公衆衛生看護学テキスト第2巻公衆衛生看護技術』医歯薬出版（株） その他、担当講師が準備する資料			
成績評価方法	授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、課題提出（20%）、レポート（20%）から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学演習 I	M21007	2 (30)	選択	1	前期	教授 鈴木るり子
授業概要	様々なライフサイクルにある療養者がもつ健康問題や環境に対してアセスメントする能力を養う。また、療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力と看護上生じる倫理的問題について検討・考察する能力を養う。これらの過程を通して研究課題の明確化を図る。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究課題について、在宅療養者の支援に関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる。 3. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 4. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。 					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、2	乳幼児・学童児期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	授業ガイダンス 乳幼児・学童児の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (講義・演習)			到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	鈴木
3、4	思春期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	思春期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)			論文講読 発表準備	鈴木
5、6	青年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	青年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)			論文講読 発表準備	鈴木
7、8	老年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	老年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)			論文講読 発表準備	鈴木
9、10	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する研究論文のクリティーク①	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)			論文講読 発表準備	鈴木
11、12	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する研究論文のクリティーク②	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)			論文講読 発表準備	鈴木

【別紙 1】 新

13、14	国内外の在宅看護の現状と課題及び新たな在宅看護の展開に関する研究論文のクリティーク	国内外の在宅看護の現状と課題及び新たな在宅看護の展開に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)	論文講読 発表準備	鈴木
15	在宅看護上生じる倫理的問題に関する研究論文のクリティーク まとめ 到達目標の評価	在宅看護上生じる倫理的問題に関連する研究論文の発表と討議 まとめ 到達目標の評価 (講義・演習・GW)	論文講読 発表準備 事前に到達 目標の評価 をしておく	鈴木
履修条件	地域看護学特論 I を履修していること			
教科書・参考図書等	牧本清子 山川みやえ,2020,『よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版』日本看護協会出版会 その他、担当教員が準備する資料			
成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出 (20%)、レポート (20%) から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学演習Ⅱ	M21008	2 (30)	選択	1	後期	教授 鈴木りり子
授業概要	自己の研究課題に焦点をあて、その研究の課題を解明するための理論的枠組みについて方法論の正当性や実現可能性について検討する。課題に即した研究デザイン、研究計画を採用する過程を通して自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 自己の研究課題について、地域ケアシステムに関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 3. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。					
キーワード	文献検索、文献購読、文献要約、研究デザイン、研究計画					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	地域ケアシステムに関する研究論文のクリティーク	授業ガイダンス 地域ケアシステムに関連する研究論文の発表と討議 (講義・演習・GW)		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	鈴木	
3、4	地域ケアシステム構築に関する研究論文のクリティーク	地域ケアシステム構築に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
5、6	地域ケアシステム構築に関する地域診断・健康・生活課題の抽出に関する研究論文のクリティーク	地域ケアシステム構築に関する地域診断・健康・生活課題の抽出に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
7、8	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性に関する研究論文のクリティーク	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性に関連する研究論文の発表と討議 (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
9、10	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発に関する研究論文のクリティーク	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発に関連する研究論文の発表と討議 (講義・演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
11、12	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク①	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議① (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	
13、14	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク②	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議② (演習・GW)		論文講読 発表準備	鈴木	

【別紙 1】 新

15	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク③ まとめ 到達目標の評価	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議③ まとめ 到達目標の評価 (講義・演習・GW)	論文講読 発表準備 事前に到達 目標の評価 をしておく	鈴木
履修条件	地域看護学特論Ⅱを履修していること			
教科書・参考図書等	近藤尚己,2016,『介護予備活動のための地域診断データの活用と組織連携ガイド 地域包括ケアの推進に向けて』,株式会社 三響社 牧本清子 山川みやえ,2020,『よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版』日本看護協会出版会 その他、担当講師が準備する資料			
成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出 (20%)、レポート (20%) から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
老年看護学特論 I (看護援助学特論)	M31001	2 (30)	選択	1	前期	教授 勝野とわ子
授業概要	高齢期にある人々の健康維持・増進、疾病予防について全人的に課題を把握し分析する。その為に高齢者ケアに応用可能な理論の理解を深め、実践における応用可能性を探求する。さらに、生活習慣病やストレス等に関連する健康問題に着目し、終末期を含めたQOLの維持向上を目指した看護介入方法とその評価方法を探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者ケアに応用可能な理論について理解を深め説明できる。 2. 高齢者の健康を全人的にアセスメントする方法について理解する。 3. 生活習慣病やストレスと自己管理能力に焦点を当てて、看護介入方法について理解する。 4. 高齢者の健康を支援するための社会資源や保健医療福祉サービスのシステムの課題について理解し説明できる。 					
キーワード	理論、生活習慣病、システム、アセスメント					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	(講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
2	高齢者の健康生活を支援する主要概念と諸理論	高齢者ケアにおける重要概念と理論の意義の理解。健康寿命、QOL, WHO の健康概念、エンパワメント理論などの理解 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
3	セルフケア理論と看護実践	セルフケア理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
4	QOL 理論と看護実践	QOL 理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
5	ストレス・コーピング理論と看護実践	ストレス・コーピング理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
6	スピリチュアリティと看護実践	スピリチュアリティ理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野
7	Parse 看護理論と看護実践	Parse 看護理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討 (講義、ゼミ)			参考書、資料	勝野

【別紙 1】 新

8	高齢者の健康問題の査定法	高齢者を対象としたヘルスアセスメントのポイントを理解 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
9	高齢者の健康問題と生活および環境	生活と環境が高齢者の健康問題に及ぼす影響を理解し介入方法について検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
10	問題解決のための諸制度と諸資源	高齢者の健康問題等に有効に介入するための制度と諸資源の具体的な理解 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
11	問題解決のための看護実践方法とシステム	高齢者の健康問題等の解決に有効な看護実践方法と保健医療福祉サービスシステムの理解 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
12	看護実践方法とシステムの改善と開発①	文献検討から看護実践方法とシステムの開発の検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
13	看護実践方法とシステムの改善と開発②	文献検討、実践例から看護実践方法とシステムの開発の検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
14	慢性疾患を持つ高齢者の自己管理能力を支援する看護	文献や実践例から糖尿病や心疾患を持つ高齢者の自己管理能力支援の重要性を理解するとともに新たな看護方法を検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
15	介護予防のための自己管理能力を支援する看護	文献や実践例から高齢者の健康寿命を支える自己管理能力を支援する新たな看護方法を検討 (講義、ゼミ)	参考書、資料	勝野
履修条件		なし		
教科書・参考図書等		1. Cotter, V.T, & Strumpf, N.E. Advanced practice nursing with older adults: Clinical Guidelines, McGraw Hill. 2. その他必要に応じて提示する。		
成績評価方法		課題レポート (80%) と授業への貢献度 (20%) を総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
老年看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31002	2 (30)	選択	1	後期	教授 勝野とわ子
授業概要	認知症の病態生理、症状の特徴、診断および治療方法等を最新の知見に基づき理解する。其のうえで、認知症による身体的・心理的・社会経済的影響をアセスメントし、認知症患者およびその家族の健康課題や倫理的課題について分析し考察する。さらに、Dementia ケア理論について理解し、認知症者の生活や活動の在り方および療養環境の整備などから生活の質の向上を目指した看護方法の開発を探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の種類、病態生理、症状の特徴、診断・治療方法を理解し説明できる。 2. 認知症者と家族介護者のアセスメントの指標を理解する。 3. Dementia ケア理論について理解し説明できる。 4. 認知症者と家族介護者の健康課題や倫理的課題を理解し、解決策を考えることができる。 					
キーワード	認知症、若年認知症、Dementia ケア理論、アセスメント、支援方法					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	講義				勝野
2	認知症の病態生理、診断、治療、最新の研究動向	講義			参考書、資料	勝野
3	Dementia ケアの理論① Person-centered care について理解を深める	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
4	Dementia ケアの理論② Continuity 理論、エンパワメント理論など	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
5	Dementia ケアの理論③ ストレス刺激閾値漸減モデルなど	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
6	Dementia による身体的、心理的、社会・経済的影響 と看護実践	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
7	若年認知症の理解と対応① 若年認知症者の特徴とそれに応じたケア	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
8	若年認知症の理解と対応② 若年認知症家族介護者の特徴とそれに応じたケア	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
9	認知症者と家族を支援するための社会資源 保健福祉制度および効果的な支援活動のための資源 の調整など	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
10	認知症者のアセスメント 認知機能評価法などの理解と実践演習	講義、演習			参考書、資料	勝野
11	認知症家族介護者のアセスメント 介護負担尺度、うつ尺度、QOL 尺度の理解と実践演習	講義、演習			参考書、資料	勝野
12	認知症者と家族への支援方法① 支援の実際について例示しより良い支援方法について 討論する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
13	認知症者と家族への支援方法② 学生が経験した支援について事例発表し討論する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野

【別紙 1】 新

14	Dementia ケアにおける倫理的課題と看護実践 認知症者と介護家族の人権とその支援方法について 討論する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
15	Dementia に関する最新の研究動向 認知症医療、ケアにおける最新の研究論文を読み新 たなケアを探究する姿勢を理解する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
履修条件	なし			
教科書・参考図書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴木みずえ、酒井郁子：パーソン・センタード・ケアでひらく認知症看護の扉。南江堂 2. 中島希恵子監修・編集：認知症の人びとの看護。医歯薬出版 3. その他必要に応じて提示する。 			
成績評価方法	課題レポート（70%）、講義、ゼミ、演習への貢献度（30%）による総合評価			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学演習 I	M31003	2 (30)	選択	1	前期	教授 勝野とわ子
担当教員 職位・氏名	教授 勝野とわ子 准教授 木内千晶					
授業概要	各自が興味を持っているテーマについて文献検討を行い、関心領域の研究の課題を明らかにする。さらに最新の研究知見から研究方法について理解を深める。それらを統合して研究計画書を作成する能力を養う。					
到達目標	1. 興味のある分野の研究論文を検索することが出来る。 2. クリテイクし、研究課題を明確にすることができる。 3. クリテイクから研究課題解決に適切な方法を考えることが出来る。					
キーワード	文献検索、クリテイク、研究課題、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	(ゼミ)			参考書、資料	共同
2	文献検索の方法	文献検索データベースの使い方 と文献収集 (講義)			参考書、資料	木内
3	文献クリテイクの方法①	興味のある分野の量的研究のク リテイク方法を理解 (講義)			参考書、資料	勝野
4	文献クリテイクの方法②	興味のある分野の質的研究のク リテイク方法を理解 (演習)			参考書、資料	勝野
5	文献検討①	学生の関心領域の文献を検討 (ゼミ)			参考書、資料	共同
6	文献検討②	学生の関心領域の文献を検討 (ゼミ)			参考書、資料	共同
7	文献検討③	学生の関心領域の文献を検討 (ゼミ)			参考書、資料	共同
8	文献検討④	学生の関心領域の文献を統合 (ゼミ)			参考書、資料	共同
9	文献検討⑤	学生の関心領域の文献を統合 (ゼミ)			参考書、資料	共同
10	文献検討⑥	学生の関心領域の文献を統合 (ゼミ)			参考書、資料	共同
11	研究計画書の書き方	研究の背景、研究方法、倫理的配 慮など研究計画書の内容につい て理解 (講義)			参考書、資料	木内
12	研究計画書の検討①	学生個々の研究計画書の作成と 討議 (ゼミ)			参考書、資料	共同
13	研究計画書の検討②	学生個々の研究計画書の作成と 討議 (ゼミ)			参考書、資料	共同

【別紙 1】 新

14	研究計画書の検討③	研究計画書の修正と討議 (ゼミ)	参考書、資料	共同
15	研究計画書の検討④	研究計画書の発表と討議 (ゼミ)	参考書、資料	共同
履修条件		老年看護学特論 I を履修していること		
教科書・参考図書等		<ol style="list-style-type: none"> 1. Brink, P.J. & Wood, M.J. 看護研究計画書作成の基本ステップ。日本看護協会出版会 2. その他必要に応じて参考文献や資料を提示する。 		
成績評価方法		課題レポート (80%) および授業への貢献度 (20%) を総合して評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学演習Ⅱ	MB1004	2 (30)	選択	1	後期	教授 勝野とわ子
担当教員 職位・氏名	教授 勝野とわ子 准教授 木内千晶					
授業概要	認知症に関する（または、各自が興味を持っている）テーマに基づき、医療機関または高齢者施設などで演習をおこない、パイロットスタディを実施する。収集したデータ分析の演習を通して、対象としている現象の理解を深め、研究計画書および研究倫理申請書を作成する能力を養う。					
到達目標	1. テーマに基づいたパイロットスタディを実施できる。 2. データ分析について理解を深め、説明できる。 3. 研究計画書を作成できる。 4. 研究倫理審査申請書について理解を深める。					
キーワード	パイロットスタディ、研究計画書、データ分析					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション	(ゼミ)		教科書、資料	共同	
2	関心領域の文献クリティーク①	学生の関心領域のクリティークと討議 (ゼミ)		教科書、資料	共同	
3	関心領域の文献クリティーク②	学生の関心領域のクリティークと討議 (ゼミ)		教科書、資料	共同	
4	パイロットスタディ研究計画書①	学生の学位論文研究のパイロットスタディ研究計画書の作成と検討 (ゼミ)		教科書、資料	共同	
5	パイロットスタディ研究計画書②	パイロットスタディ研究計画書の修正と検討 (ゼミ)		教科書、資料	共同	
6	パイロットスタディ①	フィールドにおけるパイロットスタディの実施 (演習)		教科書、資料	共同	
7	パイロットスタディ②	フィールドにおけるパイロットスタディの実施 (演習)		教科書、資料	共同	
8	パイロットスタディ③	フィールドにおけるパイロットスタディの実施 (演習)		教科書、資料	共同	
9	データ分析①	収集したデータの分析と討議 (演習)		教科書、資料	共同	
10	データ分析②	収集したデータ分析と討議 (演習)		教科書、資料	共同	
11	データ分析③	データ分析結果の発表と討議 (演習)		教科書、資料	共同	
12	研究計画書作成①	パイロットスタディの結果をもとに研究計画書を作成する (ゼミ)		教科書、資料	共同	
13	研究計画書作成②	作成した研究計画書の発表と討議および修正 (ゼミ)		教科書、資料	共同	

【別紙 1】 新

14	研究倫理審査申請書作成①	研究倫理審査申請書の作成と 討議（ゼミ）	教科書、資料	共同
15	研究倫理審査申請書作成②	研究倫理審査申請書の発表と 討議および修正（ゼミ）	教科書、資料	共同
履修条件		老年看護学特論Ⅱを履修していること		
教科書・参考図書等		<ol style="list-style-type: none"> 1. Brink, P.J. & Wood, M.J. 小玉香津子・輪湖史子訳、看護研究計画書作成の基本ステップ。日本看護協会出版社 2. Krippendorff, K. Content analysis: An introduction to its methodology. SAGE. 3. その他の資料は必要に応じて提示する。 		
成績評価方法		課題レポート（50%）、研究計画書（30%）、授業への貢献度（20%）を総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学特論 I (看護援助学特論)	M31005	2 (30)	選択	1	前期	教授 江守陽子
授業概要	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する女性の心理的、身体的、社会的な特徴について、国内外の文献や事例をもとに、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる女性と家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。					
到達目標	1. 女性の健康の概念が理解できる。 2. 女性の健康課題を説明することができる 3. 女性の健康課題についてアセスメントをし、支援方法を立案することができる。 4. 女性の健康を支援するための看護の役割を理解できる。					
キーワード	リプロダクティブヘルス、高度生殖医療、ドメスティック・バイオレンス、女性医療					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、 2	女性の健康課題：ライフステージからとらえる健康	乳・幼児期、思春期、成人期、更年期、老年期、各期の女性の性周期に関する健康課題 (講義及び討議)			自己学習	江守
3、4	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスと健康	成人期(成熟期)の生殖に関連する健康課題 (講義及び討議)			自己学習	江守
5、6	女性の健康課題：月経と健康	月経異常、月経困難症、月経前症候群、子宮内膜症等のアセスメント、ケアの実際 (講義及び討議)			自己学習	江守
7、8	女性の健康課題：高度生殖医療と健康	不妊、不妊治療、不妊治療後の妊娠・出産・育児支援 (講義及び討議)			自己学習	江守
9、 10	女性の健康課題：思春期の女性の精神の健康	ボディ・イメージ、うつ、引きこもり、思春期食思不振症、性自認、自尊感情、社会的逸脱行動 (講義及び討議)			自己学習	江守
11、 12	女性の健康課題：更年期・老年期の女性の精神の健康	女性ホルモンと卵巣機能、自律神経失調症状、精神神経症状、空の巣症候群、ホットフラッシュ、発汗、不眠、不安、抑うつ、介護ストレス、親族の死、人生100年時代を見越した女性の健康支援 (講義及び討議)			自己学習	江守
13、 14	女性の健康課題：ドメスティック・バイオレンス被害女性の健康課題	定義と実態、スクリーニング、被害者支援、加害者支援、フォレンジック・ナーシング (講義及び討議)			自己学習	江守

【別紙 1】 新

15	女性の健康課題：女性医療の視点から見た健康課題	性差医療、生涯を通じた女性の包括的健康支援、女性の地位、偏見、性差別、女性蔑視、性の売買、性に関する迷信・悪習慣 (講義及び討議)	自己学習	江守
履修条件	特になし			
教科書・参考図書等	その都度紹介する			
成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出物 (20%)、レポート (20%) から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31006	2 (30)	選択	1	後期	教授 江守陽子
授業概要	<p>家族や社会における母子の心理的、身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護職の活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。</p> <p>さらに、家族、社会集団、および国家における母子保健の位置付け、取り組み、保健活動および我が国の母子保健法等の法律に裏付けられた国、都道府県、市町村レベルの支援や保健サービスの特徴について学修を進める。また、母子保健活動の変遷、地域（国外も含む）による差異について考察する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索システムを用い、文献探索ができる 2. 論文を講読し、研究内容を要約して口頭で紹介することができる 3. 講読論文解説を聞いて理解し、疑問点や当該研究の意義について討論することができる 					
キーワード	文献検索、文献講読、文献要約					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1、 2	女性および家族の支援と看護 包括的文献レビュー	授業ガイダンス、文献検索法、文献紹介、女性および家族の支援と看護に関する文献レビュー（講義と演習）			関連文献の講読、発表準備	江守
3、 4	妊娠期の女性の健康課題と看護 包括的文献レビュー	妊娠期の女性に関する文献レビュー（プレゼンテーションと討議）			関連文献の講読、発表準備	江守
5、 6	胎児・新生児の健康問題と看護 包括的文献レビュー	胎児・新生児に関する文献レビュー（プレゼンテーションと討議）			関連文献の講読、発表準備	江守
7、 8	母子関係および母性性の発達過程の支援と看護 包括的文献レビュー	母子関係および母性性の発達過程に関する文献レビュー（プレゼンテーションと討議）			関連文献の講読、発表準備	江守
9、 10	出産体験と看護者の役割 包括的文献レビュー	出産体験に関する文献レビュー（プレゼンテーションと討議）			関連文献の講読、発表準備	江守
11、 12	母子の健康課題と育児支援 包括的文献レビュー	母子の健康課題と育児支援に関する文献レビュー（プレゼンテーションと討議）			関連文献の講読、発表準備	江守
13、 14	祖父母を含めた家族・サポートシステムの障害と看護 包括的文献レビュー	祖父母を含めた家族・サポートシステムに関する文献レビュー（プレゼンテーションと討議）			関連文献の講読、発表準備	江守
15	まとめ	課題レポート作成（講義と演習）			文献整理	江守
履修条件		特になし				
教科書・参考図書等		その都度紹介する				

【別紙 1】 新

成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出物 (20%)、レポート (20%) から評価する
--------	---

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
母性看護学演習 I	M31007	2 (30)	選択	1	前期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子 助教 大谷良子、佐藤 恵					
授業概要	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する健康リスクの高い女性あるいは健康問題を抱えた女性について、国内外の文献や事例を分析することにより、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、母性看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。					
到達目標	1. 思春期から更年期、老年期の健康支援に関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる 3. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる 4. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、 2	女性の健康課題：思春期の女性の健康 研究論文のクリティーク①	思春期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
3、 4	女性の健康課題：思春期の女性の健康 研究論文のクリティーク②	思春期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
5、 6	女性の健康課題：更年期・老年期の健康 研究論文のクリティーク①	更年期・老年期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
7、 8	女性の健康課題：更年期・老年期の健康 研究論文のクリティーク②	更年期・老年期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
9、 10	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスに関する健康障害 研究論文のクリティーク①	リプロダクティブヘルスに関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
11、 12	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスに関する健康障害 研究論文のクリティーク②	リプロダクティブヘルスに関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
13、 14	女性の健康課題：我が国の母子保健施策 研究論文のクリティーク①	我が国の母子保健施策に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
15	女性の健康課題：我が国の母子保健施策 研究論文のクリティーク②	我が国の母子保健施策に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
履修条件	母性看護学特論 I を履修していること					
教科書・参考図書等	随時紹介する					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況 (40%)、授業内での発表内容 (30%)・参加状況 (30%) によって判断する					

【別紙 1】 新

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学演習Ⅱ	M31008	2 (30)	選択	1	後期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子 助教 大谷良子、佐藤 恵					
授業概要	周産期および女性の生涯を通じて、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 関心のある分野に関する文献を系統的に検索し、客観的なクリティークができる 2. 自らが取り組むべき研究課題を明らかにすることができる 3. 自らの研究課題に関する基本概念を整理し、発表することができる 4. 取り組もうとする研究の意義を発表することができる 5. 研究課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することができる					
キーワード	リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1、 2	妊娠期の女性の健康課題と看護 研究論文のクリティーク①	妊娠期の女性の健康に関連する 研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	共同
3、 4	妊娠期の女性の健康課題と看護 研究論文のクリティーク②	妊娠期の女性の健康に関連する 研究テーマの可能性と研究計画 試案 演習			論文講読 発表準備	共同
5、 6	胎児・新生児の健康問題と看護 研究論文のクリティーク①	胎児・新生児の健康に関連する 研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	共同
7、 8	胎児・新生児の健康問題と看護 研究論文のクリティーク②	胎児・新生児の健康に関連する 研究テーマの可能性と研究計画 試案 演習			論文講読 発表準備	共同
9、 10	出産体験と看護者の役割 研究論文のクリティーク①	出産体験に関連する研究論文の 発表と討議			論文講読 発表準備	共同
11、 12	出産体験と看護者の役割 研究論文のクリティーク②	出産体験に関連する研究テーマ の可能性と研究計画試案 演習			論文講読 発表準備	共同
13、 14	家族・サポートシステムに対する支援 研究論文のクリティーク①	家族・サポートシステムに関連 する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	共同
15	家族・サポートシステムに対する支援 研究論文のクリティーク②	家族・サポートシステムに関連 する研究テーマの可能性と研究 計画試案 演習			論文講読 発表準備	共同
履修条件	母性看護学特論Ⅱを履修していること					
教科書・参考図書等	随時紹介する					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況 (40%)、授業内での発表内容 (30%)・参加状況 (30%) によって判断する					

【別紙 1】 新

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
小児看護学特論 I (看護援助学特論)	M31009	2 (30)	選択	1	前期	教授 濱中喜代
授業概要	乳児期から思春期までの発達理論に基づいた対象の理解のうえで、心理的、身体的、社会的な特徴とその支援方法について、国内外の文献や事例を下に、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる小児とその家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。					
到達目標	1. 小児の対象理解につながる主要な発達理論について説明できる。 2. 小児の心理的・身体的・社会的特徴とその評価および看護について説明できる。 3. 小児と家族を取り巻く社会と健康課題・ヘルスプロモーション・疾病予防について説明できる。 4. 小児の権利擁護について自らの考えを説明できる。					
キーワード	発達理論、心理的・身体的・社会的特徴、健康課題、インフォームドアセント・権利擁護					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリ&小児看護学の対象・目標・アプローチの仕方	講義・履修生の認識・関心の確認		問題意識の 確認	濱中	
2	対象理解：発達理論；エリクソン（自我発達理論）	エリクソン（自我発達理論）に関する文献学修と発表		文献検索と 発表準備	濱中	
3	対象理解：発達理論；ピアジェ（認知発達理論）	ピアジェ（認知発達理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
4	対象理解：発達理論；コールバーグ（道徳性発達理論）	コールバーグ（道徳性発達理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
5	対象理解：発達理論；マラー（分離－固体化理論）	マラー（分離－固体化理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
6	オレムのセルフケア理論・看護理論	オレムのセルフケア理論・看護理論に関する文献学修と発表		同上	濱中	
7	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：乳児期	乳児期の関連文献の精読と討議		関連文献の 学修・レポート作成	濱中	
8	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：幼児期	幼児期の関連文献の精読と討議		同上	濱中	
9	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：学童期・思春期	学童期・思春期の関連文献の精読と討議		同上	濱中	
10	小児と家族を取り巻く社会と健康課題	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
11	小児と家族を取り巻く社会とヘルスプロモーション	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
12	小児と家族を取り巻く社会と疾病予防	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
13	小児関連の制度・政策と社会資源	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
14	子どもの権利擁護とインフォームドコンセント・アセント	子どもの権利擁護に関する講義および討議		事後のレポート課題	濱中	
15	まとめ	全体に関する質疑応答		まとめのレポート作成	濱中	
履修条件		特になし				

【別紙 1】 新

教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
成績評価方法	到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・ 選択の 別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
小児看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31010	2 (30)	選択	1	後期	教授 濱中喜代
授業概要	小児や家族を取り巻く社会環境・状況を踏まえ、心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。また小児と家族とのコミュニケーションスキルおよび多(他)職種連携と協働について学修を進める。さらにヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察する。					
到達目標	①小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助について、子育て支援・虐待予防・災害看護の視点で説明することができる。 ②心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について分析することができる。 ③小児と家族とのコミュニケーションスキルおよび多(他)職種連携と協働について説明することができる。 ④ヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察を深めることができる。					
キーワード	社会環境・状況、コミュニケーションスキル、心理的・身体的健康課題、健康教育					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	オリエンテーション&小児看護学の援助の基本	オリ・講義			関心領域の 整理	濱中
2	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(子育て支援):文献クリティーク	関連文献の精読と討議			資料の学修	濱中
3	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(虐待予防):文献クリティーク	関連文献の精読と討議			同上	濱中
4	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(災害支援):文献クリティーク	関連文献の精読と討議			同上	濱中
5	心理的・身体的健康課題と看護援助(プレパレーション)	関連文献の精読と討議			同上	濱中
6	心理的・身体的健康課題と看護援助(症状緩和)	関連文献の精読と討議			同上	濱中
7	心理的・身体的健康課題と看護援助(エンドオブライフケア)	関連文献の精読と討議			同上	濱中
8	小児とその家族とのコミュニケーションスキル:理論編	関連文献の精読と討議			同上	濱中
9	小児とその家族とのコミュニケーションスキル:実践編	関連文献の精読と討議			同上	濱中
10	多(他)職種連携と協働:特別支援教育①	ゲストスピーカーによる講義・討議			同上	濱中
11	多(他)職種連携と協働:特別支援教育②	関連文献の精読と討議			同上	濱中
12	小児看護における教育機能・相談機能①	関連文献の精読			同上	濱中
13	小児看護における教育機能・相談機能②	関連文献の精読と討議			同上	濱中
14	ヘルスプロモーションに向けての健康教育①	関連文献の精読			同上	濱中
15	ヘルスプロモーションに向けての健康教育②	関連文献の精読と討議			同上	濱中
履修条件	特になし					

【別紙 1】 新

教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
成績評価方法	到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学演習 I	M31011	2 (30)	選択	1	前期	教授 濱中喜代
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代 講師 下野純平					
授業概要	新生児期から思春期までの健康リスクの高い小児あるいは健康問題を抱えた小児について、国内外の文献や事例分析およびフィールドワークを通して、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、小児看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児期～思春期までの小児の援助理論と実践について関連文献をクリティークし、研究の意義や課題について発表することができる。 2. 関連文献のクリティークをとおして研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法について理解できる。 3. より高度な看護活動の方策について関連研究にあたり、考察を深めることができる。 4. 健康問題を抱えた小児への方策の1つであるフィールドワークをとおして、より高度な看護活動の方策について、考察を深めることができる。 5. 小児と家族の最善の利益にかなう看護について、自らの考えを説明できる。 					
キーワード	小児の援助理論と実践、看護実践の質、看護活動の方策、フィールドワーク、最善の利益					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	オリエンテーション	講義・履修生の認識・関心の確認			問題意識の 確認	共同
2	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 新生児期 (文献クリティーク)	新生児期の援助に関する文献学修と発表と討議			論文購読と 発表準備	下野
3	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 乳児期 (文献クリティーク)	乳児期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	下野
4	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 幼児前期 (文献クリティーク)	幼児前期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	下野
5	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 幼児後期期 (文献クリティーク)	幼児後期期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
6	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 学童期 (文献クリティーク)	学童期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
7	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 思春期 (文献クリティーク)	思春期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
8	より高度な看護活動の方策についての考察: 事例検討①	関連文献の精読と討議			論文購読	下野
9	より高度な看護活動の方策についての考察: 事例検討②	関連文献の精読と討議			同上	下野
10	より高度な看護活動の方策の考察: フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加			事前準備学 習	濱中
11	より高度な看護活動の方策の考察: フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加			同上	濱中

【別紙 1】 新

12	より高度な看護活動の方策の考察:フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加	事後のレポート作成	濱中
13	小児と家族の最善の利益にかなう看護:文献クリティーク・討議①	関連論文・研究の精読と討議	論文購読	共同
14	小児と家族の最善の利益にかなう看護:文献クリティーク・討議②	関連論文・研究の精読と討議	論文購読	共同
15	まとめ	全体に関する質疑応答	まとめのレポート作成	共同
履修条件		小児看護学特論 I を履修していること		
教科書・参考図書等		テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する		
成績評価方法		到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学演習Ⅱ	M31012	2 (30)	選択	1	後期	教授 濱中喜代
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代 講師 下野純平					
授業概要	小児とその家族への援助として、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 小児看護学における研究の動向および課題について説明することができる。 2. 関心領域の最新の文献を系統的に検索し、クリティークできる 3. 自ら取り組むべき研究課題を明らかにし、その意義を説明することができる。 4. 小児看護学における研究倫理を説明することができる。 5. 自らの研究課題に則した研究デザイン、研究計画の試案を作成することができる。					
キーワード	研究課題、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション&関心領域の言語化	オリ・履修生の関心領域の確認		関心領域の整理	共同	
2	小児看護学に関する研究の動向と課題①	講義・文献学修と発表と討議		論文購読と発表準備	共同	
3	小児看護学に関する研究の動向と課題②	講義・文献学修と発表と討議		同上	共同	
4	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー①	文献学修と発表と討議		同上	共同	
5	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー②	文献学修と発表と討議		同上	共同	
6	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー③	文献学修と発表と討議		同上	共同	
7	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク①	関連文献の精読と討議		論文購読	共同	
8	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク②	関連文献の精読と討議		同上	共同	
9	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク③	関連文献の精読と討議		同上	共同	
10	小児看護関連の看護実践の分析・評価 (事例検討)	看護経験の振り返り・分析		事前レポート作成	濱中	
11	小児看護関連の看護実践の分析・評価 (文献クリティーク) ①	関連文献の精読と討議		論文購読	濱中	
12	小児看護関連の看護実践の分析・評価 (文献クリティーク) ②	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
13	小児看護学領域の研究倫理	講義と討議			濱中	
14	自らの研究テーマの導き出し&研究計画(案)の作成①	研究計画の試案作成		試案準備	濱中	
15	自らの研究テーマの導き出し&研究計画(案)の作成②	研究計画の試案作成		試案準備	濱中	

【別紙 1】 新

履修条件	小児看護学特論Ⅱを履修していること
教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
成績評価方法	到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
精神看護学特論 I (看護援助学特論)	M31013	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田 実
授業概要	精神看護学の成り立ちと発展を理解するために、精神疾患と精神医療の歴史を世界的な動きを背景に日本が辿った歴史の変遷を学修しながら、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築という現在の精神医療政策に至るプロセスを学修する。					
到達目標	①世界と日本における精神医療を比較し考察する。 ②日本におけるメンタルヘルスの置かれている状況を理解できる。 ③精神医療を地域包括ケアに適合させる精神医療政策の概要を理解できる。 ④自身の置かれているフィールドが抱える課題と自身の役割を明確にできる。					
キーワード	精神看護学の成立、精神医療の歴史の変遷（国内外）、OECD 諸国間の精神医療比較、地域包括ケアと精神医医療、地域移行と定着、アウトリーチ型精神医療の課題					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神看護学の成立	(講義・演習・GW)			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神病の概念と治療に関する歴史の変遷 ①	近代以前 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	精神病の概念と治療に関する歴史の変遷 ②	近代以降 (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	メンタルヘルスの概念と歴史の変遷 ①	近代 (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	メンタルヘルスの概念と歴史の変遷 ②	現代 (講義・演習・GW)			同上	岡田
6	精神医療における治療の概念と法制度の歴史	精神病理学の変遷 (講義・演習・GW)			同上	岡田
7	日本における精神医療保健福祉制度 ①	精神衛生法まで (講義・演習・GW)			同上	岡田
8	日本における精神医療保健福祉制度 ②	宇都宮病院事件 (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	日本における精神医療保健福祉制度 ③	精神保健福祉法まで (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	OECD 諸国の精神医療状況と日本の比較	最近のデータを調査する (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	OECD 諸国における精神保健医療事情 ①	ヨーロッパ (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	OECD 諸国における精神保健医療事情 ②	アメリカ, カナダ (講義・演習・GW)			同上	岡田
13	精神障害者に対応する地域包括ケア	政策概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
14	地域移行と定着を推進する現在の精神医療	問題と課題 (講義・演習・GW)			まとめ	岡田
15	病院精神医療から地域精神医療への転換	アウトリーチ型の問題と課題 (講義・演習・GW)			同上	岡田
履修条件	特になし					

【別紙1】新

教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none">・松本雅彦著：精神病理学とはなんだろうか，星和書店・高木俊介監修：精神障がい者地域包括ケアのすすめ—ACT - K の挑戦（実践編），批評社・浅野弘毅著：精神医療論争史，批評社・酒井明夫著：こころの科学の誕生，日本評論社・高木俊介著：精神医療の光と影，日本評論社・同上：こころの医療宅配便—精神科在宅ケア事始，文藝春秋・同上：ACT—K の挑戦—ACT がひらく精神医療・福祉の未来・立岩真也著：造反有理—精神医療現代史へ，青土社
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none">・問題提起時の文献検討（20％）とディスカッション（20％）、参加姿勢（20％）を評価します。・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40％）を評価します。・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
精神看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31014	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
授業概要	精神疾患に対する多職種アプローチを可能にする各種の介入モデル（生物学的モデル・精神力動モデル・認知行動モデル・社会モデル）を学修する。関連して、精神医療保健福祉の領域において、各種の事例が地域への移行と定着を遂げることに効果のある多職種協働によるチームアプローチを可能にする理論と実践を学修する。					
到達目標	①症例の多様な分析と解釈を可能にする各種の視点があることを理解する。 ②疾患モデル・精神力動モデル・認知講堂モデル・社会モデルの理論と実践を理解する。 ③4つのモデルの照射を切り替えながら事例の分析と解釈を進める視点を理解する。 ④多職種が合同した症例検討場面での看護職の「専門性」を検討することができる。					
キーワード	多職種連携チームアプローチ, 疾患モデル, 精神力動モデル, 認知行動モデル, 社会モデル, 4つのモデルによる多面的な症例検討					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	精神医療における多職種連携の歴史	精神看護の独自性と専門性とは (講義・演習・GW)			問題提起とディスカッション	岡田
2	多職種連携における精神看護学の基本的立場	調整的な役割 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	地域移行と多職種連携における精神看護実践 ①	その問題と課題 (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	地域移行と多職種連携における精神看護実践 ②	その解決策 (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	精神疾患をアセスメントするアプローチ	4つのモデル (講義・演習・GW)			同上	岡田
6	疾患モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
7	疾患モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)			同上	岡田
8	精神力動モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	精神力動モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	認知行動モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	認知行動モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	社会モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田
13	社会モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)			同上	岡田
14	4つのモデルと精神看護アセスメントの特徴	実践への適用方法 (講義・演習・GW)			まとめ	岡田
15	多職種連携における精神看護アセスメントの役割	多職種間の専門的役割 (講義・演習・GW)			同上	岡田
履修条件		特になし				

【別紙1】新

教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none">・タイラー，スタインバーグ著，堀弘明訳：モデルで考える精神疾患，星和書店・原田憲一著：精神症状の把握と理解—精神医学の知と技，中山書店・村上仁著：統合失調症の精神症状論，みすず書房・ジャネ著，松本雅彦訳：被害妄想—その背景の諸感情，みすず書房・ファルーン，ファッデン著，水野雅文ら監訳：インテグレイテッド・メンタルヘルスケア—病院と地域の統合をめざして，中央法規出版・モシヤー，ブルチ著，公衆衛生精神保健研究会訳：コミュニティ・メンタルヘルス，中央法規出版
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none">・問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します。・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します。・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学演習 I	M31015	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田 実
担当教員 職位・氏名	教授 岡田 実 講師 長南 幸恵					
授業概要	ACTや精神科に特化した訪問看護活動などのアウトリーチ方式による先進的な看護実践、および臨床現場が抱える倫理的諸問題を学修しながら、地域包括ケアに基づく地域移行を円滑に実施する方策を検討する。関連して、精神科救急・急性期治療と看護の現況を明らかにしながら、急性期像を複雑にしている自閉症スペクトラムを抱える対象への支援策を、個・家族・地域社会の広がりに沿って検討する。					
到達目標	①精神医療政策の歴史的変遷をたどり、患者の倫理的処遇基準の確立過程を理解する。 ②精神科救急・急性期の治療と看護に関する理論の到達点と実践の現況を理解する。 ②入院治療中心から地域社会への移行と定着を図る看護実践の現況を理解する。 ③自閉症スペクトラム児への個・家族・地域社会による支援のありようを考える。					
キーワード	患者処遇の倫理的基準, ACTによるアウトリーチ支援, 地域包括ケア, 統合失調症の発病・回復過程, 臨界期の治療と看護, 精神科救急・急性期看護理論と実践, 自閉症スペクトラム児への総合的支援策					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	精神科救急・急性期治療の現状 ①	「改革ビジョン」まで (講義・演習・GW)			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神科救急・急性期治療の現状 ②	「在り方検討会」以降 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ①	患者処遇改革の変遷 (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ②	社会的入院への取り組み (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ③	訪問看護による看護実践 (講義・演習・GW)			同上	岡田
6	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ④	ACTによる看護実践 (講義・演習・GW)			同上	岡田
7	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ⑤	地域包括ケアの看護実践 (講義・演習・GW)			同上	岡田
8	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ①	中井久夫の統合失調症発病過程 (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ②	中井久夫の統合失調症寛解過程 (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ③	中井久夫の臨界期治療原則 (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ④	阿保による精神構造モデル (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ⑤	精神構造モデルによる看護実践 (講義・演習・GW)			同上	岡田

【別紙1】新

13	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ①	急性期対応 (講義・演習・GW)	問題提起と ディスカッション	長南
14	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ②	家族対応 (講義・演習・GW)	同上	長南
15	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ③	学校・地域社会対応 (講義・演習・GW)	同上	長南
履修条件		精神看護学特論 I を履修していること		
教科書・参考図書等		<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省による精神保健医療福祉政策に関する各種の資料 ・中井久夫著：統合失調症 1・2, みすず書房, ・阿保順子・佐久間えりか編：統合失調症急性期看護マニュアル, すびか書房 ・M.F.Ward 著, 阿保・田崎・岡田ら訳：精神科臨床における救急場面の看護, 医学書院 ・岡田実著：暴力と攻撃への対処—精神科看護の経験と実践知, すびか書房 ・阿保順子編著：回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期ケア, 精神看護出版 ・星野弘：分裂病を耕す, 日本評論社 ・横田泉：統合失調症の回復とはどういうことか, 日本評論社 ・Martin F. Ward: Nursing the Psychiatric Emergency, Butterworth & Heinemann, 1995 ・D. Antai-Otong: Psychiatric Emergencies; How to accurately assess and manage the patient in crisis. PESIHealth Care, 2004 ・T. Mason & M.Chandley: Managing violence and aggression; A manual for nurses and health care workers, Churchill Livingstone, 1999 ・J. Morrissey & P. Callaghan: Communication skills for mental health nurses, Open University Press, 2011 ・P. Callaghan: Emergencies in mental health nursing, Oxford University Press, 2012 ・田中康雄著：生活障害として診る発達障害臨床, 中山書店 ・内海健著：自閉症スペクトラムの精神病理, 医学書院 ・高岡健著：やさしい発達障害論, 批評社 		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討 (20%)、ディスカッション (20%)、参加姿勢 (20%) を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成 (40%) を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学演習Ⅱ	M31016	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
担当教員 職位・氏名	教授 岡田 実 非常勤講師 川添 郁夫					
授業概要	事例研究や症例研究をまとめ記述する方法を学修し、その方法に基づいて各自が抱えている事例をレポートし、各事例が抱える問題の解決策を互いに検討しながら、より効果的な介入策を実施する具体策を組み立てる。関連して、精神医療における専門多職種による事例研究や症例研究に学びながら、チームアプローチの在り方を学修する。					
到達目標	①臨床における症例報告の果たす役割を知る。 ②臨床実践のエビデンスを学術論文から裏づける方法を理解する。 ③他の専門職者による臨床報告を抄読しながら、チームアプローチに効果的な「共通言語」を検討することができる。 ④自験例を用いて一定の手法とルールに基づいて臨床報告を行い、他のメンバーから批評を受けることができる。					
キーワード	症例報告の作成、症例報告の発表術、学術論文の検索方法、文献検討、事例検討と症例報告、他職種による症例報告、専門多職種間の共通言語、					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	精神科症例報告の書き方 ①	症例報告を記述する意味 (講義・演習・GW)			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神科症例報告の書き方 ②	症例報告の構成 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	精神科症例報告の書き方 ③	症例報告の記述方法とルール (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	精神科症例報告の書き方 ④	症例報告再生の注意点 (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	症例報告に必要な文献検討の方法 ①	医中誌, CiNii, PubMed, CINAHL の使い方 (講義・演習・GW)			同上	川添
6	症例報告に必要な文献検討の方法 ②	文献検討と先行研究の要約 (講義・演習・GW)			同上	川添
7	症例報告に必要な文献検討の方法 ③	症例報告作成とプレゼンテーション (講義・演習・GW)			同上	川添
8	事例検討の取組みと看護実践への活用 ①	事例検討と症例報告の違い (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	事例検討の取組みと看護実践への活用 ②	両者の看護実践への貢献 (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	臨床医による症例報告の抄読 ①	統合失調症, 感情障害など (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	臨床医による症例報告の抄読 ②	発達障害圏, 認知症, PTSD など (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	他職種による症例報告の抄読 ①	臨床心理士, 薬剤師など (講義・演習・GW)			同上	川添

【別紙 1】 新

13	他職種による症例報告の抄読 ②	OT, PSW など (講義・演習・GW)	同上	川添
14	症例報告を作成し発表する ①	自験例の症例報告作成 (講義・演習・GW)	まとめ	共同
15	症例報告を作成し発表する ②	自験例の発表とディスカッション (講義・演習・GW)	同上	共同
履修条件		精神看護学特論Ⅱを履修していること		
教科書・参考図書等		<ul style="list-style-type: none"> ・仙波純一著：精神科症例報告の上手な書き方，星和書店 ・福田正人編著：精神科の専門家をめざす，星和書店 ・青木省三著：精神科臨床ノート，日本評論社 ・『精神科治療学』（星和書店）に掲載されている各種症例報告 ・『精神医学』（医学書院）に掲載されている各種症例報告 		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護管理学特論Ⅰ (看護部署管理論)	M41001	2 (30)	選択	1	前期	教授 伊藤 収
授業概要	認定看護管理者教育課程ファーストレベルで求められる看護管理者に必要とされる、基本的な知識・技術・態度と看護の組織運営について、病棟・外来等の「部署管理」の観点を中心に学びつつ、看護の利用者と直接に関わる看護師長職・師長補佐職の管理対応を確認しつつ、さらに所属看護師等の相談への応需についても学修する。加えて、フローレンス・ナイチンゲールの著作の中から「看護管理」に該当する部分等を資料として、看護管理の歴史的展開についても学修する。					
到達目標	看護管理の歴史的経緯が理解できる 医療機関における部署管理が概観できる 人材育成に関する原則が理解できる					
キーワード	ナイチンゲール、部署管理、人材育成					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	看護管理の歴史的理解① フローレンス・ナイチンゲールの著作の中から「看護管理」に関するものを学習する	文献に基づき、ナイチンゲールの看護管理観に迫る講義を実施する			文献の学習	伊藤
2	看護管理の歴史的理解② 前回の授業資料と履修生の実際とを比較し討議する	前回の講義に基づく討議			討議準備	伊藤
3	部署管理とは① 医療機関における看護師長の役割	資料に基づく講義			資料の学修	伊藤
4	部署管理とは② 前回の授業をふまえた履修生からの「実際」についてプレゼンテーションを行う	履修生のプレゼンテーション			プレゼンの準備	伊藤
5	部署管理とは③ 前2回の授業をふまえて「部署管理」について討議し、看護組織におけるリーダーシップとメンバーシップの構造を理解する。	前2回を受けての討議			討議準備	伊藤
6	部署管理方法論① 安全管理	資料に基づく講義			資料の学修	伊藤
7	部署管理方法論② 人材育成	資料に基づく講義 (高校対応から院内育成まで)			資料の学修	伊藤
8	部署管理方法論③ 情報管理	資料に基づく講義 (希望があれば「SNS 対応」についても授業する)			資料の学修	伊藤
9	部署管理方法論④ チームマネジメント	資料に基づく講義 (講義5との関連講義を行う)			資料の学修	伊藤
10	部署管理方法論⑤ カンファレンスの進行とファシリテーションについて	資料に基づく講義			資料の学修	伊藤
11	部署管理方法論⑥ 実践報告 前記①から⑤について、履修生の希望にて「実践改善」についてプレゼンテーションを行う	履修生のプレゼンテーション			プレゼンの準備	伊藤

【別紙1】新

12	部署管理方法論⑦ 前回の報告についての討議 前回の授業をふまえて①から⑤についての「実践改善」について討議する	前回を受けての討議	討議準備	伊藤
13	看護部を構成する「部署管理」の意味 医療機関における「部署管理」の本質に迫る	前回の討議からの意味抽出	討議準備	伊藤
14	看護師長が担う委員会業務等 看護師長の立場からの委員会業務改善を考察する	資料に基づく講義	資料の学修	伊藤
15	本論のまとめと評価レポートの提示	全体に関する質疑応答	質問等の準備	伊藤
履修条件	認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護師長以上の看護管理経験者が望ましい。			
教科書・参考図書等	履修希望者へのオリエンテーション時にて指定する。可能なかがり「大学図書館所蔵図書」・「履修生の所持図書」を用いる。			
成績評価方法	評価レポート（100%）			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護管理学演習	M41004	2 (30)	選択	1	後期	教授 伊藤 収
担当教員 職位・氏名	教授 伊藤 収 准教授 土田 幸子					
授業概要	看護管理特論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の学修の中から、履修生の実際に即したレベルでの看護管理課題を見出し、その改善計画の立案を、下記①～⑥に基づいて行う。①資料・文献類のクリティーク、②組織分析と計画策定の妥当性。③動機や目的の根拠となるものの客観性、④方法と期待される成果の現実性、⑤改善計画案の文章とし完成度と目的との整合性、⑥パワーポイント等を用いた理解しやすいプレゼンテーションの実施。					
到達目標	部署内の諸業務の改善計画の策定について理解できる 看護部内の「教育・情報・研究・人事」等の委員会活動の運営と改善について理解できる 経営への参画について理解できる 対外組織（地方公共団体・看護教育機関・看護協会）との協働について理解できる					
キーワード	業務改善、委員会活動、対外協力					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護部内の改善論① 部署（病棟・外来・訪問）などでの業務管理・安全管理・人事管理の中から履修生の希望によって	履修生の作成した資料・プレゼンテーションを基にした討議		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
2	看護部内の改善論② 文献等から自己の客観化を図る	前回の授業の経過から改善につながる文献等をクリティーク		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
3	看護部内の改善論③ 改善の方向性を見いだす	前2回の授業を受けて、具体的・現実的な改善計画を模索		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
4	看護部内の改善論④ 改善計画の策定	前3回の授業のまとめとして 当該部署の改善計画を策定		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
5	看護部内の改善論⑤ プレゼンテーション	パワーポイントを用いたプレゼンテーション		プレゼンテーション準備	共同	
6	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言① (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	現状分析と改善点の見直し		資料の学習 履修生のプレゼン準備	共同	
7	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言② (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	前回に見いだした改善点の資料となる文献等の検討		履修生のプレゼン準備	共同	
8	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言③ (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	改善計画の策定		履修生のプレゼン準備	共同	

【別紙 1】 新

9	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言④ (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	策定した計画についてのクリティーク	前回の意見を資料化する	共同
10	地域医療の中でのニード①	ニードを見いだすための情報収集の仕方・看護部としての広報活動、オープンホスピタルについて	資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
11	地域医療の中でのニード②	前回の授業を基に把握した地域ニードを院内運営会議・経営会議へ提言	履修生のプレゼン準備	伊藤
12	地域医療の中でのニード③ プレゼンテーション	前回の提言についてパワーポイントを用いたプレゼンテーション	プレゼンテーション準備	伊藤
13	実践看護管理の発展① (看護科学の担い手としての看護管理者)	看護管理の看護科学的側面について討議	資料の学習	伊藤
14	実践看護管理の発展② (看護哲学の担い手としての看護管理者)	看護管理の看護哲学的側面について討議	資料の学習	伊藤
15	まとめ 看護管理・看護管理者とは何か 評価レポートの提示	看護管理学特論 ((I・II・III)も含めた学習全体の総括	質問・意見の準備	伊藤
履修条件		看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護管理学特論Ⅲを履修していること		
教科書・参考図書等		履修希望者へのオリエンテーション時にて指定する。可能なかがり「大学図書館所蔵図書」・「履修生の所持図書」を用いる		
成績評価方法		評価レポートにて100%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講時期
看護学特別研究	M51001	8 (120)	必修	2	通年
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代、勝野とわ子、江守陽子、菊池和子 岡田 実、伊藤 收、鈴木るり子 准教授 木内千晶、土田幸子 講師 石井真紀子、長南幸恵、相澤 出、下野純平 助教 大谷良子、佐藤 恵				
授業概要	研究対象とした看護学領域における特定の研究課題を抽出し、それに関連した国内外の先行研究の文献検索を実施する。文献の精読、検討を通し、自分の研究課題を解決するための研究デザインを考え、研究計画書を作成する。研究開始にあたっては、倫理的問題に配慮しながらデータ収集・分析・結果をまとめる。論文構成は、序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論とする。さらに研究の成果を公表する手段として、プレゼンテーションを実施し、他者からの評価を受ける。				
到達目標	1. 探求したい研究課題に関して、研究デザインを決定できる 2. 研究課題を解明するに適切な研究方法を選択し、倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる 3. 対象者に倫理的配慮をしたうえで適切な手順でデータを収集し、客観的・科学的に分析できる 4. 研究結果を記述し、客観的・科学的な考察を加えて論文を作成できる 5. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について説明できる 6. 研究成果を口頭で報告できる				
キーワード	研究デザイン、研究計画、研究倫理審査、論文作成、プレゼンテーション				
授 業 計 画					
回	授業項目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当
1～ 4	研究課題の決定	研究課題を決定し、文献検討から、研究背景を明らかにする 1. 先行研究・文献検討 2. 研究枠組み検討 (演習)		授業前後の学修に必要な内容については適時助言する	各教員
5～ 8	研究方法の検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成 (演習)		同 上	各教員
9～ 12	研究デザインの検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成 (演習)		同 上	各教員
13 ～ 16	データ収集方法の検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成 (演習)		同 上	各教員

【別紙1】新

17 ～ 20	研究の倫理的配慮・手続きの検討	研究の倫理的配慮・手続きの方法を明確にする 1. 安全性の確保（予想される有害現象と対策） 2. 人権・プライバシー保護に関する配慮 3. 研究依頼に関する検討（研究協力者・施設長への依頼文書の作成等） (演習)	同 上	各教員
21 ～ 24	具体的なデータ収集方法の検討 (質問紙作成、インタビューガイド作成など、プレテスト)	1. 質問項目作成、インタビューガイド作成 2. プレテスト (演習)	同 上	各教員
25 ～ 28	研究計画書の作成	計画書作成 (演習)	同 上	各教員
29 ～ 32	倫理審査委員会提出書類の作成・申請	申請書作成 申請手続きに則り申請する（必要時） (演習)	同 上	各教員
33 ～ 36	データ収集・整理①	倫理的問題に配慮しながら、計画どおりデータ収集・整理・分析を行う (演習)	同 上	各教員
37 ～ 40	データ収集・整理②	倫理的問題に配慮しながら、計画どおりデータ収集・整理・分析を行う (演習)	同 上	各教員
41 ～ 44	データ分析 研究デザインに応じたデータ作成	データの分析・図表作成を行う (演習)	同 上	各教員
45 ～ 48	修士論文の作成	得られたデータを分析し結果をまとめ考察する (演習)	同 上	各教員
49 ～ 52	修士論文の作成	得られたデータを分析し結果をまとめ考察する 序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論 について文章化する (演習)	同 上	各教員
53 ～ 56	口頭発表準備	プレゼンテーションの準備をし、実施する (演習)	同 上	各教員
57 ～ 60	発表と評価	評価を受け、より完成度の高い論文に修正する (演習)	同 上	各教員
履修条件		専門科目のうちから各自の専門研究領域の「特論Ⅰ・Ⅱ」「演習Ⅰ・Ⅱ」各2単位を含む8単位を履修していること		
教科書・参考図書等		特に指定しない アメリカ心理学会（APA）著、前田樹海ほか訳：APA論文作成マニュアル 医学書院		
成績評価方法		作成された論文内容を以下の基準で審査する 1. 研究内容が看護学に寄与するものである 2. 研究の意義・目的・方法が明確・適切である 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書が作成されている 4. データが客観的・科学的に分析されている 5. 研究成果を口頭で報告することができる		

シラバス（授業計画） 目次

	シラバス	担当者氏名				頁
1	看護理論特論	菊池和子	岡田 実			1
2	看護研究方法特論	勝野とわ子				3
3	臨床倫理特論	清水哲郎	濱中喜代	石井真紀子		5
4	多職種連携特論	鈴木るり子	相澤 出			7
5	統計学特論	大井慈郎				9
6	質的研究方法特論	相澤 出				11
7	医療社会学特論	相澤 出				13
8	フィジカルアセスメント特論	菊池和子	江守陽子			15
9	コンサルテーション特論	岡田 実				17
10	災害看護特論	鈴木るり子				19
11	看護学教育特論	濱中喜代	江守陽子	土田幸子	石井真紀子	21
12	基礎看護学特論Ⅰ	菊池和子				23
13	基礎看護学特論Ⅱ	菊池和子				25
14	基礎看護学演習Ⅰ	菊池和子	石井真紀子			27
15	基礎看護学演習Ⅱ	菊池和子				29
16	地域看護学特論Ⅰ	鈴木るり子				31
17	地域看護学特論Ⅱ	鈴木るり子				33
18	地域看護学演習Ⅰ	鈴木るり子				35
19	地域看護学演習Ⅱ	鈴木るり子				37
20	老年看護学特論Ⅰ	勝野とわ子				39
21	老年看護学特論Ⅱ	勝野とわ子				41
22	老年看護学演習Ⅰ	勝野とわ子	木内千晶			43
23	老年看護学演習Ⅱ	勝野とわ子	木内千晶			45
24	母性看護学特論Ⅰ	江守陽子				47
25	母性看護学特論Ⅱ	江守陽子				49
26	母性看護学演習Ⅰ	江守陽子	大谷良子	佐藤 恵		51
27	母性看護学演習Ⅱ	江守陽子	大谷良子	佐藤 恵		53
28	小児看護学特論Ⅰ	濱中喜代				55
29	小児看護学特論Ⅱ	濱中喜代				57
30	小児看護学演習Ⅰ	濱中喜代	下野純平			59
31	小児看護学演習Ⅱ	濱中喜代	下野純平			61
32	精神看護学特論Ⅰ	岡田 実				63
33	精神看護学特論Ⅱ	岡田 実				65
34	精神看護学演習Ⅰ	岡田 実	長南幸恵			67
35	精神看護学演習Ⅱ	岡田 実	長南幸恵			69
36	看護管理学特論Ⅰ（看護部署管理論）	伊藤 收				71
37	看護管理学特論Ⅱ（看護組織調整論）	伊藤 收				73
38	看護管理学特論Ⅲ（看護施設管理論）	伊藤 收				75
39	看護管理学演習	伊藤 收	土田幸子			77
40	看護学特別研究	濱中喜代	勝野とわ子	江守陽子	菊池和子	79
		岡田 実	伊藤 收	鈴木るり子		
		木内千晶	土田幸子			
		石井真紀子	長南幸恵	相澤 出	下野純平	
		大谷良子	佐藤 恵			

【別紙 1】 旧

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護理論特論	M11001	2 (30)	選択	1	前期	教授 菊池 和子
担当教員 職位・氏名	教授 菊池 和子、岡田 実					
授業概要	看護実践で行われている看護援助方法の主要な理論的背景について学ぶ。看護実践の基盤となる看護論としてナイチンゲール看護論、ヘンダーソン看護論、ベナー看護論、オレム看護論、ロイ看護論、M. ニューマン看護論、ワトソン看護論について理解と考察を深め、看護実践を充実し発展させる方法を学修する。また、各自の看護体験と看護理論との関係について考察し、看護理論を活用して看護実践を展開する方法を探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助に関する主要な理論について理解することができる。 2. 各自の看護実践の理論的基盤を明確にすることができる。 3. 看護理論を活用して看護実践を展開する方法を身につけることができる。 					
キーワード	看護理論、看護実践、看護援助方法、理論適用					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	看護理論とは 看護に関する理論の概要	講義、各自の看護体験と看護理論の関連についてディスカッション			授業項目の事前学習	菊池
2	ナイチンゲール看護論	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション				岡田
3	ナイチンゲール看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション				岡田
4	ヘンダーソン看護論	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション				岡田
5	ヘンダーソン看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション				岡田
6	ベナー看護論	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション				岡田
7	ベナー看護論	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション				岡田
8	ベナー看護論の看護実践への適用	各自の理論や概念についてのプレゼンテーションとディスカッション				岡田
9	オレム看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	菊池
10	オレム看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の事前学習	菊池

【別紙 1】 旧

11	ロイ看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
12	ロイ看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
13	M. ニューマン看護論	看護理論の文献のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
14	M. ニューマン看護論の看護実践への適用	看護理論の文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
15	ワトソンのケアリング理論	看護理論の文献および文献に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	菊池
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		<p>筒井真優美編集：看護理論家の業績と評価、医学書院、2015</p> <p>筒井真優美編集：看護理論改訂第2版、南江堂、2015</p> <p>Patricia Benner: From Novice to Expert; Excellence and Power in Clinical Nursing Practice, Prentice Hall, 2001</p> <p>シヨーン著、佐藤学・秋田清美訳：専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える、ゆみる出版</p> <p>D. E. Orem, 小野寺杜紀訳：オレム看護論 看護実践における基本概念 第4版 医学書院, 2005</p> <p>C ロイ著、松木光子訳：ロイ適応モデル序説、メディカルフレンド社、1981</p> <p>ジーン ワトソン：ワトソン看護論 人間科学とヒューマンケア、稲岡文昭他訳、医学書院、1992</p> <p>Margaret A. Newman 手島恵訳：マーガレット・ニューマン看護論、医学書院、2011.</p>		
成績評価方法		プレゼンテーション及びディスカッション70% レポート30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護研究方法特論	M11002	2 (30)	必修	1	前期	教授 勝野とわ子
授業概要	看護学における科学的な研究のプロセス（看護における研究の役割、科学的アプローチ、理論やモデルに基づく研究疑問の立て方など）を理解し、研究用語、研究デザインおよび研究方法についての理解を深める。また、論文の批判的検討能力を高めるとともに、看護実践の場への研究の応用能力の基礎を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学における科学的な研究のプロセスについて説明できる。 2. 量的研究デザインと質的研究デザインについて説明できる。 3. 量的研究と質的研究のクリテイク基準を理解し実践できる。 4. 質的研究のデータ収集法と分析方法について理解を深める。 					
キーワード	科学的研究プロセス、質的研究、量的研究、クリテイク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	講義			教科書	勝野
2	科学とは？ 看護研究のプロセス 看護学の科学的意義および研究のプロセス	講義			教科書、資料	勝野
3	研究デザイン：量的研究 調査研究、準実験研究、純実験研究デザイン	講義			教科書、資料	勝野
4	研究デザイン：質的研究 現象学、ethnography, grounded theory	講義			教科書、資料	勝野
5	研究方法：データ収集方法 質的データ：観察法、インタビュー法など 量的データ：質問紙	講義			教科書、資料	勝野
6	研究論文のクリテイクの意義と方法 クリテイクの方法の手順の理解	講義			教科書、資料	勝野
7	研究論文のクリテイクの実際（質的研究） 質的研究論文をクリテイクする	演習、ゼミ			資料	勝野
8	研究論文のクリテイクの実際（量的研究） 量的研究論文をクリテイクする	演習、ゼミ			資料	勝野
9	質的研究データ分析方法 実際の質的データを分析する	講義、ゼミ			教科書、資料	勝野
10	質的研究プロジェクト1 プロジェクトで実施する研究疑問、研究方法を考察する	演習			教科書、資料	勝野
11	質的研究プロジェクト2 対象者の選定と依頼方法について考察する	演習			教科書、資料	勝野
12	質的研究プロジェクト3 データ収集と分析1	演習			教科書、資料	勝野
13	質的研究プロジェクト4 まとめ	演習			教科書、資料	勝野
14	質的研究プロジェクト発表1 プロジェクト研究成果発表と討論	ゼミ、講義			教科書、資料	勝野

【別紙 1】 旧

15	質的研究プロジェクト発表2 プロジェクト研究成果発表と討論	ゼミ、講義	教科書、資料	勝野
履修条件	なし			
教科書・参考図書等	1. Polit, D.F.&Hungler, B.P. Nursing Research: Plinciples and Methods. J.B. Lippincott. 2. D.F.ポーリット & C.T. ベック著 近藤潤子監訳：看護研究:原理と方法 (第2版)、医学書院 3. Morse, J.M. Qualitative nursing Research: A contemporary dialogue. Sage. 4. Krippendorff, K. Content analysis: An introduction to its methodology. Sage. その他必要に応じて提示する。			
成績評価方法	課題レポートと授業への貢献度などを総合して評価する。			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
臨床倫理特論	M11003	2 (30)	必修	1	後期	教授 清水哲郎
担当教員 職位・氏名	教授 清水哲郎、濱中喜代 講師 石井真紀子					
授業概要	臨床現場で看護師をはじめとして医療従事者が患者本人や家族と向き合い・寄り添いながら医療・ケアを進める中で生じる問題に、多職種が協働して対応する際の要となる「どうしたらよいか」を考える営みを臨床倫理という。本講では看護における倫理的な概念の振り返りを行う。履修者が臨床で遭遇した事例を出し合い、看護学領域・人文社会系領域の教員がスーパーバイズする事例検討を行う。モデル事例を用いて倫理的課題の検討方法について理論的・実践的な理解を深める。多職種の中で臨床倫理を進める能力を修得する。さらに事例検討から得られた臨床倫理能力を発展させる方法についても学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場で医療・ケアを進める中で生じる問題について説明できる。 2. 看護における倫理的な概念について説明できる。 3. 臨床で遭遇した事例を振り返り、倫理的な課題やその解決方法を考えることができる。 4. モデル事例を用いた倫理的課題の検討方法について、理論的・実践的に説明できる。 5. 臨床倫理能力を発展させるための個人・集団における具体的な方法を身につけることができる。 					
キーワード	倫理的課題、倫理的な概念、事例検討の方法、臨床倫理能力、多職種協働					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法	授業前後 の学習	担当		
1	臨床倫理の守備範囲と目指すもの	臨床倫理・講義	参考文献の精読	清水・濱中		
2	医療・ケアを進める中で生じる問題1 (本人・家族の意思決定支援)	意思決定支援・講義	参考文献の精読	清水		
3	医療・ケアを進める中で生じる問題2 (倫理的課題)	倫理的課題・講義	参考文献の精読	濱中・石井		
4	看護における倫理的な概念1 : ケアリング・コンパッション	倫理的概念・演習 : 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	濱中		
5	看護における倫理的な概念2 : アドボカシー・パートナーリズム	倫理的概念・演習 : 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	濱中		
6	看護における倫理的な概念3 : インフォームドコンセント・守秘義務	倫理的概念・演習 : 調べ学習とプレゼンテーション	調べ学習 プレゼンテーション準備	石井		
7	臨床で遭遇した事例の振り返り	演習 GW	自己の経験を振り返りレポート作成	濱中・石井		
8	臨床で遭遇した事例の振り返り	演習 GW	同上	濱中・石井		
9	臨床で遭遇した事例の振り返り	演習 GW	同上	濱中・石井		
10	事例検討の方法 : 理論編	講義	参考文献の精読	清水		
11	事例検討の方法 : 実践編1 (チーム連携)	演習 : 事例展開 GW	事例事前に記述	濱中・石井		
12	事例検討の方法 : 実践編2 (多職種連携)	演習 : 事例展開 GW	同上	濱中・石井		
13	臨床倫理能力を発展させる方法 : 個人 (自己研鑽)	講義	関連文献の読み込み	濱中		
14	臨床倫理能力を発展させる方法 : 集団 (ファシリテーション)	講義・演習 GW	同上	清水・濱中		
15	まとめ	講義・演習	同上	清水・濱中		

【別紙 1】 旧

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	清水哲郎 看護学生のための哲学・倫理学・死生学 2019 石垣靖子、清水哲郎編著：臨床倫理ベーシックレッスン 日本看護協会出版会 2012 鶴若麻理、麻原きよみ編：ナラティブでみる看護倫理 南江堂 2013
成績評価方法	事前事後学習・プレゼンテーション 20% 振返りレポート 30% GW 貢献度 20% 最終レポート 30%

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
多職種連携特論	M11004	2 (30)	必修	1	後期	教授 鈴木るり子
担当教員 職位・氏名	教授 鈴木るり子 講師 相澤 出					
授業概要	地域包括ケアが研究上の論点としても、ケアの実践上のテーマとしても、さらには政策においても注目される今日にあって、多職種連携について考えることは避けられない。臨床や在宅など多様なケアの現場において、患者と家族のQOLを維持、向上させるためには多種多様な専門職の連携が求められる。そこで本講義では、多職種連携を理論的に考察する視点を学び、多職種連携に関する我が国の現状と課題の理解を進めていく。内容としては、チームケアや多職種連携を考えるための基礎的理論の検討や、チームケア、地域内連携の事例検討によって理解を深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、ケアに携わる専門職の特徴について理解し、他者にも説明ができる。 2、現代のチームケアのあり方について理解し、他者にも説明ができる。 3、チームケアにおける患者及び家族との協働について理解し、他者にも説明ができる。 4、チームケアの実態を、組織論など講義内容の観点に即して考察することができる。 5、地域内における他領域との連携の意義について理解し、地域におけるケアシステムのあり方について批判的な検討ができる。 					
キーワード	専門職・チームケア・QOL・地域包括ケアシステム					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	はじめに：本講義の概要	本講義の概要、全体像について説明する。		受講者の問題関心等を尋ねる。	共同	
2	多職種連携を捉える視点（1）	専門職論に関する社会学的な視点について解説する。		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
3	多職種連携を捉える視点（2）	専門職と患者の関係を捉える社会学的な視点について解説する。		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
4	多職種連携を捉える視点（3）	患者中心の医療という視点の登場について解説する。		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
5	多職種連携を捉える視点（4）	チーム医療に関する医療社会学的な研究の概要について解説する。		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	
6	多職種連携を捉える視点（5）	実践共同体としてチームを捉える視点について解説する。		事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤	

【別紙1】旧

7	多職種連携を捉える視点（6）	実践共同体における実践知のあり方について解説する。	事前に講義資料等を読んでおくこと。	相澤
8	多職種連携を捉える視点（7）	チームケアにおける看護師の役割と意義について解説する。	事前に講義資料等を読んでおくこと。	鈴木
9	多職種連携の理解（1）	医療専門職間の連携について事例検討を行う。	事前に講義資料等を読んでおくこと。	鈴木
10	多職種連携の理解（2）	医療と介護の連携について事例検討を行う。	事前に講義資料等を読んでおくこと。	鈴木
11	多職種連携の理解（3）	医療と福祉の連携について事例検討を行う。	事前に講義資料等を読んでおくこと。	鈴木
12	多職種連携の理解（4）	医療・福祉と行政の連携について事例検討を行う。	事前に講義資料等を読んでおくこと。	鈴木
13	多職種連携の理解（5）	ケアをめぐる看護職と他分野の専門家との連携について事例検討を行う。	事前に講義資料等を読んでおくこと。	鈴木
14	多職種連携の理解（6）	地域内連携および他職種、他領域の専門職との連携を可能にする教育について事例検討を行う。	事前に講義資料等を読んでおくこと。	鈴木
15	おわりに：本講義のふりかえり	本講義の全体的なふりかえりを行う。	特になし	共同
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		細田満和子、2012、『チーム医療とは何か』日本看護協会出版会 田村由美、2018、『新しいチーム医療 改訂版』看護の科学社 その他、担当講師が準備する資料		
成績評価方法		レポート（80%）および講義中の発言等参加状況（20%）		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
質的研究方法特論	M11006	2 (30)	選択	1	前期	講師 相澤 出
授業概要	<p>広く質的研究法とされるさまざまな方法について、専門的な解説・紹介を行う。人間と社会をめぐる事象における個別具体的な側面に着目し、そこにアプローチしようとする方法はさまざまある。本科目では、ある地域、ある人の人生の個性ある歴史的側面に注目する方法や、ある文化を共有した人々、あるいはある特定の個人の生活世界にアプローチする方法に立ち入り、その思想的背景などもふまえながら解説を行う。</p>					
到達目標	<p>これまでの社会学（それ以前の社会思想史的な部分も含みつつ）の領域で、人間の行為とその意味の理解に関する、基本的な議論を理解し、説明できるようになること。</p>					
キーワード	行動、実証主義、行為、意味、理解、モノグラフ、生活世界、ライフヒストリー					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	はじめに	講義の概要および受講者の関心の所在の確認を行う。		受講に当たっての問題関心を考えてくること。	相澤	
2	「人間本性」に関する研究の歴史（1）	T. パーソンズの議論をふまえつつ、T. ホブズの人間観について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
3	「人間本性」に関する研究の歴史（2）	パーソンズの議論をふまえつつ、J. ロックの人間観について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
4	「人間本性」に関する研究の歴史（3）	社会科学の歴史における「実証主義」的人間像について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
5	歴史主義の登場とその視点の特徴	実証主義的な人間像に対抗して出現した人間や社会のとらえ方について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
6	行動の説明から行為の理解へ	M. ヴェーバーの社会科学論をふまえつつ、行為の意味に注目する視点について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
7	理解社会学の視点	社会学における行為の意味へのアプローチについて解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	

【別紙 1】 旧

8	相互行為の場に注目する視点（1）	同時代に発達したアメリカのシカゴ学派の社会学における、ミクロな視点の社会学とそこでの社会調査について解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
9	相互行為の場に注目する視点（2）	前回に続き、シカゴ学派の理論とモノグラフ研究について解説を行う。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
10	シンボリック相互作用論とグラウンデッドセオリー	シカゴ学派の理論的所産としてのグラウンデッドセオリーについての解説を行う。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
11	生活世界へのアプローチ	A. シュッツの議論をもとに、理解社会学、現象学、さらにはアメリカの社会学の視点による「生活世界」の論じ方について解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
12	地域の個性へのアプローチ	シカゴ学派のモノグラフ、日本の社会学における村落研究のモノグラフ研究など、フィールドワークをめぐる社会学の学説史について解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
13	人の個性へのアプローチ	ライフヒストリー研究の視点について解説を行う。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
14	ライフヒストリーとライフストーリー	近年におけるライフストーリー論の登場とライフヒストリー研究との関係性について解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
15	おわりに	本講義の内容のふりかえり		相澤
履修条件		看護研究法を履修すること。		
教科書・参考図書等		教科書は特に指定はない。参考図書については、講義中に適宜紹介する。		
成績評価方法		講義への参加状況（30%）とレポート（70%）によって評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
医療社会学特論	M11007	2 (30)	選択	1	後期	講師 相澤 出
授業概要	医療社会学の基礎について学修する。医療社会学の基礎を築いたのが、T. パーソンズである。パーソンズは20世紀における社会学の巨人であるが、彼は医療社会学の先駆者でもあった。彼が提示した議論は、後にはさまざまな研究者から批判を受けるところもあるが、いずれ肯定的にであれ、否定的にであれ、避けては通れない存在である。そこでパーソンズの議論（さらにはそれに対する批判）を学ぶことを通じて、医療社会学の基礎に関する理解を深める。					
到達目標	医療社会学の基礎的な議論、基本的な概念について理解を深め、それについて説明できるようになることを目指す。					
キーワード	行為論、機能主義、価値、役割、病人、専門職、合議制アソシエーション、患者の権利					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法		授 業 前 後 の 学 習	担 当	
1	はじめに—医療社会学の出発点	本講義の概要について解説し、受講者の問題関心の所在を確認する。		受講に当たっての問題関心を考えてくること。	相澤	
2	行為論における実証主義と理想主義	医療社会学の基礎としての行為論について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
3	行為論と機能主義の視点	パーソンズの社会学の理論構成上の要点としての行為論と機能主義について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
4	社会学における役割論	パーソンズの理論における役割論の理論的背景について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
5	役割論と社会システム論	パーソンズの世界システム論の基本的な構図について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
6	医療社会学における「病人役割」	医療社会学における基礎概念としての病人役割と、その問題点について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	
7	「病い」を捉える社会的視点	「病い」の社会的な捉え方について、パーソンズの議論とそれ以外の議論について解説する。		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤	

【別紙1】旧

8	パーソンズの医療専門職とそれに対する批判	医療専門職をめぐるパーソンズの議論と、その後に見れた専門職論について解説を行う。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
9	社会や集団に共有された価値のとらえ方	社会や集団における、規範の基礎、社会的役割の土台となる、共有された価値のとらえ方について解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
10	医師—患者関係への社会学的アプローチ	医療現場における専門職と患者の関係について理解するため、医師—患者関係、および社会的コントロールをめぐる議論について解説を行う。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
11	医療現場の組織論としての官僚制論	医療現場と関係する、あるいは医療専門職が職務を遂行する上で関係する現代社会の組織形態としての官僚制について解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
12	医療現場の組織論としての合議制アソシエーション論	官僚制組織とは異なる、現代の専門職の組織のあり方としての合議制アソシエーションについて解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
13	患者の権利の位置づけ	患者の権利に関するパーソンズの医療社会学の議論について解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
14	医療思想の変化	現代社会の医療現場における患者を中心とした医療のあり方、多職種の連携に関するパーソンズの視点を解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
15	医療における死の問題	パーソンズの医療社会学において、死の問題がどのように議論されているかを解説する。	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	相澤
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		高城和義『パーソンズ—医療社会学の構想』岩波書店		
成績評価方法		講義への参加状況 (30%) とレポート (70%) によって評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
フィジカルアセスメント特論	M11008	2 (30)	選択	1	前期	教授 菊池 和子
担当教員 職位・氏名	教授 菊池 和子、江守 陽子					
授業概要	健康問題をもった対象者の身体状況をアセスメントし、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得する。フィジカルアセスメントの目的・方法・必要性についての理解を基盤として、フィジカルアセスメントを活用した適切な情報を収集・分析し包括的なアセスメントから特定の問題を明確化できるコミュニケーション技術を身につけ、臨床判断を行う基礎的能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康問題をもつ個人を対象とするフィジカルアセスメントの目的・方法・必要性について説明できる。 フィジカルアセスメントを活用した適切な情報収集・分析ができる。 包括的なアセスメントから特定の問題を明確化できるコミュニケーション技術を身につけ、臨床判断を行う基礎的能力を身につけることができる。 					
キーワード	フィジカルアセスメント、健康問題、包括的なアセスメント					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	フィジカルアセスメントの意義 必要な知識・技術 診査方法	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
2	頭部・頸部・感覚器系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
3	胸部(心臓・血管系)のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
4	胸部(呼吸器・乳房)のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
5	腹部のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
6	骨・筋肉系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
7	神経系のアセスメント	講義・演習			授業項目の 予習	菊池
8	女性の生殖器と性機能のアセスメント(生殖器と 性機能に関する問診・視診・触診・聴診・計測診 の方法)	講義・演習			授業項目の 予習	江守
9	女性の生殖器と性機能のアセスメント(性行動・ 性に関する問診・視診・触診・計測診)	講義・演習			授業項目の 予習	江守
10	内科疾患が疑われる患者のフィジカルアセスマ ント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	菊池
11	内科疾患が疑われる患者のフィジカルアセスマ ント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	菊池
12	外科疾患が疑われる患者のフィジカルアセスマ ント	看護事例のプレゼンテーション と討議			看護事例を まとめる	菊池

【別紙 1】 旧

13	外科疾患が疑われる患者のフィジカルアセスメント	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	菊池
14	フィジカルアセスメントで得られたデータの統合と看護における臨床判断 事例検討	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	菊池
15	フィジカルアセスメントで得られたデータの統合と看護における臨床判断 事例検討	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	菊池
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		<p>小野寺千枝子監修：実践！フィジカル・アセスメント，金原出版，2008.</p> <p>上田剛士：ジェネラリストのための内科診断リファレンス：エビデンスに基づく究極の診断学をめざして，医学書院，2014.</p> <p>北野正剛：標準外科学第15版，医学書院，2019.</p> <p>授業で紹介する。</p>		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 50% レポート 50%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
コンサルテーション 特論	M11009	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
授業概要	多様な臨床で展開されている高度実践看護師などによるコンサルテーションの活動から、コンサルタントに必要な専門的な役割とその能力を学修し、看護実践家として自身の所属する臨床現場において適応可能なコンサルタント的な役割を検討する。関連して、組織全体を見通すことによって、学習し変革を遂げる組織であるための問題と課題を検討し、組織における自身の役割を検討する。					
到達目標	①自身の所属する組織が現在置かれている時代状況（経営と医療政策）を理解する。 ②組織が抱えているコンサルテーションのニーズを組織段階別に理解する。 ③看護実践の開発と看護人材育成の双方に看護研究が密接に関係していることを理解する。 ④所属する組織における自身の役割発揮の計画と立案ができる。					
キーワード	病院経営，診療報酬改定，地域包括ケア，コンサルテーション（個人・チーム・管理職・看護部），看護研究，看護実践，人材育成，専門多職種連携，病棟・病院における役割					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神科病院が組織として迎えている時代状況 ①	診療報酬と病院経営の課題			問題提起と ディスカッション	岡田
2	” ②	病院組織の課題			同上	岡田
3	地域包括ケアが求める医療政策と現状	地域包括ケア構想と現状			同上	岡田
4	コンサルテーションのニーズ ①	看護職個人が抱える問題と課題			同上	岡田
5	” ②	看護チームが抱える問題と課題			同上	岡田
6	” ③	病棟が抱える問題と課題			同上	岡田
7	” ④	中間管理職が抱える問題と課題			同上	岡田
8	” ⑤	看護管理者が抱える問題と課題			同上	岡田
9	学習し変革を遂げる病院における役割 ①	PDCA サイクルを回す看護実践			同上	岡田
10	” ②	看護実践と看護研究の連結			同上	岡田
11	” ③	看護研究と人材育成の連結			同上	岡田
12	” ④	看護介入プログラムの開発			同上	岡田
13	” ⑤	専門多職種との連携形態			同上	岡田
14	熟達した看護師としての役割 ①	病院組織における役割（総括）			まとめ	岡田
15	” ②	看護部組織における役割（総括）			同上	岡田
履修条件	特になし					

【別紙1】旧

教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none">・P. ベナー著，井部監訳：ベナー看護論（新訳版）—初心者から達人へ，医学書院・西村ユミ著：看護実践の語り—言葉にならない営みを言葉にする，新曜社・同上：語りかける身体—看護ケアの現象学，講談社学術文庫・同上：看護師たちの現象学—協働実践の現場から，青土社・金井壽宏・楠見孝編：実践知—エキスパートの知性，有斐閣・畑村洋太郎著：失敗学のすすめ，講談社文庫
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none">・課題提起のドキュメンテーションとメンバー間のディスカッションへの参加を評価します。・自身の所属組織における課題と役割に関するレポート作成を評価します。・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
災害看護特論	M11010	2 (30)	必修	1	後期	教授 鈴木り子
授業概要	東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県をフィールドに、各国で多発する自然災害及び人為的災害（放射線等）に対して、災害時の復旧・復興期に対応する高度な専門知識、技術の理解を深め、その状況にふさわしい倫理観を身に付ける。 また、国内外の災害現場における専門職者の講義を取り入れ、多様な災害現場における看護職の活動と災害に対する予防・減災・復旧・復興に対する看護活動について探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護における概念及び災害看護能力を発展させるため具体的な方法を身につけることができる。 2. 災害の歴史的背景と災害発生場所の地域診断を行い災害が生じる原因について理論的・実践的に説明できる。 3. 東日本大震災の被災地を事例に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA Cycleに基づいた政策提言ができる。 4. 被災地におけるSC (Social Capital) 醸成の事例を振り返り、看護者としてSC (Social Capital) の理論に基づいた実践、課題やその解決方法を考えることができる。 5. 国内外の多様な現場における専門職者から看護職の災害活動の展望を探究できる。 					
キーワード	災害看護の概念、災害予防・減災・復旧・復興、政策提言、臨床倫理能力、Social Capital					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	ガイダンス	講義概要		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	鈴木	
2	災害看護の概念と必要とされる能力①	社会疫学的視点について解説する臨床倫理能力について解説する		事前に講義資料を読んでおくこと	鈴木	
3	災害看護の概念と必要とされる能力②	同上		同上	鈴木	
4	災害発生場所の地域診断を行い災害発生原因について探求する①	災害発生場所の地域診断手法について		地域診断手法について講義資料を読んでおくこと	鈴木	
5	災害発生場所の地域診断を行い災害発生原因について探求する②	同上		同上	鈴木	
6	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA Cycleに基づいた政策提言を作成する①	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言について解説する。臨床倫理能力について		フェーズ0～5-2別災害保健活動について事前学習しておくこと	鈴木	
7	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA Cycleに基づいた政策提言を作成する②	同上			鈴木	
8	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA Cycleに基づいた政策提言を4枚のスライドにまとめ発表準備をする③	プレゼンテーションについて解説する			鈴木	

【別紙 1】 旧

9	作成した政策提言書を議会形式で発表する		プレゼンテーションできるように事前準備をしておく。	鈴木
10	作成した政策提言の災害予防・減災・復旧・復興の1項目を選び実践計画書はSC (Social Capital) の理論を取り入れ作成する①	SC の理論について解説する	SC の理論について事前学習をしておくこと	鈴木
11	作成した政策提言の災害予防・減災・復旧・復興の1項目を選び実践計画書はSC (Social Capital) の理論を取り入れ作成する②		同上	鈴木
12	実践計画書の実演	実演計画書作成について解説する	プレゼンテーションできるように事前準備をしておく。	鈴木
13	ゲストスピーカーによる実践活動の探求①	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーの活動資料を作成	鈴木
14	ゲストスピーカーによる実践活動の探求②	ゲストスピーカー	ゲストスピーカー	鈴木
15	まとめ	到達目標の評価		鈴木
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		カワチイチロー他, 2017, 社会疫学「上・下」, 大修館書店 カワチイチロー他 .2008, ソーシャル・キャピタルと健康, 日本評論社 御厨貴 2016 大震災復興過程の政策分析 ミネルヴァ書房 麻原きよみ他, 2018, 保健師と放射線 真興交易 (株) 医書出版部		
成績評価方法		レポート (80%) および講義中の発言参加状況 (20%)		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護学教育特論	M11011	2 (30)	選択	1	後期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子、濱中喜代 准教授 土田幸子 講師 石井真紀子					
授業概要	看護職における看護基礎教育と継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職への教育のあり方について探求する。具体的には、日本の看護教育制度の特徴、看護教育カリキュラムの変遷、と課題、生涯教育の観点から、成人学習に関する教育方法の基礎的理論を学ぶとともに、看護基礎教育および看護継続教育における教育プログラムの作成・教育内容・教材開発・教育評価の方法や留意点について学修する。 さらに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における教育の基本的な方向性、わが国の医療政策と看護教育課程に及ぼす影響、これからの看護の機能と教育のあり方などについても考察する。					
到達目標	1. 看護教育制度の現状について説明できる 2. 看護学教育の課題について自分の考えが説明できる 3. 主体的な学びを支援するような教育的関わりについて説明できる 4. 教育評価について説明できる。 5. 授業および看護実習指導のあり方について考えることができる 6. 成人学習者の特徴を理解し、説明することができる					
キーワード	看護教育制度、看護教育課程、教育評価、成人学習、看護基礎教育、看護継続教育、					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	日本の学校教育制度、日本の看護教育の歴史	社会の変遷と看護教育の変遷 これからの看護教育・講義		事前・事後の 自己学習	土田	
2	看護基礎教育の現状と課題①	教育の現状と課題の明確化・グループワーク		事前・事後の 自己学習	土田	
3	看護基礎教育の現状と課題②	教育課題への取り組み・グループワーク		事前・事後の 自己学習	土田	
4	看護継続教育の現状と課題① 教育制度の特徴と現状、大学院教育、卒業教育、新任教育、院内教育	継続教育の現状と課題の明確化・グループワーク		事前・事後の 自己学習	濱中	
5	看護継続教育の現状と課題② 認定看護師、専門看護師、特定看護師制度	継続教育の課題への取り組み・グループワーク		事前・事後の 自己学習	濱中	
6	看護学教育組織における現状と課題 組織の維持・FD (Faculty Development)	教育機関における学生の受け入れ・入学選抜、教育目的・目標の設定、教育内容の選定、組織運営・講義		事前・事後の 自己学習	濱中	
7	学習指導法 ①：授業案の作り方/授業の展開	授業展開論、学習のレディネス・講義		事前・事後の 自己学習	土田	
8	学習指導法 ②：学内演習、看護技術教育	授業形態と教育方法・講義		事前・事後の 自己学習	石井	
9	学習指導法 ③：臨床実習指導	看護学実習の位置づけと目的 看護学実習の課題・講義		事前・事後の 自己学習	濱中	

【別紙 1】 旧

10	学習指導法 ④：臨床実習指導	各自の実習指導経験について ・プレゼンテーション・討議	事前・事後の 自己学習	濱中
11	看護教育評価法 教育評価の意義、方法、実際	教育課程の評価、教授活動の評 価、学生の授業評価・講義	事前・事後の 自己学習	江守
12	成人学習者の特徴と学習理論 ①	成人学習者の特徴と傾向 成人の生涯学習・講義	事前・事後の 自己学習	石井
13	成人学習者の特徴と学習理論 ②	成人教育とは何か ペダゴジーとアンドラゴジーの 比較・講義・各自の教育経験に ついてプレゼンテーション、講 義・グループワーク	事前・事後の 自己学習	石井
14	わが国の医療政策と看護教育の関係	わが国の医療提供体制と現状、 医療施設の再編と看護教育への 影響、医療政策と医療従事者の 育成・講義	事前・事後の 自己学習	江守
15	まとめ これからの看護教育の在り方について	学修成果の共有・講義・プレゼ ンテーション・討議	事前・事後の 自己学習	江守
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		その都度紹介する		
成績評価方法		授業態度、グループワーク参加度、課題学習、レポート、出席状況等によって総合評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	M21001	2 (30)	選択	1	前期	教授 菊池 和子
授業概要	看護活動の場で実践されている看護援助の理論的背景について、主に中範囲理論としてペプロウ看護論、トラベルビー看護論、ストレス・コーピング理論、危機理論、ボディーイメージ・自己概念に関する理論、喪失・悲嘆に関する理論やリフレクションに関する理論を学び、看護実践への活用について学修する。自己の看護実践を理論と統合し、理論を活用して看護実践を展開する能力を養う。					
到達目標	1. 看護活動の場で実践されている看護援助の理論的背景について説明できる。 2. 自己の看護実践を理論と統合し、考察できる。					
キーワード	看護活動、看護援助、看護理論					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	看護実践と看護援助の理論	講義				菊池
2	ペプロウ看護論	文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
3	ペプロウ看護論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
4	トラベルビー看護論	文献のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
5	トラベルビー看護論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
6	ストレス・コーピング理論	文献のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
7	ストレス・コーピング理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
8	危機理論	文献のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
9	危機理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
10	ボディーイメージ・自己概念に関する理論	文献のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
11	ボディーイメージ・自己概念に関する看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
12	喪失・悲嘆に関する理論	文献のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
13	喪失・悲嘆に関する理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
14	リフレクションに関する理論	文献のプレゼンテーションと討議			〃	菊池
15	リフレクションに関する理論の看護実践への適用	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議			〃	菊池

【別紙 1】 旧

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論第2版，学研メディカル秀潤社，2015. H. E. Peplau, (1952)／田八重子他訳：ペプロウ人間関係の看護論，医学書院，1973 Travelbee, J. (1971)／長谷川浩・藤枝知子訳：人間対人間の看護，医学書院，1974. 授業で紹介する
成績評価方法	プレゼンテーションと討議内容 70% レポート 30%

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21002	2 (30)	選択	1	後期	教授 菊池和子
授業概要	看護活動の場で実践されている看護援助技術について快適な環境をつくる技術、活動・運動を支援する技術、身体を清潔に保つための技術、食事・栄養摂取に関する技術、薬物療法に関する技術、健康学習を支援する技術や関心のある看護援助技術について文献検討及び根拠となる理論から分析・考察する。さらに根拠に基づく看護援助技術を提供するための方法を探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場で実践されている看護援助技術の根拠となる理論について理解できる。 2. 根拠に基づく看護援助技術を提供する方法を説明できる。 					
キーワード	看護援助技術 背景理論					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法		授 業 前 後 の 学 習	担 当	
1	看護援助技術とは 根拠に基づく看護技術研究の変遷	プレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
2	快適な環境をつくる技術	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
3	活動・運動を支援する技術 物理学の理論と体位変換の看護技術との関連	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
4	活動・運動を支援する技術 生きがいに関する理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
5	身体を清潔に保つ技術 皮膚の生理学的特徴との関連	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
6	身体を清潔に保つ技術 清潔ケアが生体に及ぼす影響	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
7	食事・栄養摂取を促す技術 健康と食事	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
8	食事・栄養摂取を促す技術の背景理論 食事介助に関する理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
9	薬物療法に関する技術の背景理論 根拠に基づく注射技術	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
10	薬物療法に関する技術 安全な与薬のための理論	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
11	健康学習を支援する技術の変遷	文献のプレゼンテーションと討議		授業項目の 予習	菊池	
12	健康学習を支援する技術の背景理論 健康学習を支援する技術の理論化の検討	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
13	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討	文献のプレゼンテーションと討議		文献検討	菊池	
14	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	
15	関心のある看護援助技術に関する背景理論の検討	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議		看護体験を まとめる	菊池	

【別紙 1】 旧

履修条件	特になし
教科書・参考図書等	村中陽子他編：看護ケアの根拠と技術 第3版, 医歯薬出版, 2019. 授業で紹介する
成績評価方法	プレゼンテーション及び討議内容 70% レポート 30%

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
基礎看護学演習 I	M21003	2 (30)	選択	1	前期	教授 菊池 和子
担当教員 職位・氏名	教授 菊池 和子 講師 石井真紀子					
授業概要	文献検索に必要な知識と技術と共に文献のクリティークを行う能力を養う。看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」で学んだ内容と関連する文献について量的研究、質的研究それぞれについてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。					
到達目標	1. 文献検索に必要な知識と技術を修得する。 2. 文献のクリティークを行うことができる。					
キーワード	文献検索、文献検討、文献のクリティーク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護実践で行われている看護援助についての文献検討(文献検索に必要な知識と技術)	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
2	看護実践で行われている看護援助についての文献検討(文献検索に必要な知識と技術)	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
3	看護実践で行われている看護援助についての文献検討(クリティーク)	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
4	量的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
5	量的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
6	量的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
7	量的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
8	量的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	菊池	
9	質的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	
10	質的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	共同	

【別紙 1】 旧

11	質的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
12	質的研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
13	看護理論を活用した研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
14	看護理論を活用した研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
15	看護理論を活用した研究のクリティーク	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」「看護研究方法特論」で使 した参考書		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 70% レポート 30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
基礎看護学演習Ⅱ	M21004	2 (30)	選択	1	後期	教授 菊池和子
授業概要	基礎看護学演習Ⅰで得られた研究成果と課題の分析から、自己の関心のある看護援助について文献のクリティークを行い研究成果や課題を考察し、自己の研究課題を明確化する。「看護研究方法特論」の学修を活用し、文献検討から研究課題を解くための研究方法を検討する。研究課題に即した研究デザインを検討し、研究計画書の作成を行う。					
到達目標	1. 文献のクリティークを行い研究成果や課題を考察することができる。 2. 研究計画書を作成できる。					
キーワード	文献検索、文献検討、文献のクリティーク、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	自己の関心のある看護援助に関する文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
2	自己の関心のある看護援助に関する量的研究の文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
3	自己の関心のある看護援助に関する量的研究の文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
4	自己の関心のある看護援助に関する量的研究の文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
5	自己の関心のある看護援助に関する質的研究の文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
6	自己の関心のある看護援助に関する質的研究の文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
7	自己の関心のある看護援助に関する質的研究の文献検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
8	研究計画書の作成 研究課題の明確化	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
9	研究計画書の作成 研究の理論的枠組みの検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池
10	研究計画書の作成 研究デザイン	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議			プレゼンテーションの準備	菊池

【別紙 1】 旧

11	研究計画書の作成 研究対象	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
12	研究計画書の作成 調査内容・測定用具	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
13	研究計画書の作成 データ収集方法・手順	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
14	研究計画書の作成 データ分析方法	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
15	研究計画書の作成 倫理的配慮の検討	修論のテーマに関する文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	菊池
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		院生の関心領域に関する文献を授業で紹介する		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 50% 研究計画書 50%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学特論 I (看護援助学特論)	M21005	2 (30)	選択	1	前期	教授 鈴木るり子
授業概要	地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者に、看護師として必要な知識・技術・倫理観について考察する。また、国内外の在宅看護の実際について分析し、我が国における新たな在宅看護の展開について探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者の保健・福祉・医療制度について説明することができる。 2. 国内外の在宅看護の実際について述べ、それぞれの国における課題について説明することができる。 3. 在宅療養者及び家族・看護師を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法について説明することができる。 4. 我が国における新たな在宅看護の展開について述べることができる。 					
キーワード	在宅療養者の保健・医療・福祉制度、国内外の在宅療養者、QOLの向上					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1、2	我が国における地域社会で療養生活を営んでいる現状と課題及びそれを支えている訪問診療・訪問看護訪問ヘルパー等の現状と課題 ①	授業ガイダンス。我が国における訪問診療・訪問看護・訪問ヘルパー事業所等の実態			自己学習	鈴木
3、4	地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者の保健・福祉・医療制度の現状と課題 ②	我が国におけるライフサイクルごとの保健・福祉・医療制度の実態			自己学習	鈴木
5、6	国内外の在宅看護の現状とそれぞれの国における課題 ①	在宅事例を用い国内外の実態とその課題(例:ALS等の指定難病)			自己学習	鈴木
7、8	国内外の在宅看護の現状とそれぞれの国における課題 ②	同上			自己学習	鈴木
9、10	在宅療養者及び家族・看護師を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 ①	在宅療養者及び家族・看護師を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法			自己学習	鈴木
11、12	在宅療養者及び家族・看護師を含む支援者のQOLを高めるために必要とされるケアの方法 ②	同上			自己学習	鈴木
13、14	我が国における新たな在宅看護の展開 ①	我が国における新たな在宅看護の展開			自己学習	鈴木
15	我が国における新たな在宅看護の展開 ②	同上			自己学習	鈴木
履修条件	特になし					
教科書・参考図書等	その都度紹介する					
成績評価方法	授業態度、プレゼンテーション、課題提出物、レポート等から総合評価する					

【別紙 1】 旧

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21006	2 (30)	選択	1	後期	教授 鈴木るり子
授業概要	地域や集団を単位とした地域ケアシステム構築に係る既存の概念・理論について理解を深める。また、地域診断を基に地域住民の個別の健康・生活課題を地域全体の健康・生活課題へと発展させ、社会資源の活用と開発、施策化について考察する。これらを通して地域ケアシステムについて探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域ケアシステム構築に関する概念及び理論について理解できる。 2. 地域診断理論による健康・生活課題の抽出、地域ケアサービスの質の保証、施策化の方向性を理解できる。 3. 健康・生活課題課に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発、施策化の方向性を理解できる。 4. 健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの立案ができる。 					
キーワード	地域ケアシステム、地域診断、健康・生活課題の抽出、社会資源の開発、施策化の方向性					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、2	地域ケアシステム構築に関する概念及び理論	授業ガイダンス、地域ケアシステムの発展過程（参考事例を基に学ぶ）			自己学習	鈴木
3、4	地域診断理論（community as partner model, PRECEDE - PROCEED model）による健康・生活課題の抽出	参考事例を基に作成する			自己学習	鈴木
5、6	健康・生活課題の抽出から地域ケアサービスの質の保証	参考事例を基に作成する			自己学習	鈴木
7、8	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性	参考事例を基に作成する			自己学習	鈴木
9、10	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発	参考事例を基に作成する			自己学習	鈴木
11、12	社会資源の開発に必要とされる施策化の方向性	参考事例を基に作成する			自己学習	鈴木
13、14	参考事例を基に課題を解決するための地域ケアシステムの立案 ①	参考事例を基に地域ケアシステムプロセスに沿って立案する			自己学習	鈴木
15	参考事例を基に課題を解決するための地域ケアシステムの立案 ②	同上			自己学習	鈴木
履修条件	特になし					
教科書・参考図書等	その都度紹介する					
成績評価方法	授業態度、課題提出物、レポート等から総合評価する					

【別紙 1】 旧

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学演習 I	M21007	2 (30)	選択	1	前期	教授 鈴木るり子
授業概要	様々なライフサイクルにある療養者がもつ健康問題や環境に対してアセスメントする能力を養う。また、療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力と看護上生じる倫理的問題について検討・考察する能力を養う。これらの過程を通して研究課題の明確化を図る。					
到達目標	1. 自己の研究課題について、在宅療養者の支援に関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる。 3. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 4. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、2	乳幼児・学童児期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	乳幼児・学童児の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
3、4	思春期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	思春期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
5、6	青年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	青年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
7、8	老年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文のクリティーク	老年期の在宅療養者の健康問題・環境に対するアセスメント能力に関する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
9、10	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する研究論文のクリティーク 1	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
11、12	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する研究論文のクリティーク 2	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
13、14	国内外の在宅看護の現状と課題及び新たな在宅看護の展開に関する研究論文のクリティーク	国内外の在宅看護の現状と課題及び新たな在宅看護の展開に関する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
15	在宅看護上生じる倫理的問題に関する研究論文のクリティーク	在宅看護上生じる倫理的問題に関する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
履修条件	地域看護学特論 I・IIを受講済みであること					
教科書・参考図書等	随時紹介する					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況、授業内での発表内容・参加状況等によって総合判断する					

【別紙 1】 旧

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
地域看護学演習Ⅱ	M21008	2 (30)	選択	1	後期	教授 鈴木るり子
授業概要	自己の研究課題に焦点をあて、その研究の課題を解明するための理論的枠組みについて方法論の正当性や実現可能性について検討する。課題に即した研究デザイン、研究計画を採用する過程を通して自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 自己の研究課題について、地域ケアシステムに関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 3. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。					
キーワード	文献検索、文献購読、文献要約、研究デザイン、研究計画					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、2	地域ケアシステムに関する研究論文のクリティーク	地域ケアシステムに関連する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
3、4	地域ケアシステム構築に関する研究論文のクリティーク	地域ケアシステム構築に関連する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
5、6	地域ケアシステム構築に関する地域診断・健康・生活課題の抽出に関する研究論文のクリティーク	地域ケアシステム構築に関する地域診断・健康・生活課題の抽出に関連する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
7、8	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性に関する研究論文のクリティーク	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性に関連する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
9、10	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発に関する研究論文のクリティーク	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発に関連する研究論文の発表と討議			論文講読 発表準備	鈴木
11、12	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク1	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議①			論文講読 発表準備	鈴木
13、14	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク2	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議②			論文講読 発表準備	鈴木
15	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク3	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議③			論文講読 発表準備	鈴木
履修条件	地域看護学特論Ⅰ・Ⅱを受講済みであること					
教科書・参考図書等	随時紹介する					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況、授業内での発表内容・参加状況等によって総合判断する					

【別紙 1】 旧

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
老年看護学特論 I (看護援助学特論)	M31001	2 (30)	選択	1	前期	教授 勝野とわ子
授業概要	高齢期にある人々の健康維持・増進、疾病予防について全人的に課題を把握し分析する。その為に高齢者ケアに応用可能な理論の理解を深め、実践における応用可能性を探求する。さらに、生活習慣病やストレス等に関連する健康問題に着目し、終末期を含めたQOLの維持向上を目指した看護介入方法とその評価方法を探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者ケアに応用可能な理論について理解を深め説明できる。 2. 高齢者の健康を全人的にアセスメントする方法について理解する。 3. 生活習慣病やストレスと自己管理能力に焦点を当てて、看護介入方法について理解する。 4. 高齢者の健康を支援するための社会資源や保健医療福祉サービスのシステムの課題について理解し説明できる。 					
キーワード	理論、生活習慣病、システム、アセスメント					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
2	高齢者の健康生活を支援する主要概念と諸理論 高齢者ケアにおける重要概念と理論の意義を理解する。健康寿命、QOL, WHO の健康概念、エンパワメント理論などについて理解を深める	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
3	セルフケア理論と看護実践 セルフケア理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
4	QOL 理論と看護実践 QOL 理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
5	ストレス・コーピング理論と看護実践 ストレス・コーピング理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
6	スピリチュアリティと看護実践 スピリチュアリティ理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
7	Parse 看護理論と看護実践 Parse 看護理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
8	高齢者の健康問題の査定法 高齢者を対象としたヘルスアセスメントのポイントを理解する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
9	高齢者の健康問題と生活および環境 生活と環境が高齢者の健康問題に及ぼす影響を理解し介入方法について検討する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野

【別紙1】旧

10	問題解決のための諸制度と諸資源 高齢者の健康問題等に有効に介入するための制度と諸資源について具体的に理解を深める	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
11	問題解決のための看護実践方法とシステム 高齢者の健康問題等の解決に有効な看護実践方法と保健医療福祉サービスシステムについて理解を深める	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
12	看護実践方法とシステムの改善と開発1 文献検討から看護実践方法とシステムの開発について検討する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
13	看護実践方法とシステムの改善と開発2 文献検討、実践例から看護実践方法とシステムの開発について検討する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
14	慢性疾患を持つ高齢者の自己管理能力を支援する看護 文献や実践例から糖尿病や心疾患を持つ高齢者の自己管理能力支援の重要性を理解するとともに新たな看護方法を検討する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
15	介護予防のための自己管理能力を支援する看護 文献や実践例から高齢者の健康寿命を支える自己管理能力を支援する新たな看護方法を検討する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
履修条件	なし			
教科書・参考図書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. Cotter, V.T, & Strumpf, N.E. Advanced practice nursing with older adults: Clinical Guidelines, McGraw Hill. 2. その他必要に応じて提示する。 			
成績評価方法	課題レポートと授業への貢献度などを総合的に評価する。			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
老年看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31002	2 (30)	選択	1	後期	教授 勝野とわ子
授業概要	認知症の病態生理、症状の特徴、診断および治療方法を最新の知見に基づき理解する。其のうえで、認知症による身体的・心理的・社会経済的影響をアセスメントし、認知症患者およびその家族の健康課題や倫理的課題について分析し考察する。さらに、Dementia ケア理論について理解し、認知症者の生活や活動の在り方および療養環境の整備などから生活の質の向上を目指した看護方法の開発を探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の種類、病態生理、症状の特徴、診断・治療方法を理解し説明できる。 2. 認知症者と家族介護者のアセスメントの指標を理解する。 3. Dementia ケア理論について理解し説明できる。 4. 認知症者と家族介護者の健康課題や倫理的課題を理解し、解決策を考えることができる。 					
キーワード	認知症、若年認知症、Dementia ケア理論、アセスメント、支援方法					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	講義				勝野
2	認知症の病態生理、診断、治療、最新の研究動向	講義			参考書、資料	勝野
3	Dementia ケアの理論1 Person-centered care について理解を深める	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
4	Dementia ケアの理論2 Continuity 理論、エンパワメント理論など	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
5	Dementia ケアの理論3 ストレス刺激閾値漸減モデルなど	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
6	Dementia による身体的、心理的、社会・経済的影響 と看護実践	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
7	若年認知症の理解と対応1 若年認知症者の特徴とそれに応じたケア	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
8	若年認知症の理解と対応2 若年認知症家族介護者の特徴とそれに応じたケア	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
9	認知症者と家族を支援するための社会資源 保健福祉制度および効果的な支援活動のための資源 の調整など	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
10	認知症者のアセスメント 認知機能評価法などの理解と実践演習	講義、演習			参考書、資料	勝野
11	認知症家族介護者のアセスメント 介護負担尺度、うつ尺度、QOL 尺度の理解と実践演習	講義、演習			参考書、資料	勝野
12	認知症者と家族への支援方法1 支援の実際について例示しより良い支援方法について 討論する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野
13	認知症者と家族への支援方法2 学生が経験した支援について事例発表し討論する	講義、ゼミ			参考書、資料	勝野

【別紙 1】 旧

14	Dementia ケアにおける倫理的課題と看護実践 認知症者と介護家族の人権とその支援方法について 討論する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
15	Dementia に関する最新の研究動向 認知症医療、ケアにおける最新の研究論文を読み新 たなケアを探究する姿勢を理解する	講義、ゼミ	参考書、資料	勝野
履修条件	なし			
教科書・参考図書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鈴木みずえ、酒井郁子：パーソン・センタード・ケアでひらく認知症看護の扉。南江堂 2. 中島希恵子監修・編集：認知症の人びとの看護。医歯薬出版 3. その他必要に応じて提示する。 			
成績評価方法	課題レポート、講義、ゼミ、演習への貢献度などによる総合評価			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学演習 1	M31003	2 (30)	選択	1	前期	教授 勝野とわ子
担当教員 職位・氏名	教授 勝野とわ子 准教授 木内千晶					
授業概要	各自が興味を持っているテーマについて文献検討を行い、関心領域の研究の課題を明らかにする。さらに最新の研究知見から研究方法について理解を深める。それらを統合して研究計画書を作成する能力を養う。					
到達目標	1. 興味のある分野の研究論文を検索することが出来る。 2. クリテイクし、研究課題を明確にすることができる。 3. クリテイクから研究課題解決に適切な方法を考えることが出来る。					
キーワード	文献検索、クリテイク、研究課題、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション	ゼミ		参考書、資料	共同	
2	文献検索の方法 文献検索データベースの使い方と文献収集	講義		参考書、資料	木内	
3	文献クリテイクの方法1 興味のある分野の量的研究のクリテイク方法を理解する。	講義		参考書、資料	勝野	
4	文献クリテイクの方法2 興味のある分野の質的研究のクリテイク方法を理解する	演習		参考書、資料	勝野	
5	文献検討1 学生の関心領域の文献を検討する。	ゼミ		参考書、資料	共同	
6	文献検討2 学生の関心領域の文献を検討する	ゼミ		参考書、資料	共同	
7	文献検討3 学生の関心領域の文献を検討する	ゼミ		参考書、資料	共同	
8	文献検討4 学生の関心領域の文献を統合する	ゼミ		参考書、資料	共同	
9	文献検討5 学生の関心領域の文献を統合する	ゼミ		参考書、資料	共同	
10	文献検討6 学生の関心領域の文献を統合する	ゼミ		参考書、資料	共同	
11	研究計画書の書き方 研究の背景、研究方法、倫理的配慮など研究計画書の内容について理解する	講義		参考書、資料	木内	
12	研究計画書の検討1 学生個々の研究計画書の作成と討議	ゼミ		参考書、資料	共同	

【別紙 1】 旧

13	研究計画書の検討2 学生個々の研究計画書の作成と討議	ゼミ	参考書、資料	共同
14	研究計画書の検討3 研究計画書の修正と討議	ゼミ	参考書、資料	共同
15	研究計画書の検討4 研究計画書の発表と討議	ゼミ	参考書、資料	共同
履修条件	老年看護学特論 1			
教科書・参考図書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. Brink, P.J. & Wood, M.J. 看護研究計画書作成の基本ステップ。日本看護協会出版会 2. その他必要に応じて参考文献や資料を提示する。 			
成績評価方法	課題レポートおよび授業への貢献度などを総合して評価する。			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学演習Ⅱ	M31004	2 (30)	選択	1	後期	教授 勝野とわ子
担当教員 職位・氏名	教授 勝野とわ子 准教授 木内千晶					
授業概要	認知症に関する（または、各自が興味を持っている）テーマに基づき、医療機関または高齢者施設などで演習をおこない、パイロットスタディを実施する。収集したデータ分析の演習を通して、対象としている現象の理解を深め、研究計画書および研究倫理申請書を作成する能力を養う。					
到達目標	1. テーマに基づいたパイロットスタディを実施できる。 2. データ分析について理解を深め、説明できる。 3. 研究計画書を作成できる。 4. 研究倫理審査申請書について理解を深める。					
キーワード	パイロットスタディ、研究計画書、データ分析					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション	ゼミ		教科書、資料	共同	
2	関心領域の文献クリティーク1 学生の関心領域のクリティークと討議	ゼミ		教科書、資料	共同	
3	関心領域の文献クリティーク2 学生の関心領域のクリティークと討議	ゼミ		教科書、資料	共同	
4	パイロットスタディ研究計画書1 学生の学位論文研究のパイロットスタディ研究計画書の作成と検討	ゼミ		教科書、資料	共同	
5	パイロットスタディ研究計画書2 パイロットスタディ研究計画書の修正と検討	ゼミ		教科書、資料	共同	
6	パイロットスタディ1 フィールドにおけるパイロットスタディの実施	演習		教科書、資料	共同	
7	パイロットスタディ2 フィールドにおけるパイロットスタディの実施	演習		教科書、資料	共同	
8	パイロットスタディ3 フィールドにおけるパイロットスタディの実施	演習		教科書、資料	共同	
9	データ分析1 収集したデータの分析と討議	演習		教科書、資料	共同	
10	データ分析2 収集したデータ分析と討議	演習		教科書、資料	共同	
11	データ分析3 データ分析結果の発表と討議	演習		教科書、資料	共同	
12	研究計画書作成1 パイロットスタディの結果をもとに研究計画書を作成する	ゼミ		教科書、資料	共同	
13	研究計画書作成2 作成した研究計画書の発表と討議および修正	ゼミ		教科書、資料	共同	

【別紙 1】 旧

14	研究倫理審査申請書作成1 研究倫理審査申請書の作成と討議	ゼミ	教科書、資料	共同
15	研究倫理審査申請書作成2 研究倫理審査申請書の発表と討議および修正	ゼミ	教科書、資料	共同
履修条件	老年看護学特論 I、老年看護学特論演習 1、老年看護学特論 2			
教科書・参考図書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. Brink, P.J. & Wood, M.J. 小玉香津子・輪湖史子訳、看護研究計画書作成の基本ステップ。日本看護協会出版社 2. Krippendorff, K. Content analysis: An introduction to its methodology. SAGE. 3. その他の資料は必要に応じて提示する。 			
成績評価方法	課題レポート、研究計画書、授業への貢献度など総合的に評価する。			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学特論 I (看護援助学特論)	M31005	2 (30)	選択	1	前期	教授 江守陽子
授業概要	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する女性の心理的、身体的、社会的な特徴について、国内外の文献や事例をもとに、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる女性と家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。					
到達目標	1. 女性の健康の概念が理解できる。 2. 女性の健康課題を説明することができる 3. 女性の健康課題についてアセスメントをし、支援方法を立案することができる。 4. 女性の健康を支援するための看護の役割を理解できる。					
キーワード	リプロダクティブヘルス、高度生殖医療、ドメスティック・バイオレンス、女性医療					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、 2	女性の健康課題：ライフステージからとらえる健康	乳・幼児期、思春期、成人期、更年期、老年期、各期の女性の性周期に関する健康課題			自己学習	江守
3、4	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスと健康	成人期(成熟期)の生殖に関連する健康課題			自己学習	江守
5、6	女性の健康課題：月経と健康	月経異常、月経困難症、月経前症候群、子宮内膜症等のアセスメント、ケアの実際			自己学習	江守
7、8	女性の健康課題：高度生殖医療と健康	不妊、不妊治療、不妊治療後の妊娠・出産・育児支援			自己学習	江守
9、 10	女性の健康課題：思春期の女性の精神の健康	ボディ・イメージ、うつ、引きこもり、思春期食思不振症、性自認、自尊感情、社会的逸脱行動			自己学習	江守
11、 12	女性の健康課題：更年期・老年期の女性の精神の健康	女性ホルモンと卵巣機能、自律神経失調症状、精神神経症状、空の巣症候群、ホットフラッシュ、発汗、不眠、不安、抑うつ、介護ストレス、親族の死、人生100年時代を見越した女性の健康支援			自己学習	江守
13、 14	女性の健康課題：ドメスティック・バイオレンス被害女性の健康課題	定義と実態、スクリーニング、被害者支援、加害者支援、フォレンジック・ナーシング			自己学習	江守

【別紙 1】 旧

15	女性の健康課題：女性医療の視点から見た健康課題	性差医療、生涯を通じた女性の包括的健康支援、女性の地位、偏見、性差別、女性蔑視、性の売買、性に関する迷信・悪習慣	自己学習	江守
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		その都度紹介する		
成績評価方法		授業態度、プレゼンテーション、グループワークへの参加度、課題提出物、レポート等から総合評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31006	2 (30)	選択	1	後期	教授 江守陽子
授業概要	<p>家族や社会における母子の心理的、身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護職の活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。</p> <p>さらに、家族、社会集団、および国家における母子保健の位置付け、取り組み、保健活動および我が国の母子保健法等の法律に裏付けられた国、都道府県、市町村レベルの支援や保健サービスの特徴について学修を進める。また、母子保健活動の変遷、地域（国外も含む）による差異について考察する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索システムを用い、文献探索ができる 2. 論文を講読し、研究内容を要約して口頭で紹介することができる 3. 講読論文解説を聞いて理解し、疑問点や当該研究の意義について討論することができる 					
キーワード	文献検索、文献講読、文献要約					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1、 2	女性および家族の支援と看護 包括的文献レビュー	授業ガイダンス、文献検索法、文献紹介、女性および家族の支援と看護に関する文献レビュー			関連文献の講読、発表準備	江守
3、 4	妊娠期の女性の健康課題と看護 包括的文献レビュー	妊娠期の女性に関する文献レビュー			関連文献の講読、発表準備	江守
5、 6	胎児・新生児の健康問題と看護 包括的文献レビュー	胎児・新生児に関する文献レビュー			関連文献の講読、発表準備	江守
7、 8	母子関係および母性性の発達過程の支援と看護 包括的文献レビュー	母子関係および母性性の発達過程に関する文献レビュー			関連文献の講読、発表準備	江守
9、 10	出産体験と看護者の役割 包括的文献レビュー	出産体験に関する文献レビュー			関連文献の講読、発表準備	江守
11、 12	母子の健康課題と育児支援 包括的文献レビュー	母子の健康課題と育児支援に関する文献レビュー			関連文献の講読、発表準備	江守
13、 14	祖父母を含めた家族・サポートシステムの障害と看護 包括的文献レビュー	祖父母を含めた家族・サポートシステムに関する文献レビュー			関連文献の講読、発表準備	江守
15	まとめ	課題レポート作成			文献整理	江守
履修条件	特になし					
教科書・参考図書等	その都度紹介する					

【別紙 1】 旧

成績評価方法	授業態度、プレゼンテーション、グループワークへの参加度、課題提出物、レポート等から総合評価する
--------	---

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
母性看護学演習 I	M31007	2 (30)	選択	1	前期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子 助教 大谷良子、佐藤 恵					
授業概要	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する健康リスクの高い女性あるいは健康問題を抱えた女性について、国内外の文献や事例を分析することにより、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、母性看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。					
到達目標	1. 思春期から更年期、老年期の健康支援に関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる 3. 自らの研究テーマの意義および位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる 4. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、 2	女性の健康課題：思春期の女性の健康 研究論文のクリティーク 1	思春期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
3、 4	女性の健康課題：思春期の女性の健康 研究論文のクリティーク 2	思春期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
5、 6	女性の健康課題：更年期・老年期の健康 研究論文のクリティーク 1	更年期・老年期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
7、 8	女性の健康課題：更年期・老年期の健康 研究論文のクリティーク 2	更年期・老年期の女性の健康に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
9、 10	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスに関する健康障害 研究論文のクリティーク 1	リプロダクティブヘルスに関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
11、 12	女性の健康課題：リプロダクティブヘルスに関する健康障害 研究論文のクリティーク 2	リプロダクティブヘルスに関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
13、 14	女性の健康課題：我が国の母子保健施策 研究論文のクリティーク 1	我が国の母子保健施策に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
15	女性の健康課題：我が国の母子保健施策 研究論文のクリティーク	我が国の母子保健施策に関連する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
履修条件	母性看護学特論 I および II を受講済みであること					
教科書・参考図書等	随時紹介する					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況、授業内での発表内容・参加状況等によって総合判断する					

【別紙 1】 旧

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
母性看護学演習Ⅱ	M31008	2 (30)	選択	1	後期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子 助教 大谷良子、佐藤 恵					
授業概要	周産期および女性の生涯を通じて、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 関心のある分野に関する文献を系統的に検索し、客観的なクリティークができる 2. 自らが取り組むべき研究課題を明らかにすることができる 3. 自らの研究課題に関する基本概念を整理し、発表することができる 4. 取り組もうとする研究の意義を発表することができる 5. 研究課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することができる					
キーワード	リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、 2	妊娠期の女性の健康課題と看護 研究論文のクリティーク1	妊娠期の女性の健康に関連する 研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
3、 4	妊娠期の女性の健康課題と看護 研究論文のクリティーク2	妊娠期の女性の健康に関連する 研究テーマの可能性と研究計画 試案		論文講読 発表準備	共同	
5、 6	胎児・新生児の健康問題と看護 研究論文のクリティーク1	胎児・新生児の健康に関連する 研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
7、 8	胎児・新生児の健康問題と看護 研究論文のクリティーク2	胎児・新生児の健康に関連する 研究テーマの可能性と研究計画 試案		論文講読 発表準備	共同	
9、 10	出産体験と看護者の役割 研究論文のクリティーク1	出産体験に関連する研究論文の 発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
11、 12	出産体験と看護者の役割 研究論文のクリティーク2	出産体験に関連する研究テーマ の可能性と研究計画試案		論文講読 発表準備	共同	
13、 14	家族・サポートシステムに対する支援 研究論文のクリティーク1	家族・サポートシステムに関連 する研究論文の発表と討議		論文講読 発表準備	共同	
15	家族・サポートシステムに対する支援 研究論文のクリティーク2	家族・サポートシステムに関連 する研究テーマの可能性と研究 計画試案		論文講読 発表準備	共同	
履修条件	母性看護学特論ⅠおよびⅡを受講済みであること					
教科書・参考図書等	随時紹介する					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況、授業内での発表内容・参加状況等によって総合判断する					

【別紙 1】 旧

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
小児看護学特論 I (看護援助学特論)	M31009	2 (30)	選択	1	前期	教授 濱中喜代
授業概要	乳児期から思春期までの発達理論に基づいた対象の理解のうえで、心理的、身体的、社会的な特徴とその支援方法について、国内外の文献や事例を下に、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる小児とその家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。					
到達目標	1. 小児の対象理解につながる主要な発達理論について説明できる。 2. 小児の心理的・身体的・社会的特徴とその評価および看護について説明できる。 3. 小児と家族を取り巻く社会と健康課題・ヘルスプロモーション・疾病予防について説明できる。 4. 小児の権利擁護について自らの考えを説明できる。					
キーワード	発達理論、心理的・身体的・社会的特徴、健康課題、インフォームドアセント・権利擁護					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリ&小児看護学の対象・目標・アプローチの仕方	講義・履修生の認識・関心の確認		問題意識の 確認	濱中	
2	対象理解：発達理論；エリクソン（自我発達理論）	エリクソン（自我発達理論）に関する文献学修と発表		文献検索と 発表準備	濱中	
3	対象理解：発達理論；ピアジェ（認知発達理論）	ピアジェ（認知発達理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
4	対象理解：発達理論；コールバーグ（道徳性発達理論）	コールバーグ（道徳性発達理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
5	対象理解：発達理論；マラー（分離－固体化理論）	マラー（分離－固体化理論）に関する文献学修と発表		同上	濱中	
6	オレムのセルフケア理論・看護理論	オレムのセルフケア理論・看護理論に関する文献学修と発表		同上	濱中	
7	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：乳児期	乳児期の関連文献の精読と討議		関連文献の 学修・レポー ト作成	濱中	
8	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：幼児期	幼児期の関連文献の精読と討議		同上	濱中	
9	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：学童期・思春期	学童期・思春期の関連文献の精読と討議		同上	濱中	
10	小児と家族を取り巻く社会と健康課題	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
11	小児と家族を取り巻く社会とヘルスプロモーション	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
12	小児と家族を取り巻く社会と疾病予防	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
13	小児関連の制度・政策と社会資源	関連論文・研究の精読と討議		同上	濱中	
14	子どもの権利擁護とインフォームドコンセント・アセント	子どもの権利擁護に関する講義および討議		事後のレポ ート課題	濱中	
15	まとめ	全体に関する質疑応答		まとめのレ ポート作成	濱中	
履修条件	特になし					

【別紙 1】 旧

教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
評価方法	到達目標の達成状況および講義内の参加状況、レポート作成状況等により総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・ 選択の 別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
小児看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31010	2 (30)	選択	1	後期	教授 濱中喜代
授業概要	小児や家族を取り巻く社会環境・状況を踏まえ、心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。また小児と家族とのコミュニケーションスキルおよび多(他)職種連携と協働について学修を進める。さらにヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察する。					
到達目標	①小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助について、子育て支援・虐待予防・災害看護の視点で説明することができる。 ②心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について分析することができる。 ③小児と家族とのコミュニケーションスキルおよび多(他)職種連携と協働について説明することができる。 ④ヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察を深めることができる。					
キーワード	社会環境・状況、コミュニケーションスキル、心理的・身体的健康課題、健康教育					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	オリエンテーション&小児看護学の援助の基本	オリ・講義			関心領域の 整理	濱中
2	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(子育て支援):文献クリティーク	関連文献の精読と討議			資料の学修	濱中
3	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(虐待予防):文献クリティーク	関連文献の精読と討議			同上	濱中
4	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助(災害支援):文献クリティーク	関連文献の精読と討議			同上	濱中
5	心理的・身体的健康課題と看護援助(プレパレーション)	関連文献の精読と討議			同上	濱中
6	心理的・身体的健康課題と看護援助(症状緩和)	関連文献の精読と討議			同上	濱中
7	心理的・身体的健康課題と看護援助(エンドオブライフケア)	関連文献の精読と討議			同上	濱中
8	小児とその家族とのコミュニケーションスキル:理論編	関連文献の精読と討議			同上	濱中
9	小児とその家族とのコミュニケーションスキル:実践編	関連文献の精読と討議			同上	濱中
10	多(他)職種連携と協働:特別支援教育	ゲストスピーカーによる講義			同上	濱中
11	多(他)職種連携と協働:特別支援教育	関連文献の精読と討議			同上	濱中
12	小児看護における教育機能・相談機能	関連文献の精読			同上	濱中
13	小児看護における教育機能・相談機能	関連文献の精読と討議			同上	濱中
14	ヘルスプロモーションに向けての健康教育	関連文献の精読			同上	濱中
15	ヘルスプロモーションに向けての健康教育	関連文献の精読と討議			同上	濱中
履修条件	特になし					

【別紙 1】 旧

教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
評価方法	到達目標の達成状況および演習内の参加状況、レポート作成状況等により総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学演習 I	M31011	2 (30)	選択	1	前期	教授 濱中喜代
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代 講師 下野純平					
授業概要	新生児期から思春期までの健康リスクの高い小児あるいは健康問題を抱えた小児について、国内外の文献や事例分析およびフィールドワークを通して、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、小児看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児期～思春期までの小児の援助理論と実践について関連文献をクリティークし、研究の意義や課題について発表することができる。 2. 関連文献のクリティークをとおして研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法について理解できる。 3. より高度な看護活動の方策について関連研究にあたり、考察を深めることができる。 4. 健康問題を抱えた小児への方策の1つであるフィールドワークをとおして、より高度な看護活動の方策について、考察を深めることができる。 5. 小児と家族の最善の利益にかなう看護について、自らの考えを説明できる。 					
キーワード	小児の援助理論と実践、看護実践の質、看護活動の方策、フィールドワーク、最善の利益					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション	講義・履修生の認識・関心の確認			問題意識の 確認	共同
2	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 新生児期 (文献クリティーク)	新生児期の援助に関する文献学修と発表と討議			論文購読と 発表準備	下野
3	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 乳児期 (文献クリティーク)	乳児期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	下野
4	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 幼児前期 (文献クリティーク)	幼児前期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	下野
5	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 幼児後期期 (文献クリティーク)	幼児後期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
6	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 学童期 (文献クリティーク)	学童期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
7	小児看護学に関する援助理論と実践の検討: 思春期 (文献クリティーク)	思春期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
8	より高度な看護活動の方策についての考察: 事例検討	関連文献の精読と討議			論文購読	下野
9	より高度な看護活動の方策についての考察: 事例検討	関連文献の精読と討議			同上	下野
10	より高度な看護活動の方策の考察: フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加			事前準備学 習	濱中
11	より高度な看護活動の方策の考察: フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加			同上	濱中

【別紙1】旧

12	より高度な看護活動の方策の考察:フィールドワーク(難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加	事後のレポート作成	濱中
13	小児と家族の最善の利益にかなう看護:文献クリティーク・討議	関連論文・研究の精読と討議	論文購読	共同
14	小児と家族の最善の利益にかなう看護:文献クリティーク・討議	関連論文・研究の精読と討議	論文購読	共同
15	まとめ	全体に関する質疑応答	まとめのレポート作成	共同
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する		
評価方法		到達目標の達成状況および演習内の参加状況、レポート作成状況等により総合的に評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学演習Ⅱ	M31012	2 (30)	選択	1	後期	教授 濱中喜代
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代 講師 下野純平					
授業概要	小児とその家族への援助として、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学における研究の動向および課題について説明することができる。 2. 関心領域の最新の文献を系統的に検索し、クリティークできる 3. 自ら取り組むべき研究課題を明らかにし、その意義を説明することができる。 4. 小児看護学における研究倫理を説明することができる。 5. 自らの研究課題に則した研究デザイン、研究計画の試案を作成することができる。 					
キーワード	研究課題、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション&関心領域の言語化	オリ・履修生の関心領域の確認		関心領域の整理	共同	
2	小児看護学に関する研究の動向と課題	講義・文献学修と発表と討議		論文購読と発表準備	共同	
3	小児看護学に関する研究の動向と課題	講義・文献学修と発表と討議		同上	共同	
4	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー	文献学修と発表と討議		同上	共同	
5	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー	文献学修と発表と討議		同上	共同	
6	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー	文献学修と発表と討議		同上	共同	
7	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク	関連文献の精読と討議		論文購読	共同	
8	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク	関連文献の精読と討議		同上	共同	
9	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク	関連文献の精読と討議		同上	共同	
10	小児看護関連の看護実践の分析・評価（事例検討）	看護経験の振り返り・分析		事前レポート作成	濱中	
11	小児看護関連の看護実践の分析・評価（文献クリティーク）	関連文献の精読と討議		論文購読	濱中	
12	小児看護関連の看護実践の分析・評価（文献クリティーク）	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
13	小児看護学領域の研究倫理	講義と討議			濱中	
14	自らの研究テーマの導き出し&研究計画（案）の作成	研究計画の試案作成		試案準備	濱中	
15	自らの研究テーマの導き出し&研究計画（案）の作成	研究計画の試案作成		試案準備	濱中	
履修条件	特になし					

【別紙 1】 旧

教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する
評価方法	到達目標の達成状況および演習内の参加状況、レポート作成状況等により総合的に評価する

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
精神看護学特論 I (看護援助学特論)	MB1013	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田 実
授業概要	精神看護学の成り立ちと発展を理解するために、精神疾患と精神医療の歴史を世界的な動きを背景に日本が辿った歴史の変遷を学修しながら、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築という現在の精神医療政策に至るプロセスを学修する。					
到達目標	①世界と日本における精神医療を比較し考察する。 ②日本におけるメンタルヘルスの置かれている状況を理解できる。 ③精神医療を地域包括ケアに適合させる精神医療政策の概要を理解できる。 ④自身の置かれているフィールドが抱える課題と自身の役割を明確にできる。					
キーワード	精神看護学の成立、精神医療の歴史の変遷（国内外）、OECD 諸国間の精神医療比較、地域包括ケアと精神医療、地域移行と定着、アウトリーチ型精神医療の課題					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神看護学の成立				問題提起と ディスカッション	岡田
2	精神病の概念と治療に関する歴史の変遷 ①	近代以前			同上	岡田
3	” ②	近代以降			同上	岡田
4	メンタルヘルスの概念と歴史の変遷 ①	近代			同上	岡田
5	” ②	現代			同上	岡田
6	精神医療における治療の概念と法制度の歴史	精神病理学の変遷			同上	岡田
7	日本における精神医療保健福祉制度 ①	精神衛生法まで			同上	岡田
8	” ②	宇都宮病院事件			同上	岡田
9	” ③	精神保健福祉法まで			同上	岡田
10	OECD 諸国の精神医療状況と日本の比較	最近のデータを調査する			同上	岡田
11	OECD 諸国における精神保健医療事情 ①	ヨーロッパ			同上	岡田
12	” ②	アメリカ、カナダ			同上	岡田
13	精神障害者に対応する地域包括ケア	政策概要			同上	岡田
14	地域移行と定着を推進する現在の精神医療	問題と課題			まとめ	岡田
15	病院精神医療から地域精神医療への転換	アウトリーチ型の問題と課題			同上	岡田
履修条件	特になし					
教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・松本雅彦著：精神病理学とはなんだろうか、星和書店 ・高木俊介監修：精神障がい者地域包括ケアのすすめ—ACT - K の挑戦〈実践編〉、批評社 ・浅野弘毅著：精神医療論争史、批評社 ・酒井明夫著：こころの科学の誕生、日本評論社 ・高木俊介著：精神医療の光と影、日本評論社 ・同上：こころの医療宅配便—精神科在宅ケア事始、文藝春秋 ・同上：ACT—K の挑戦—ACT がひらく精神医療・福祉の未来 ・立岩真也著：造反有理—精神医療現代史へ、青土社 					

【別紙 1】 旧

成績評価方法	<ul style="list-style-type: none">・問題提起のドキュメンテーションとディスカッションへの参加を評価します。・自身の看護実践課題に関するレポート作成を評価します。・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。
--------	--

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
精神看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31014	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
授業概要	精神疾患に対する多職種アプローチを可能にする各種の介入モデル（生物学的モデル・精神力動モデル・認知行動モデル・社会モデル）を学修する。関連して、精神医療保健福祉の領域において、各種の事例が地域への移行と定着を遂げることに効果のある多職種協働によるチームアプローチを可能にする理論と実践を学修する。					
到達目標	①症例の多様な分析と解釈を可能にする各種の視点があることを理解する。 ②疾患モデル・精神力動モデル・認知講堂モデル・社会モデルの理論と実践を理解する。 ③4つのモデルの照射を切り替えながら事例の分析と解釈を進める視点を理解する。 ④多職種が合同した症例検討場面での看護職の「専門性」を検討することができる。					
キーワード	多職種連携チームアプローチ, 疾患モデル, 精神力動モデル, 認知行動モデル, 社会モデル, 4つのモデルによる多面的な症例検討					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神医療における多職種連携の歴史	精神看護の独自性と専門性とは			問題提起と ディスカッショ ン	岡田
2	多職種連携における精神看護学の基本的立場	調整的な役割			同上	岡田
3	地域移行と多職種連携における精神看護実践 ①	その問題と課題			同上	岡田
4	” ②	その解決策			同上	岡田
5	精神疾患をアセスメントするアプローチ	4つのモデル			同上	岡田
6	疾患モデルによるアセスメント ①	理論的概要			同上	岡田
7	” ②	具体的なプロセス			同上	岡田
8	精神力動モデルによるアセスメント ①	理論的概要			同上	岡田
9	” ②	具体的なプロセス			同上	岡田
10	認知行動モデルによるアセスメント ①	理論的概要			同上	岡田
11	” ②	具体的なプロセス			同上	岡田
12	社会モデルによるアセスメント ①	理論的概要			同上	岡田
13	” ②	具体的なプロセス			同上	岡田
14	4つのモデルと精神看護アセスメントの特徴	実践への適用方法			まとめ	岡田
15	多職種連携における精神看護アセスメントの役割	多職種間の専門的役割			同上	岡田
履修条件		特になし				
教科書・参考図書等		<ul style="list-style-type: none"> ・タイラー, スタインバーグ著, 堀弘明訳: モデルで考える精神疾患, 星和書店 ・原田憲一著: 精神症状の把握と理解—精神医学の知と技, 中山書店 ・村上仁著: 統合失調症の精神症状論, みすず書房 ・ジャネ著, 松本雅彦訳: 被害妄想—その背景の諸感情, みすず書房 ・ファルーン, ファッデン著, 水野雅文ら監訳: インテグレイテッド・メンタルヘルスケア—病院と地域の統合をめざして, 中央法規出版 ・モシャー, ブルチ著, 公衆衛生精神保健研究会訳: コミュニティ・メンタルヘルス, 中央法規出版 				

【別紙 1】 旧

成績評価方法	<ul style="list-style-type: none">・問題提起のドキュメンテーションとディスカッションへの参加を評価します。・自身の看護実践課題に関するレポート作成を評価します。・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。
--------	--

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学演習 I	M31015	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田 実
担当教員 職位・氏名	教授 岡田 実 講師 長南幸恵					
授業概要	ACTや精神科に特化した訪問看護活動などのアウトリーチ方式による先進的な看護実践、および臨床現場が抱える倫理的諸問題を学修しながら、地域包括ケアに基づく地域移行を円滑に実施する方策を検討する。関連して、精神科救急・急性期治療と看護の現況を明らかにしながら、急性期像を複雑にしている自閉症スペクトラムを抱える対象への支援策を、個・家族・地域社会の広がりによって検討する。					
到達目標	①精神医療政策の歴史的変遷をたどり、患者の倫理的処遇基準の確立過程を理解する。 ②精神科救急・急性期の治療と看護に関する理論の到達点と実践の現況を理解する。 ③入院治療中心から地域社会への移行と定着を図る看護実践の現況を理解する。 ④自閉症スペクトラム児への個・家族・地域社会による支援のありようを考える。					
キーワード	患者処遇の倫理的基準, ACTによるアウトリーチ支援, 地域包括ケア, 統合失調症の発病・回復過程, 臨界期の治療と看護, 精神科救急・急性期看護理論と実践, 自閉症スペクトラム児への総合的支援策					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	精神科救急・急性期治療の現状 ①	「改革ビジョン」まで		問題提起と ディスカッ ション	岡田	
2	〃 ②	「在り方検討会」以降		同上	岡田	
3	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ①	患者処遇改革の変遷		同上	岡田	
4	〃 ②	社会的入院への取り組み		同上	岡田	
5	〃 ③	訪問看護による看護実践		同上	岡田	
6	〃 ④	ACTによる看護実践		同上	岡田	
7	〃 ⑤	地域包括ケアの看護実践		同上	岡田	
8	精神科救急・急性期治療と看護の理論および実践 ①	中井久夫の統合失調症発病過程		同上	岡田	
9	〃 ②	中井久夫の統合失調症寛解過程		同上	岡田	
10	〃 ③	中井久夫の臨界期治療原則		同上	岡田	
11	〃 ④	阿保による精神構造モデル		同上	岡田	
12	〃 ⑤	精神構造モデルによる看護実践		同上	岡田	
13	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ①	急性期対応		問題提起と ディスカッ ション	長南	
14	〃 ②	家族対応		同上	長南	

【別紙 1】 旧

15	//	③	学校・地域社会対応	同上	長南
履修条件	特になし				
教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省による精神保健医療福祉政策に関する各種の資料 ・中井久夫著：統合失調症 1・2, みすず書房, ・阿保順子・佐久間えりか編：統合失調症急性期看護マニュアル, すぴか書房 ・M.F.Ward 著, 阿保・田崎・岡田ら訳：精神科臨床における救急場面の看護, 医学書院 ・岡田実著：暴力と攻撃への対処—精神科看護の経験と実践知, すぴか書房 ・阿保順子編著：回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期ケア, 精神看護出版 ・星野弘：分裂病を耕す, 日本評論社 ・横田泉：統合失調症の回復とはどういうことか, 日本評論社 ・Martin F. Ward: Nursing the Psychiatric Emergency, Butterworth & Heinemann, 1995 ・D. Antai-Otong: Psychiatric Emergencies; How to accurately assess and manage the patient in crisis. PESIHealth Care, 2004 ・T. Mason & M.Chandley: Managing violence and aggression: A manual for nurses and health care workers, Churchill Livingstone, 1999 ・J. Morrissey & P. Callaghan: Communication skills for mental health nurses, Open University Press, 2011 ・P. Callaghan: Emergencies in mental health nursing, Oxford University Press, 2012 ・田中康雄著：生活障害として診る発達障害臨床, 中山書店 ・内海健著：自閉症スペクトラムの精神病理, 医学書院 ・高岡健著：やさしい発達障害論, 批評社 				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起のドキュメンテーションとディスカッションへの参加を評価します. ・自身の看護実践課題に関するレポート作成を評価します. ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます. 				

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学演習Ⅱ	M31016	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田 実
担当教員 職位・氏名	教授 岡田 実 講師 長南幸恵					
授業概要	事例研究や症例研究をまとめ記述する方法を学修し、その方法に基づいて各自が抱えている事例をレポートし、各事例が抱える問題の解決策を互いに検討しながら、より効果的な介入策を実施する具体策を組み立てる。関連して、精神医療における専門多職種による事例研究や症例研究に学びながら、チームアプローチの在り方を学修する。					
到達目標	①臨床における症例報告の果たす役割を知る。 ②臨床実践のエビデンスを学術論文から裏づける方法を理解する。 ③他の専門職者による臨床報告を抄読しながら、チームアプローチに効果的な「共通言語」を検討することができる。 ④自験例を用いて一定の手法とルールに基づいて臨床報告を行い、他のメンバーから批評を受けることができる。					
キーワード	症例報告の作成、症例報告の発表等、学術論文の検索方法、文献検討、事例検討と症例報告、他職種による症例報告、専門多職種間の共通言語、					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	精神科症例報告の書き方 ①	症例報告を記述する意味			問題提起と ディスカッション	岡田
2	” ②	症例報告の構成			同上	岡田
3	” ③	症例報告の記述方法とルール			同上	岡田
4	” ④	症例報告再生の注意点			同上	岡田
5	症例報告に必要な文献検討の方法 ①	医中誌, CiNii, PubMed, CINAHL の使い方			同上	長南
6	” ②	文献検討と先行研究の要約			同上	長南
7	” ③	症例報告作成とプレゼンテーション			同上	長南
8	事例検討の取組みと看護実践への活用 ①	事例検討と症例報告の違い			同上	岡田
9	” ②	両者の看護実践への貢献			同上	岡田
10	臨床医による症例報告の抄読 ①	統合失調症, 感情障害など			同上	岡田
11	” ②	発達障害圏, 認知症, PTSD など			同上	岡田
12	他職種による症例報告の抄読 ①	臨床心理士, 薬剤師など			同上	長南
13	” ②	OT, PSW など			同上	長南
14	症例報告を作成し発表する ①	自験例の症例報告作成			まとめ	共同
15	” ②	自験例の発表とディスカッション			同上	共同
履修条件	特になし					

【別紙 1】 旧

教科書・参考図書等	<ul style="list-style-type: none">・仙波純一著：精神科症例報告の上手な書き方，星和書店・福田正人編著：精神科の専門家をめざす，星和書店・青木省三著：精神科臨床ノート，日本評論社・『精神科治療学』（星和書店）に掲載されている各種症例報告・『精神医学』（医学書院）に掲載されている各種症例報告
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none">・問題提起のドキュメンテーションとディスカッションへの参加を評価します。・自身の看護実践課題に関するレポート作成を評価します。・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護管理学特論Ⅰ (看護部署管理論)	M41001	2 (30)	選択	1	前期	教授 伊藤 収
授業概要	認定看護管理者教育課程ファーストレベルで求められる看護管理者に必要とされる、基本的な知識・技術・態度と看護の組織運営について、病棟・外来等の「部署管理」の観点を中心に学びつつ、看護の利用者と直接に関わる看護師長職・師長補佐職の管理対応を確認しつつ、さらに所属看護師等の相談への応需についても学修する。加えて、フローレンス・ナイチンゲールの著作の中から「看護管理」に該当する部分等を資料として、看護管理の歴史的展開についても学修する。					
到達目標	看護管理の歴史的経緯が理解できる 医療機関における部署管理が概観できる 人材育成に関する原則が理解できる					
キーワード	ナイチンゲール、部署管理、人材育成					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護管理の歴史的な理解 (その1) フローレンス・ナイチンゲールの著作の中から「看護管理」に関するものを学習する	文献に基づき、ナイチンゲールの看護管理観に迫る講義を実施する		文献の学習	伊藤	
2	看護管理の歴史的な理解 (その2) 前回の授業資料と履修生の実際とを比較し討議する	前回の講義に基づく討議		討議準備	伊藤	
3	部署管理とは (その1) 医療機関における看護師長の役割	資料に基づく講義		資料の学修	伊藤	
4	部署管理とは (その2) 前回の授業をふまえた履修生からの「実際」についてプレゼンテーションを行う	履修生のプレゼンテーション		プレゼンの準備	伊藤	
5	部署管理とは (その3) 前2回の授業をふまえて「部署管理」について討議し、看護組織におけるリーダーシップとメンバーシップの構造を理解する。	前2回を受けての討議		討議準備	伊藤	
6	部署管理方法論① 安全管理	資料に基づく講義		資料の学修	伊藤	
7	部署管理方法論② 人材育成	資料に基づく講義 (高校対応から院内育成まで)		資料の学修	伊藤	
8	部署管理方法論③ 情報管理	資料に基づく講義 (希望があれば「SNS 対応」についても授業する)		資料の学修	伊藤	
9	部署管理方法論④ チームマネジメント	資料に基づく講義 (講義5との関連講義を行う)		資料の学修	伊藤	
10	部署管理方法論⑤ カンファレンスの進行とファシリテーションについて	資料に基づく講義		資料の学修	伊藤	
11	部署管理方法論⑥ 実践報告 前記①から⑤について、履修生の希望にて「実践改善」についてプレゼンテーションを行う	履修生のプレゼンテーション		プレゼンの準備	伊藤	

【別紙1】旧

12	部署管理方法論⑦ 前回の報告についての討議 前回の授業をふまえて①から⑤についての「実践改善」について討議する	前回を受けての討議	討議準備	伊藤
13	看護部を構成する「部署管理」の意味 医療機関における「部署管理」の本質に迫る	前回の討議からの意味抽出	討議準備	伊藤
14	看護師長が担う委員会業務等 看護師長の立場からの委員会業務改善を考察する	資料に基づく講義	資料の学修	伊藤
15	本論のまとめと評価レポートの提示	全体に関する質疑応答	質問等の準備	伊藤
履修条件	認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護師長以上の看護管理経験者が望ましい。			
教科書・参考図書等	履修希望者へのオリエンテーション時にて指定する。可能なかがり「大学図書館所蔵図書」・「履修生の所持図書」を用いる。			
成績評価方法	評価レポート（100%）			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	担当教員 職位・氏名
看護管理学演習	M41004	2 (30)	選択	1	後期	教授 伊藤 収
担当教員 職位・氏名	教授 伊藤 収 准教授 土田 幸子					
授業概要	看護管理特論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の学修の中から、履修生の実際に即したレベルでの看護管理課題を見出し、その改善計画の立案を、下記①～⑥に基づいて行う。①資料・文献類のクリティーク、②組織分析と計画策定の妥当性。③動機や目的の根拠となるものの客観性、④方法と期待される成果の現実性、⑤改善計画案の文章とし完成度と目的との整合性、⑥パワーポイント等を用いた理解しやすいプレゼンテーションの実施。					
到達目標	部署内の諸業務の改善計画の策定について理解できる 看護部内の「教育・情報・研究・人事」等の委員会活動の運営と改善について理解できる 経営への参画について理解できる 対外組織（地方公共団体・看護教育機関・看護協会）との協働について理解できる					
キーワード	業務改善、委員会活動、対外協力					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護部内の改善論① 部署（病棟・外来・訪問）などでの業務管理・安全管理・人事管理の中から履修生の希望によって	履修生の作成した資料・プレゼンテーションを基にした討議など		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
2	看護部内の改善論② 文献等から自己の客観化を図る	前回の授業の経過から改善につながる文献等をクリティークする		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
3	看護部内の改善論③ 改善の方向性を見いだす	前2回の授業を受けて、具体的・現実的な改善計画を模索する		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
4	看護部内の改善論④ 改善計画の策定	前3回の授業のまとめとして 当該部署の改善計画を策定する		資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤	
5	看護部内の改善論⑤ プレゼンテーション	パワーポイントを用いたプレゼンテーション		プレゼンテーション準備	共同	
6	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言① (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	現状分析と改善点を見いだす		資料の学習 履修生のプレゼン準備	共同	
7	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言② (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	前回に見いだした改善点の資料となる文献等の検討		履修生のプレゼン準備	共同	
8	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言③ (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	改善計画の策定		履修生のプレゼン準備	共同	

【別紙 1】 旧

9	医療機関内における教育制度・研究活動・情報管理への改善提言④ (履修生の希望により上記の3部門から1つを選択して)	策定した計画についてのクリティーク	前回の意見を資料化する	共同
10	地域医療の中でのニード①	ニードを見いだすための情報収集の仕方・看護部としての広報活動、オープンホスピタルについて	資料の学習 履修生のプレゼン準備	伊藤
11	地域医療の中でのニード②	前回の授業を基に把握した地域ニードを院内運営会議・経営会議へ提言する	履修生のプレゼン準備	伊藤
12	地域医療の中でのニード③ プレゼンテーション	前回の提言についてパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行う	プレゼンテーション準備	伊藤
13	実践看護管理の発展① (看護科学の担い手としての看護管理者)	看護管理の看護科学的側面について討議する	資料の学習	伊藤
14	実践看護管理の発展② (看護哲学の担い手としての看護管理者)	看護管理の看護哲学的側面について討議する	資料の学習	伊藤
15	まとめ 看護管理・看護管理者とは何か 評価レポートの提示	看護管理学特論 ((I・II・III)も含めて、学習全体の総括を行う	質問・意見の準備	伊藤
履修条件		認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護師長以上の看護管理経験者が望ましい		
教科書・参考図書等		履修希望者へのオリエンテーション時にて指定する。可能なかがり「大学図書館所蔵図書」・「履修生の所持図書」を用いる		
成績評価方法		評価レポートにて100%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講時期
看護学特別研究	M51001	8 (120)	必修	2	通年
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代、勝野とわ子、江守陽子、菊池和子 岡田 実、伊藤 收、鈴木るり子 准教授 木内千晶、土田幸子 講師 石井真紀子、長南幸恵、相澤 出、下野純平 助教 大谷良子、佐藤 恵				
授業概要	研究対象とした看護学領域における特定の研究課題を抽出し、それに関連した国内外の先行研究の文献検索を実施する。文献の精読、検討を通し、自分の研究課題を解決するための研究デザインを考え、研究計画書を作成する。研究開始にあたっては、倫理的問題に配慮しながらデータ収集・分析・結果をまとめる。論文構成は、序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論とする。さらに研究の成果を公表する手段として、プレゼンテーションを実施し、他者からの評価を受ける。				
到達目標	1. 探求したい研究課題に関して、研究デザインを決定できる 2. 研究課題を解明するに適切な研究方法を選択し、倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる 3. 対象者に倫理的配慮をしたうえで適切な手順でデータを収集し、客観的・科学的に分析できる 4. 研究結果を記述し、客観的・科学的な考察を加えて論文を作成できる 5. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について説明できる 6. 研究成果を口頭で報告できる				
キーワード	研究デザイン、研究計画、研究倫理審査、論文作成、プレゼンテーション				
授 業 計 画					
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法		授 業 前 後 の 学 習	担 当
1～ 4	研究課題の決定	研究課題を決定し、文献検討から、研究背景を明らかにする 1. 先行研究・文献検討 2. 研究枠組み検討		授業前後の学修に必要な内容については適時助言する	各教員
5～ 8	研究方法の検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成		同 上	各教員
9～ 12	研究デザインの検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成		同 上	各教員
13 ～ 16	データ収集方法の検討	研究の目的・意義に沿って、以下を明確にする 1. 研究方法/研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法 2. アンケート、インタビューガイド等の作成		同 上	各教員

【別紙1】旧

17 ～ 20	研究の倫理的配慮・手続きの検討	研究の倫理的配慮・手続きの方法を明確にする 1. 安全性の確保（予想される有害現象と対策） 2. 人権・プライバシー保護に関する配慮 3. 研究依頼に関する検討（研究協力者・施設長への依頼文書の作成等）	同 上	各教員
21 ～ 24	具体的なデータ収集方法の検討 （質問紙作成、インタビューガイド作成など、プレテスト）	1. 質問項目作成、インタビューガイド作成 2. プレテスト	同 上	各教員
25 ～ 28	研究計画書の作成	計画書作成	同 上	各教員
29 ～ 32	倫理審査委員会提出書類の作成・申請	申請書作成 申請手続きに則り申請する（必要時）	同 上	各教員
33 ～ 36	データ収集・整理	倫理的問題に配慮しながら、計画どおりデータ収集・整理・分析を行う	同 上	各教員
37 ～ 40	データ収集・整理	倫理的問題に配慮しながら、計画どおりデータ収集・整理・分析を行う	同 上	各教員
41 ～ 44	データ分析 研究デザインに応じたデータ作成	データの分析・図表作成を行う	同 上	各教員
45 ～ 48	修士論文の作成	得られたデータを分析し結果をまとめ考察する	同 上	各教員
49 ～ 52	修士論文の作成	得られたデータを分析し結果をまとめ考察する 序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論 について文章化する	同 上	各教員
53 ～ 56	口頭発表準備	プレゼンテーションの準備をし、実施する	同 上	各教員
57 ～ 60	発表と評価	評価を受け、より完成度の高い論文に修正する	同 上	各教員
履修条件		専門科目 8 単位以上修得済みであること		
教科書・参考図書等		特に指定しない アメリカ心理学会（APA）著、前田樹海ほか訳 : APA 論文作成マニュアル 医学書院		
成績評価方法		作成された論文内容を以下の基準で審査する 1. 研究内容が看護学に寄与するものである 2. 研究の意義・目的・方法が明確・適切である 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書が作成されている 4. データが客観的・科学的に分析されている 5. 研究成果を口頭で報告することができる		